

令和4年度

全国体力・運動能力，運動習慣等調査

鹿児島県結果分析



令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

1 調査の目的

全国体力・運動能力、運動習慣等調査は、子どもの体力等の状況に鑑み、全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的にスポーツ庁が実施しているものです。

2 調査の結果について

本調査結果は、実技調査8項目、及び運動習慣等の質問紙調査による体力等の特定の一部を示したものであり、児童・生徒の体力や生活習慣、食習慣、運動習慣の状況を把握し、体育・健康に関する指導の改善に役立ててもらえるものです。

目 次

○ 県全体の調査結果(公立)	1
1 実技に関する調査結果概要	2
2 運動習慣等に関する調査結果概要	5
3 生活習慣等に関する調査結果概要	7
4 運動やスポーツ、体育・保健体育の授業に関する調査結果概要	9
5 学校における体力向上のための取組に関する調査結果概要(学校質問紙)	14
6 全体考察	17
7 改善のポイント	19

県全体の調査結果〔公立〕

本県の調査実施状況

1 調査の期間

令和4年4月～7月末

2 調査の概要

- 調査方法：悉皆調査
- 対象学年：小学校第5学年，特別支援学校小学部第5学年
中学校第2学年，特別支援学校中学部第2学年
※ 小・中学校にはそれぞれ義務教育学校を含む。
- 調査事項
 - 児童生徒に関する調査
 - ・ 実技に関する調査：小・中学校ともに8項目の実技調査
① 握力 ②上体起こし ③長座体前屈 ④反復横とび
⑤ 20mシャトルラン（中学校は持久走との選択）
⑥ 50m走 ⑦立ち幅とび ⑧ ボール投げ
 - ・ 運動習慣や生活習慣，運動への興味・関心等に関する調査
 - 学校に対する質問紙調査
 - ・ 子どもの体力・運動能力，運動習慣等の向上に係る取組等に関する調査

3 本県調査参加校及び参加児童生徒数

- 小 学 校：475校 14,431人
- 中 学 校：219校 13,400人
- 計 694校 27,831人

※ 小学校，中学校にはそれぞれ義務教育学校，特別支援学校を含む。

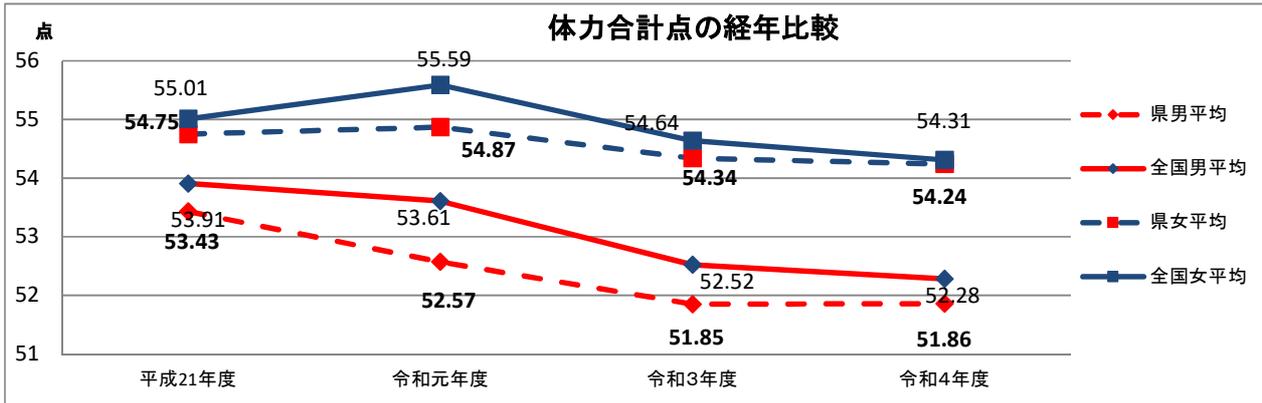
1 実技に関する調査結果概要

(1) 本県の体力合計点に関する調査の結果

ア【小学校】

小学校		平成21年度			令和元年度			令和3年度			令和4年度		
		県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差
5年男子	5年男子	53.43	53.91	-0.48	52.57	53.61	-1.04	51.85	52.52	-0.67	51.86	52.28	-0.42
	5年女子	54.75	55.01	-0.26	54.87	55.59	-0.72	54.34	54.64	-0.30	54.24	54.31	-0.07

※ 体力合計点考察コメント(スポーツ庁)
 ±1点以上:高(低)い ±0.5~1点未満:わずかに高(低)い ±0.5点未満:ほとんど差がない



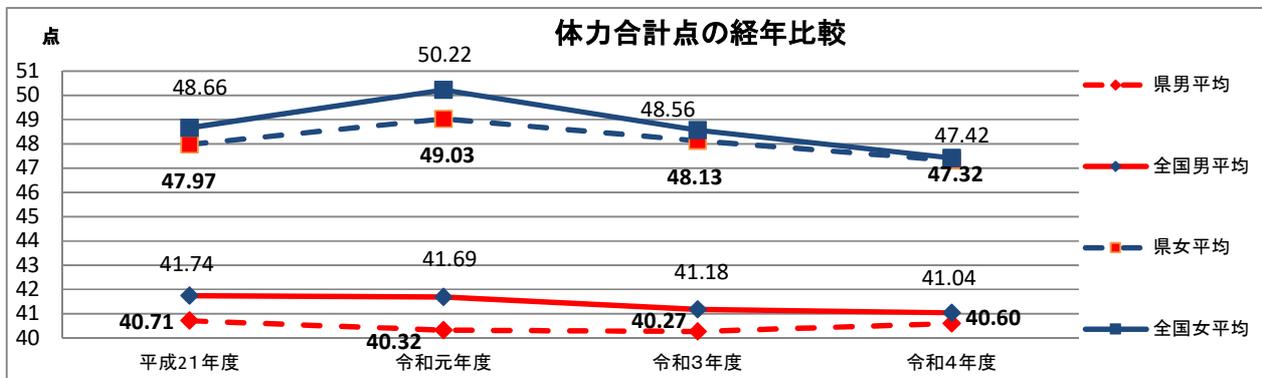
〈現状〉

- 全国平均と比較すると、男女ともに「ほとんど差がない」結果となった。
- 令和3年度との比較において、県男子はほぼ変わらず、全国男女、県女子は低くなった。
- 全国は男女とも、調査開始以降で最も低くなり、本県は男子が2番目に低い数値となった。
- 県平均と全国平均との差については、男女ともに令和3年度より縮まっている。

イ【中学校】

中学校		平成21年度			令和元年度			令和3年度			令和4年度		
		県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差
2年男子	2年男子	40.71	41.74	-1.03	40.32	41.69	-1.37	40.27	41.18	-0.91	40.60	41.04	-0.44
	2年女子	47.97	48.66	-0.69	49.03	50.22	-1.19	48.13	48.56	-0.43	47.32	47.42	-0.10

※ 体力合計点考察コメント(スポーツ庁)
 ±1点以上:高(低)い ±0.5~1点未満:わずかに高(低)い ±0.5点未満:ほとんど差がない



〈現状〉

- 全国平均と比較すると、男女ともに「ほとんど差がない」結果となった。
- 令和3年度との比較において、県男子は高くなり、全国男女、県女子は低くなった。
- 全国は男女とも、調査開始以降で最も低くなり、本県は女子が3番目に低い数値となった。
- 県平均と全国平均との差については、男女ともに令和3年度より縮まっている。

(2) 体力合計点の度数分布

体力合計点の度数分布のグラフについて

※ 体力合計点の総合評価は、実技項目(8項目)の記録を、1点から10点に得点化し、その8項目の合計点をA, B, C, D, Eの段階に区分したものです。

○小学校 A:65以上 B:58~64 C:50~57 D:42~49 E:41以下

○中学校 A:57以上 B:47~56 C:37~46 D:27~36 E:26以下

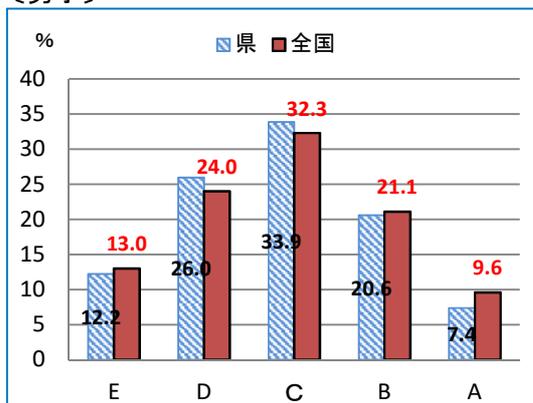
※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示しています。

※ 体力合計点考察コメント(スポーツ庁)

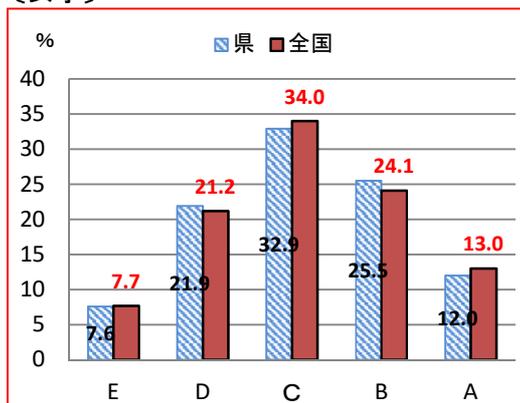
±1点以上:高(低)い ±0.5~1点未満:わずかに高(低)い ±0.5点未満:ほとんど差がない

ア【小学校】

[男子]

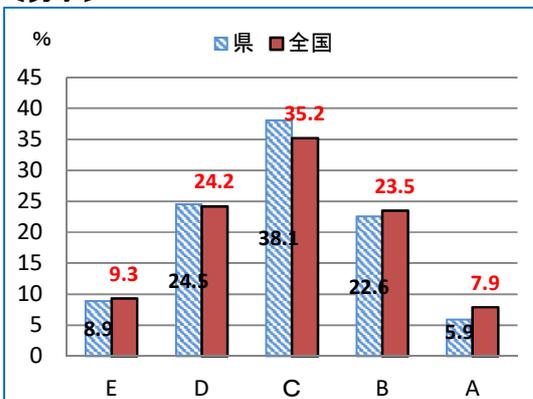


[女子]

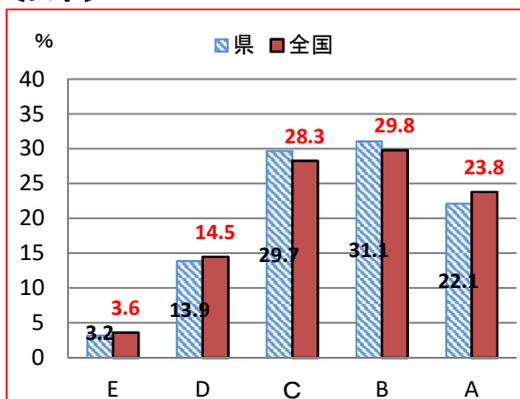


イ【中学校】

[男子]



[女子]



〈現状〉

【小学校】

○ 男子は、C, Dの割合が全国よりも高く、Aの割合が全国より低い。

○ 女子は、Dの割合が全国よりもわずかに高く、Aの割合が全国より低い。また、Bの割合は全国より高い。

【中学校】

○ 男子は、Cの割合が全国よりも高く、Aの割合が全国より低い。また、Bの割合は全国よりわずかに低い。

○ 女子は、Cの割合が全国よりも高く、Aの割合が全国より低い。また、Bの割合は全国より高い。

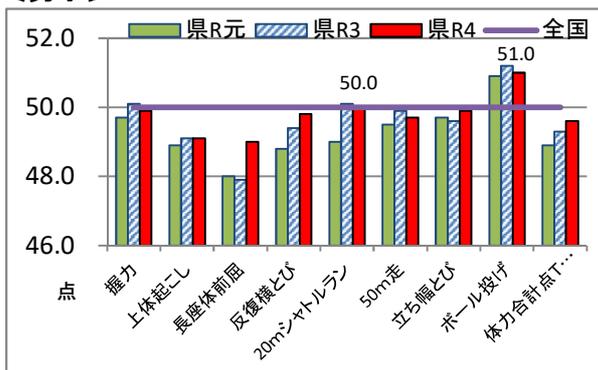
(3) 各実技調査項目のT得点結果について

各実技調査項目のグラフについて

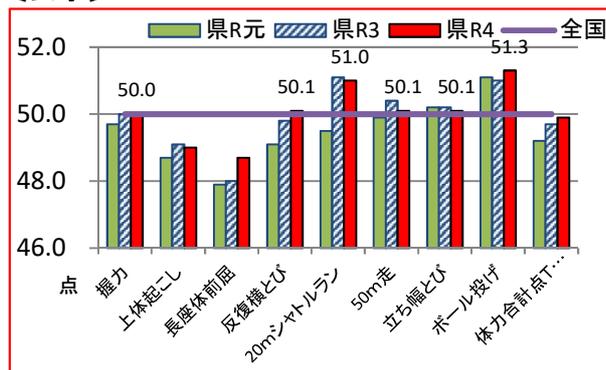
- ※ 実技調査項目は、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン(中学校は、持久走との選択)、50m走、立ち幅とび、ボール投げの8項目、及び体力合計点のT得点を示したものです。
- ※ T得点とは、全国平均値に対する相対的な位置を示し、単位や標準偏差が異なる調査結果を比較するものです。平均値50点、標準偏差10点の標準得点。「T得点=50+10×(調査結果-平均値)/標準偏差」で算出します。
- ※ グラフ上の50.0の目盛り線は、全国のT得点を表しています。

ア【小学校】

〔男子〕

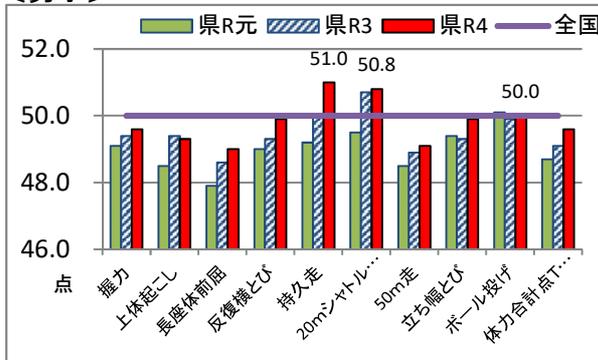


〔女子〕

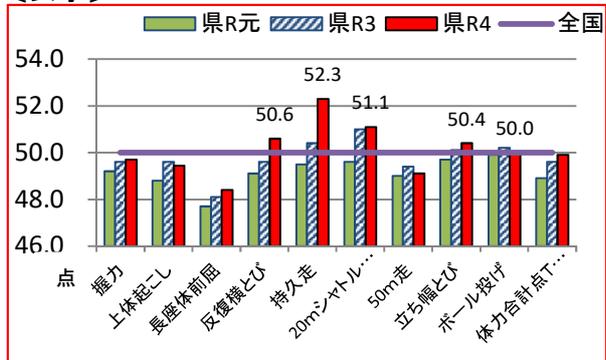


イ【中学校】

〔男子〕



〔女子〕



〈現状及び課題〉

【小学校】

- T得点50以上の項目は、握力(女子)、反復横とび(女子)、20mシャトルラン(男女)、50m走(女子)、立ち幅とび(女子)、ボール投げ(男女)である。
- 令和3年度より向上した項目数は、男女ともに3項目である。
- T得点49以下の項目については、男子が1項目、女子が2項目である。長座体前屈については、男女ともに7年連続T得点49以下であり、柔軟性に課題がある。

【中学校】

- T得点50以上の項目は、反復横とび(女子)、持久走(男女)、20mシャトルラン(男女)、立ち幅とび(女子)、ボール投げ(男女)である。
- 令和3年度より向上した項目数は、男子が7項目、女子が5項目である(持久走と20mシャトルランについては、どちらかを実施することとなっているため、同一項目としてカウントしている)。
- 長座体前屈のT得点は、男女ともに6年連続して49以下であり、柔軟性に課題がある。

2 運動習慣等に関する調査結果概要

運動時間(曜日別)グラフについて

※ 運動時間は、学校の体育の授業(保健体育)の授業以外で運動(体を動かす遊びを含む※注)やスポーツをした時間です。

※ グラフの横軸は、曜日を示しています。

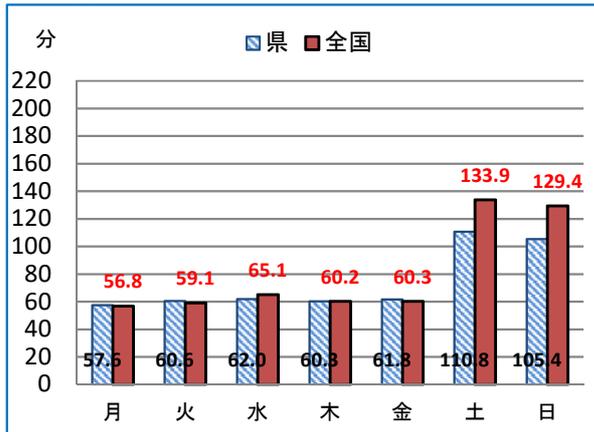
※ グラフの縦軸は、それぞれの運動時間(分)を示しています。

※ (体を動かす遊びを含む)の文言は、平成26年度の質問から追加

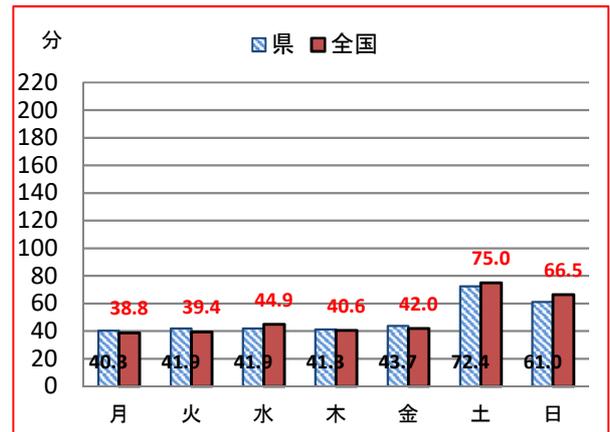
(1) 運動時間に関する調査の結果

ア【小学校】

〔男子〕

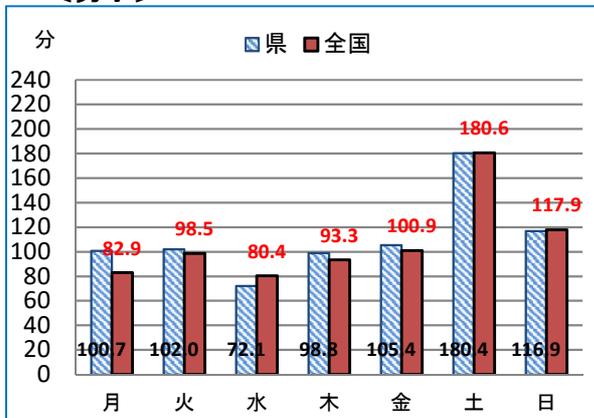


〔女子〕

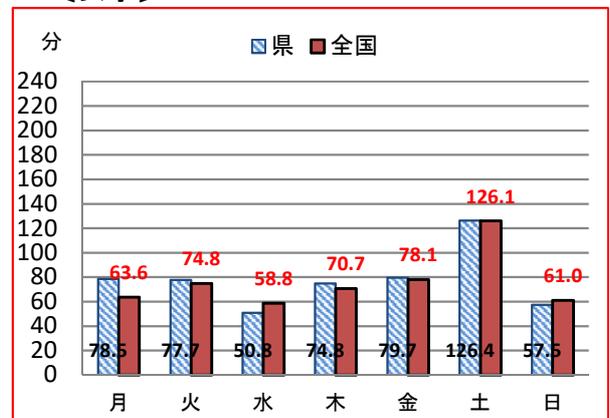


イ【中学校】

〔男子〕



〔女子〕



〈現状〉

【小・中学校共通】

- 男女ともに平日の水曜日を除き、全国より長いかほとんど差が見られない。
- 男女ともに水曜日は、全国より短い。

【小学校】

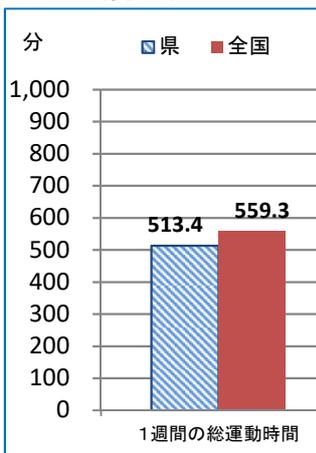
- 土・日曜日は全国より短い。特に、男子の差が大きい。

【中学校】

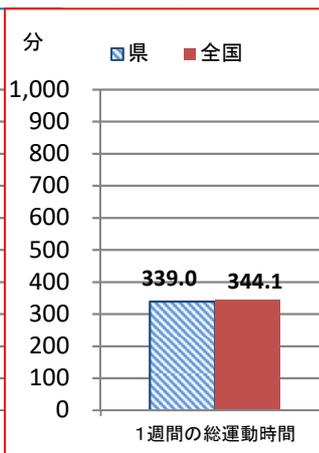
- 土・日曜日は、男女とも全国とほとんど差が見られない。

(2) 1週間の総運動時間に関する調査の結果

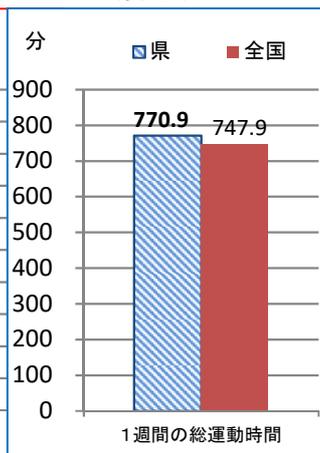
ア【小学校】
〔男子〕



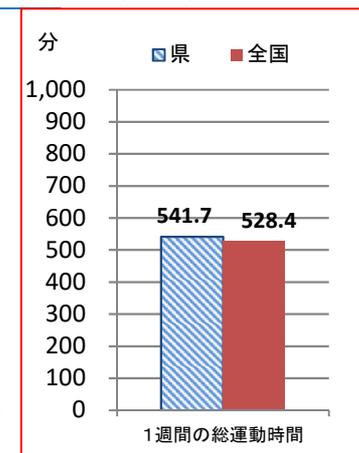
〔女子〕



イ【中学校】
〔男子〕



〔女子〕



〈現状〉

【小学校】

○ 男子は、全国より短く、女子は全国とほとんど差がない。

【中学校】

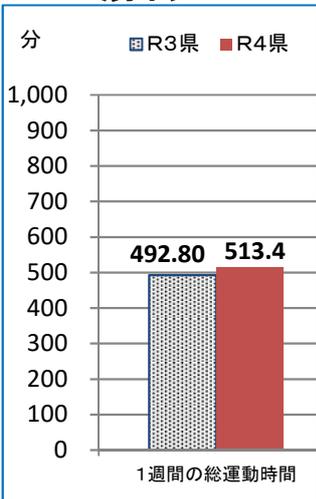
○ 男子は、全国よりわずかに長く、女子は全国とほとんど差がない。

※ 1週間の総運動時間(分)の考察コメント(スポーツ庁)

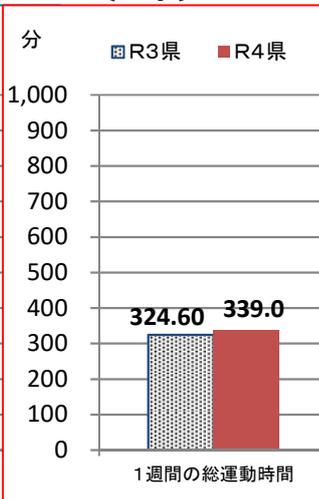
±35分以上:長(短)い ±21分~±35分未満:わずかに長(短)い ±21分未満:ほとんど差がない

(3) 1週間の総運動時間に関する調査の結果(令和3年度との比較)

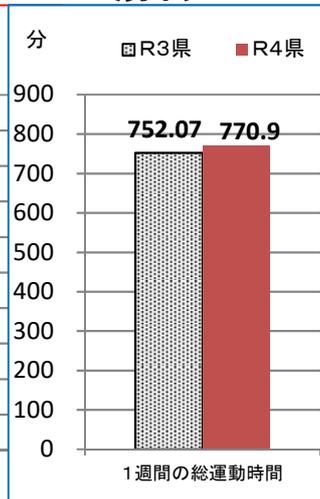
ア【小学校】
〔男子〕



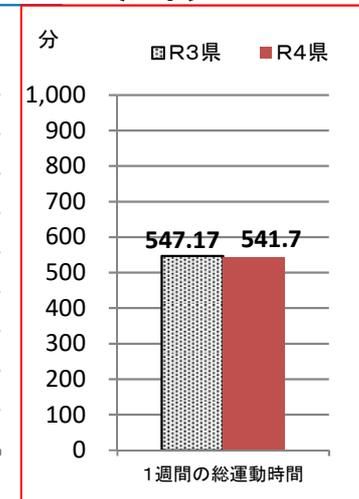
〔女子〕



イ【中学校】
〔男子〕



〔女子〕



〈現状〉

【小・中学校共通】

○ 令和3年度と比較すると、男女ともにほとんど差がない。

○ 令和3年度と比較すると、中学校女子のみ低下している。

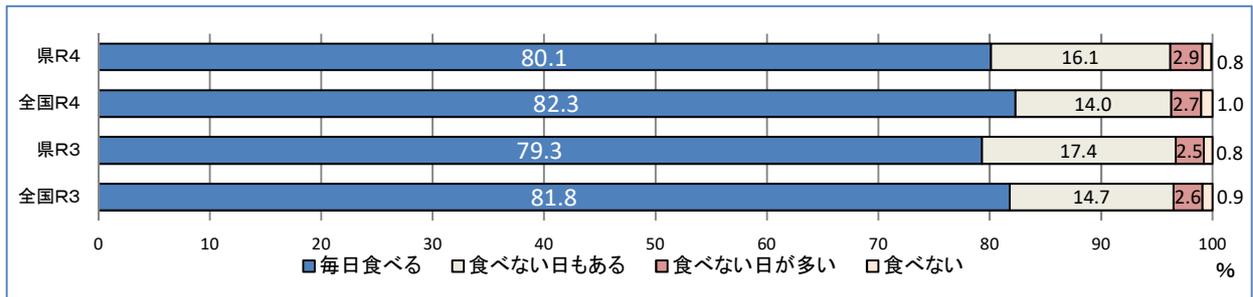
3 生活習慣等に関する調査結果概要

(1) 朝食の摂取状況(学校が休みの日も含める)に関する調査の結果

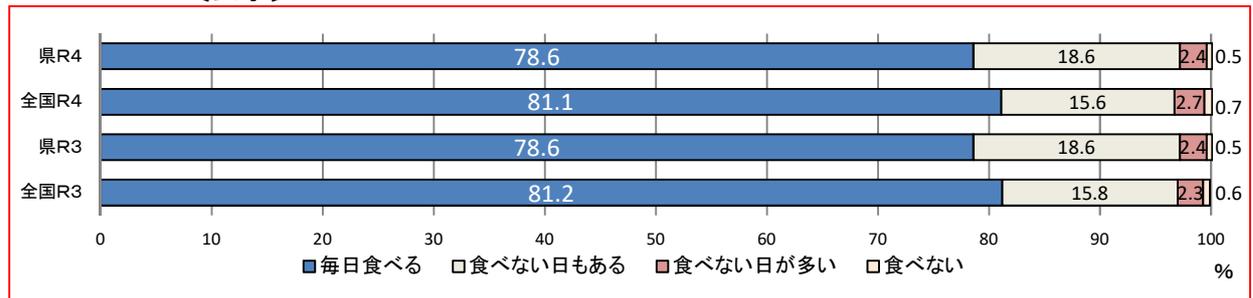
※ 質問紙調査考察コメントの基準(スポーツ庁)

±2%以上:高(低)い ±1%~±2%未満:わずかに高(低)い ±1%未満:ほとんど差がない

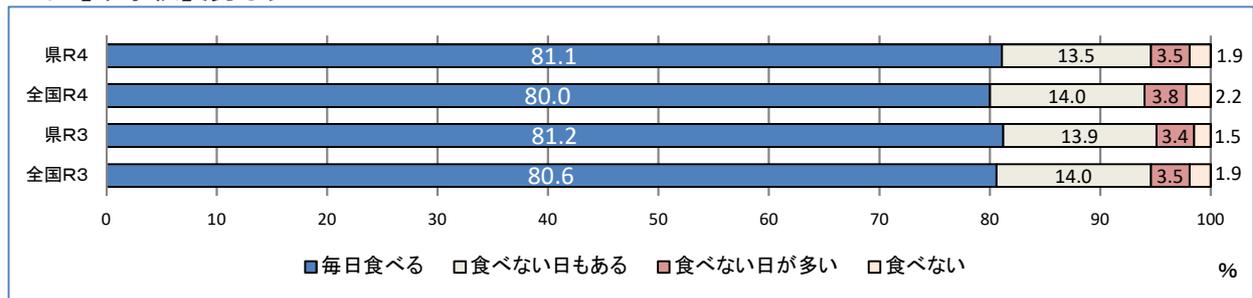
ア【小学校】[男子]



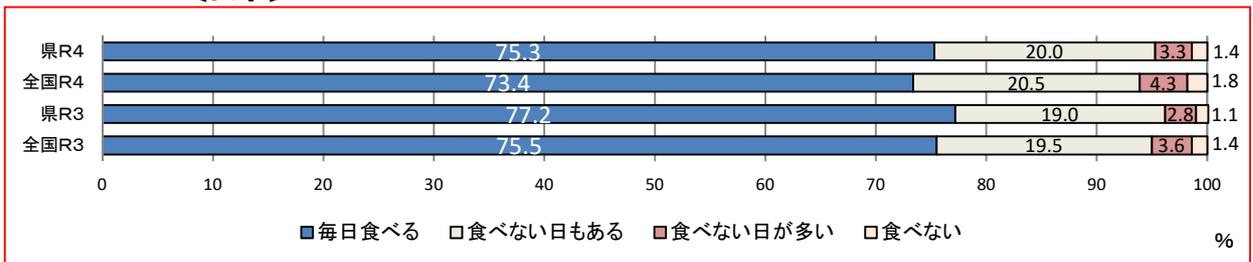
[女子]



イ【中学校】[男子]



[女子]



〈現状〉

【小学校】

- 朝食を「毎日食べる」と回答した割合を全国平均と比較すると、男女とも低い。
- 県の令和3年度平均と比較すると「毎日食べる」と回答した割合は、男女ともにほとんど差がない。

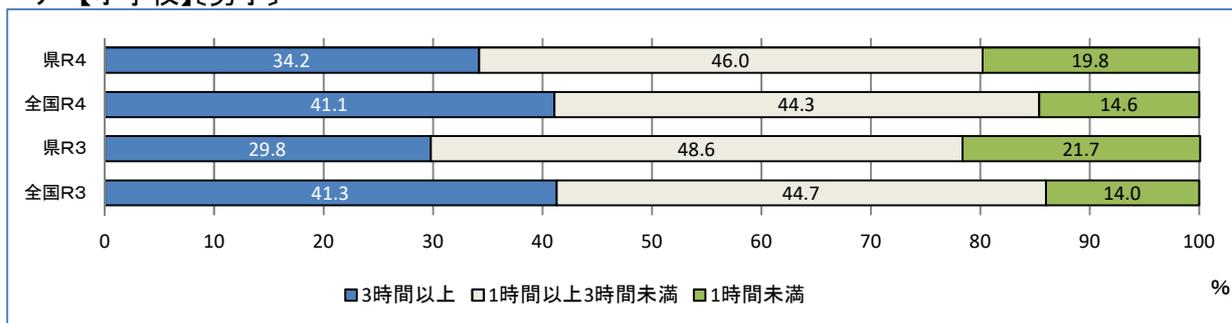
【中学校】

- 朝食を「毎日食べる」と回答した割合を全国平均と比較すると、男女ともにわずかに高い。
- 県の令和3年度平均と比較すると「毎日食べる」と回答した割合は、男子はほとんど差がなく、女子はわずかに低くなっている。

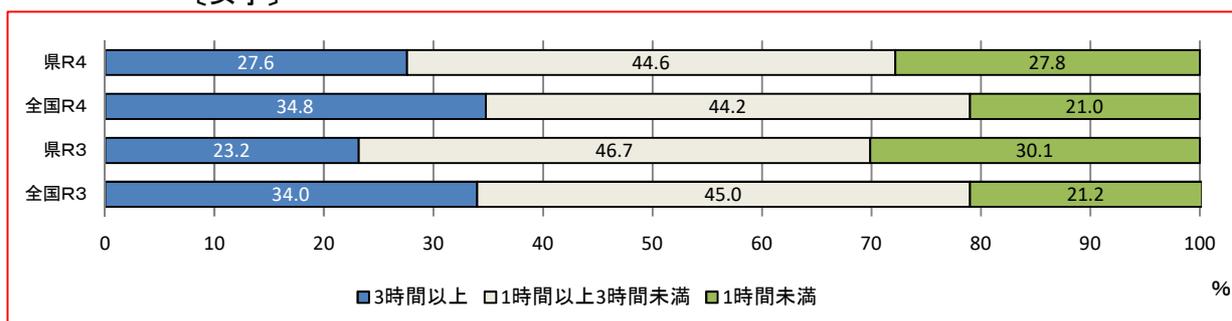
(2) 平日のスクリーンタイムに関する調査の結果

※ スクリーンタイム…平日1日当たりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機等による映像の視聴時間

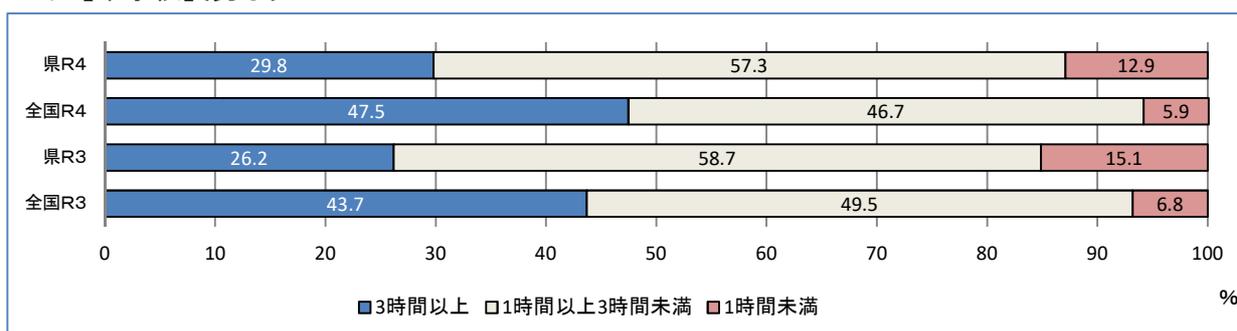
ア 【小学校】〔男子〕



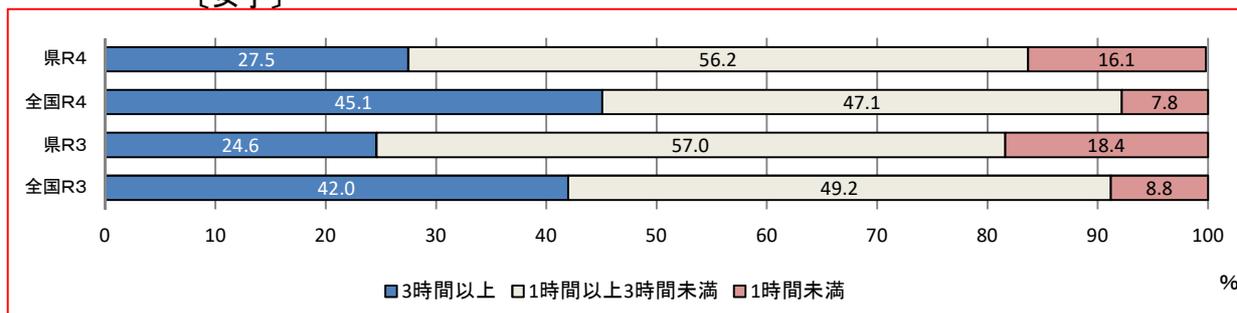
〔女子〕



イ 【中学校】〔男子〕



〔女子〕



〈現状〉

【小・中学校】

- スクリーンタイムが「3時間以上」と回答した割合を全国平均と比較すると、男女ともに低い。
- 県の令和3年度平均と比較すると、「3時間以上」と回答した割合は、男女ともに高くなっている。

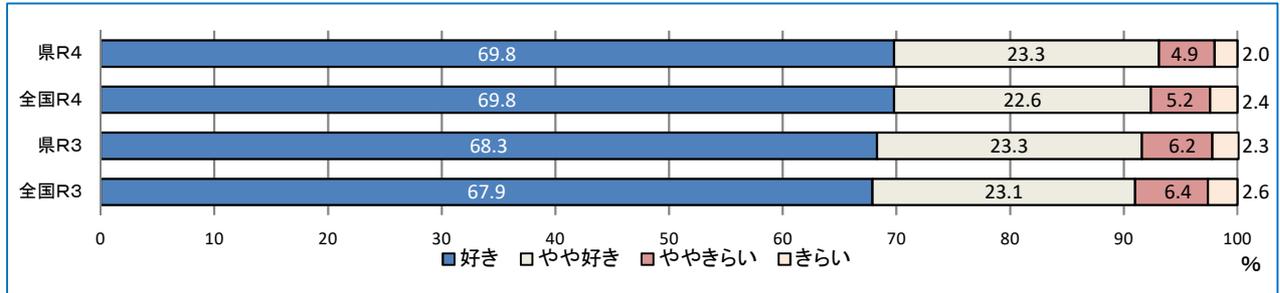
4 運動やスポーツ, 体育・保健体育の授業に関する調査結果概要

(1) 調査項目「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることが好き・きらい。」に関する調査の結果

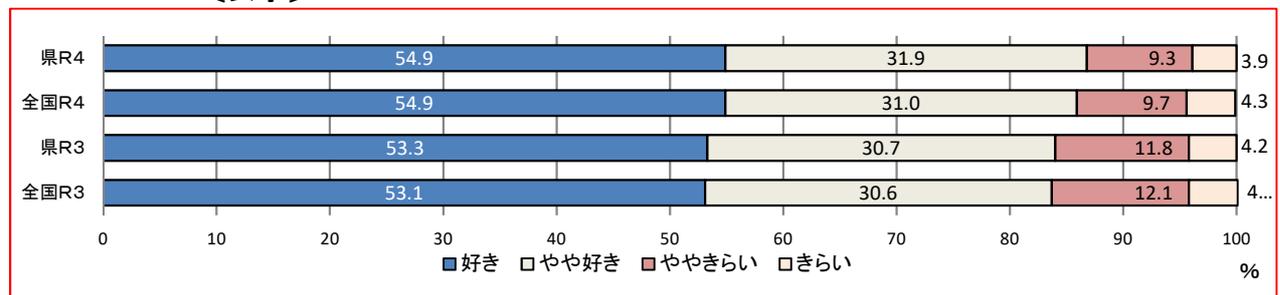
※ 質問紙調査考察コメントの基準(スポーツ庁)

±2%以上:高(低)い ±1%~±2%未満:わずかに高(低)い ±1%未満:ほとんど差がない

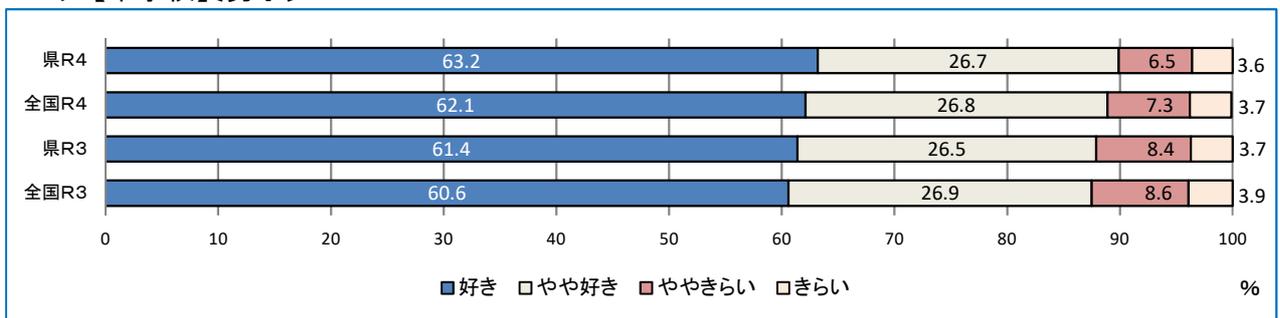
ア 【小学校】〔男子〕



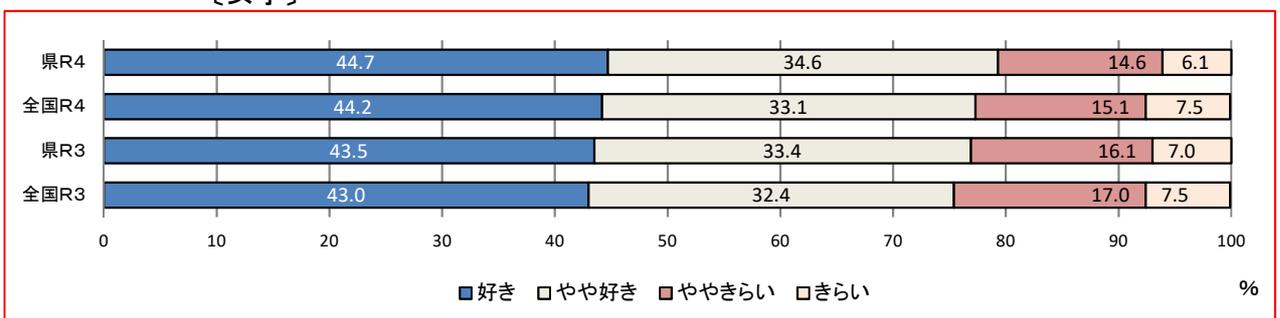
〔女子〕



イ 【中学校】〔男子〕



〔女子〕



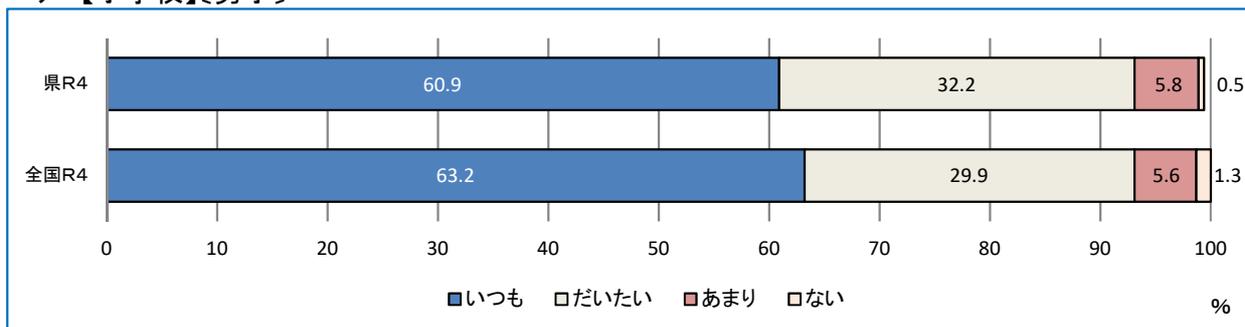
〈現状〉

【小・中学校共通】

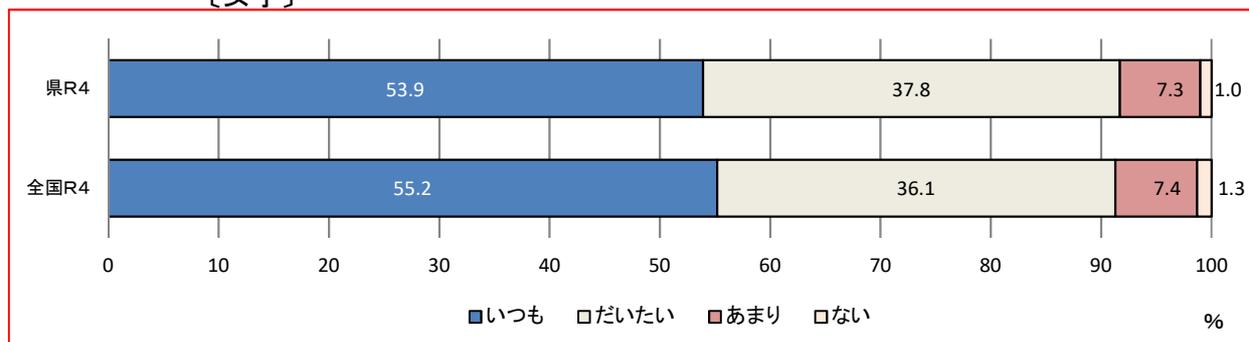
- 運動やスポーツをすることが「好き」と回答した割合を全国平均と比較すると、中学校男子はわずかに高く、その他はほとんど差がない。
- 県の令和3年度平均と比較すると、運動やスポーツをすることが「好き」と回答した割合は、男女ともに高くなっている。

(2) 調査項目「体育の授業に進んで参加しているか。(新規)」に関する調査の結果

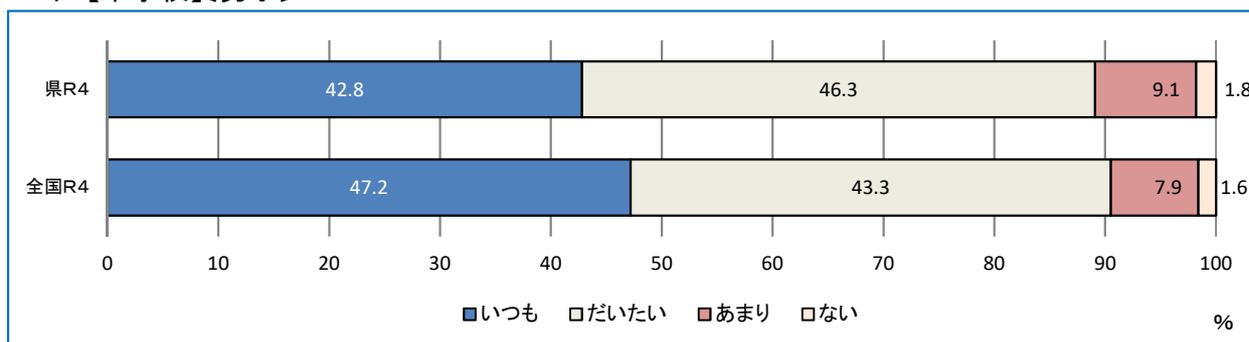
ア【小学校】[男子]



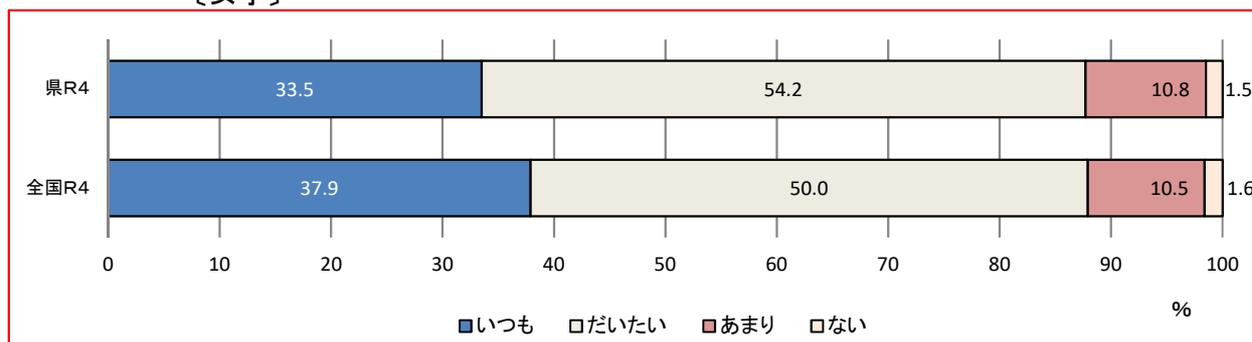
[女子]



イ【中学校】[男子]



[女子]



〈現状〉

【小学校】

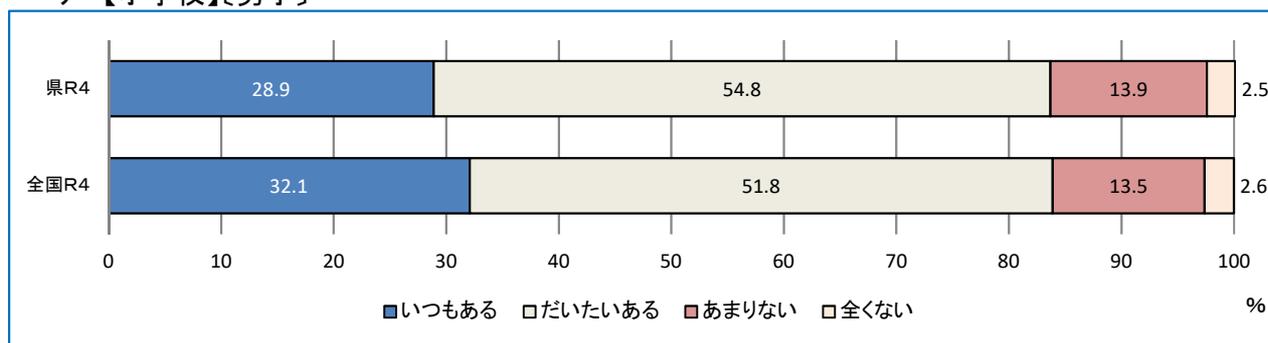
○ 全国平均と比較すると、体育の授業に「いつも進んで学習している」と回答した割合は男子が低く、女子はわずかに低い。「あまり進んで学習していない」「進んで学習することはない」と回答した割合は、男子ともにほとんど差がない。

【中学校】

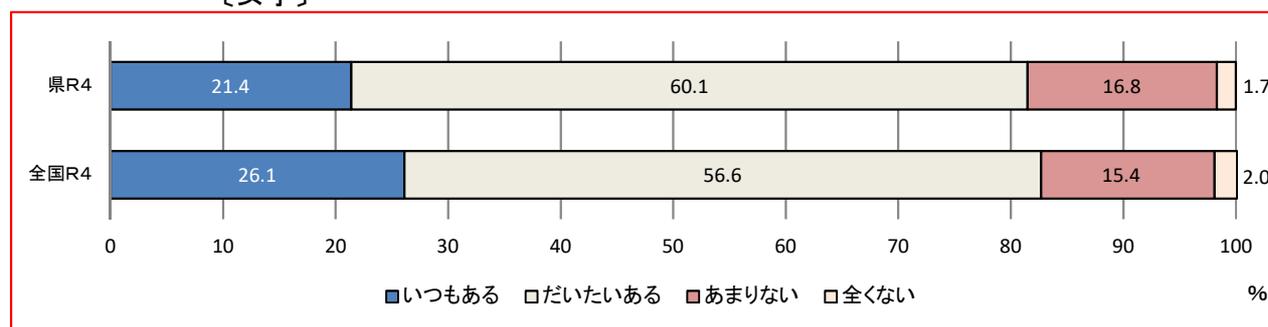
○ 全国平均と比較すると、体育の授業に「いつも進んで学習している」と回答した割合は男女ともに低い。「あまり進んで学習していない」「進んで学習することはない」と回答した割合は、男子はわずかに高く、女子はほとんど差がない。

(3) 調査項目「体育の授業で、目標(ねらい・めあて)を意識して学習することで、『できたり・わかったり』することがあるか。(新規)」に関する調査の結果

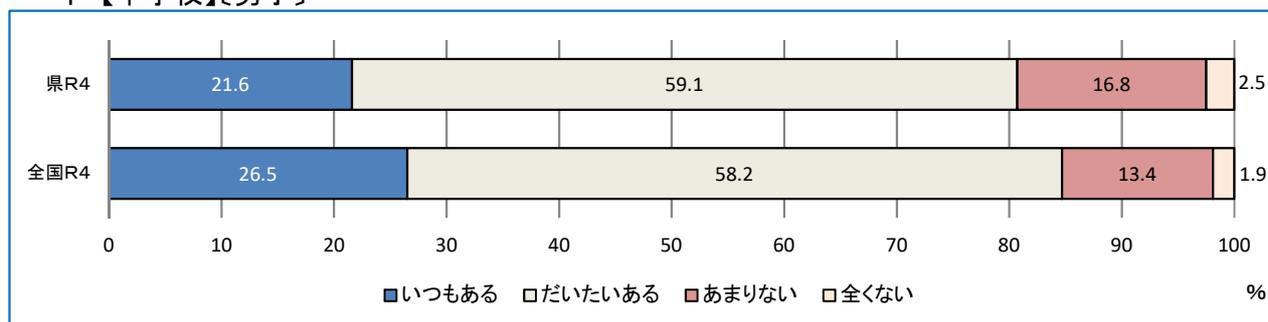
ア 【小学校】〔男子〕



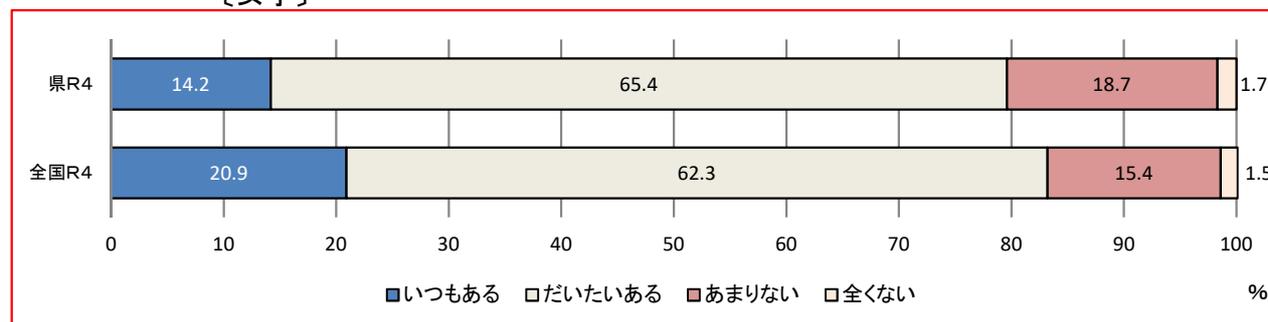
〔女子〕



イ 【中学校】〔男子〕



〔女子〕



〈現状〉

【小学校】

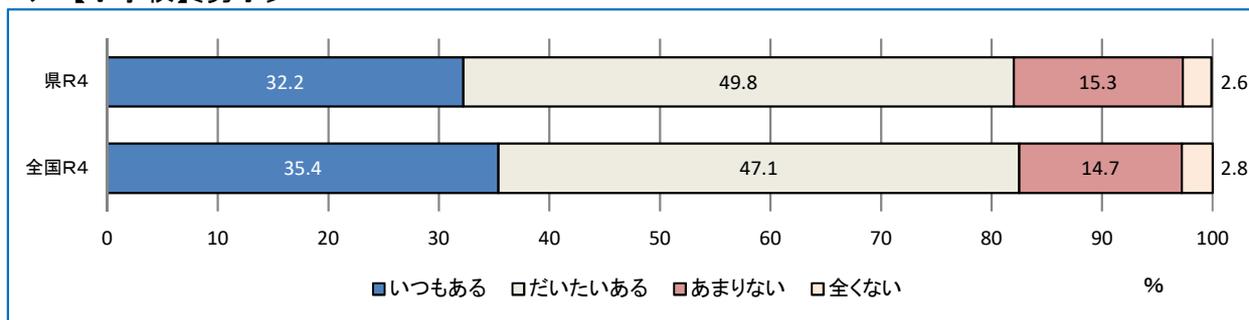
○ 全国平均と比較すると、「いつもある」と回答した割合は男女ともに低い。「あまりない」「全くない」と回答した割合は、男子はほとんど差がなく、女子はわずかに高い。

【中学校】

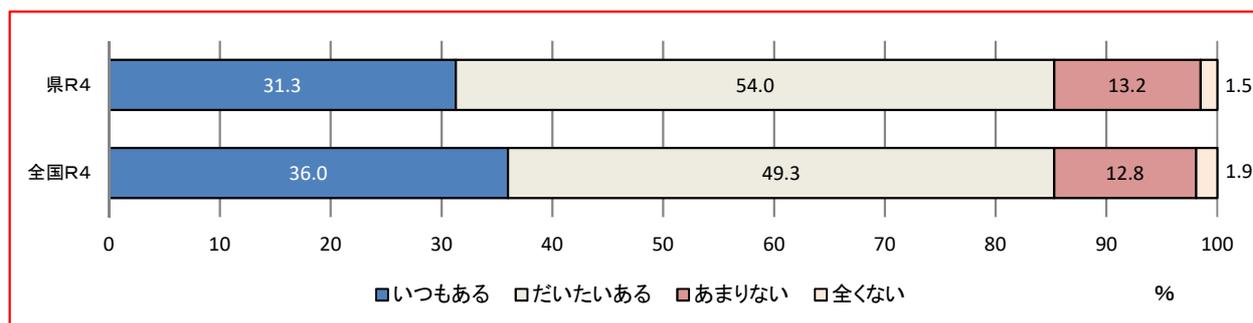
○ 全国平均と比較すると、「いつもある」と回答した割合は男女ともに低い。「あまりない」「全くない」と回答した割合は、男女ともに高い。

(4) 調査項目「体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、『できたり・わかったり』することがあるか。(新規)」に関する調査の結果

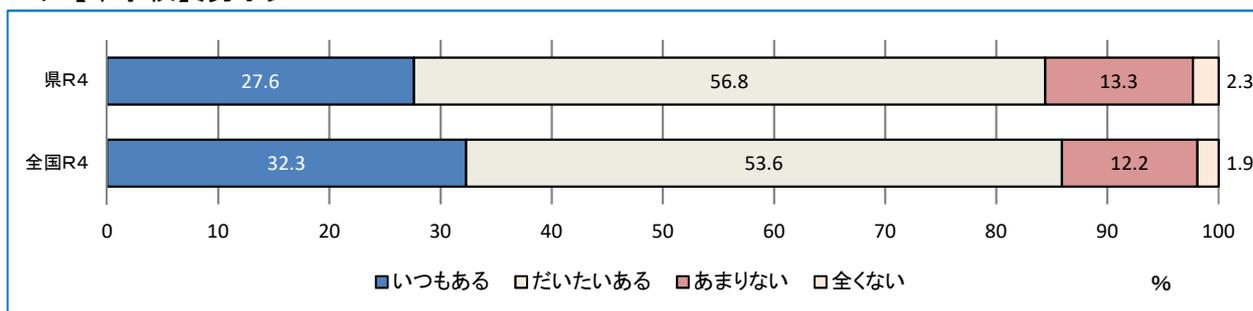
ア 【小学校】〔男子〕



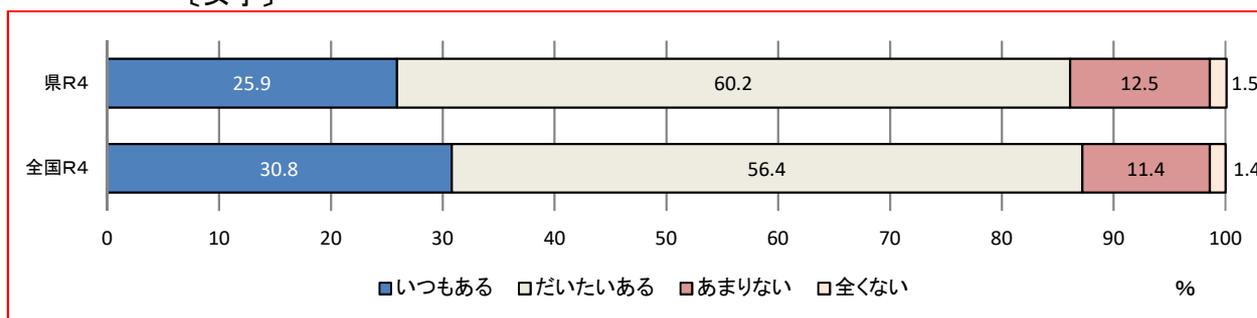
〔女子〕



イ 【中学校】〔男子〕



〔女子〕



〈現状〉

【小学校】

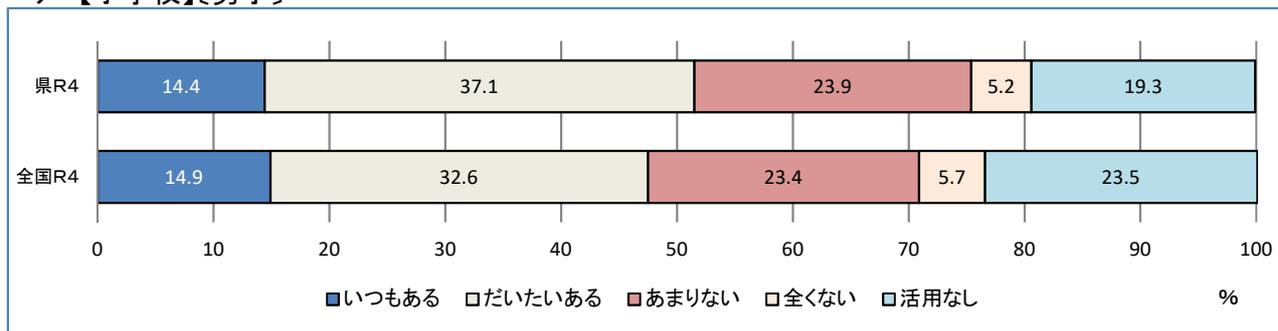
○ 全国平均と比較すると、「いつもある」と回答した割合は男女ともに低い。「あまりない」「全くない」と回答した割合は、男女ともにほとんど差がない。

【中学校】

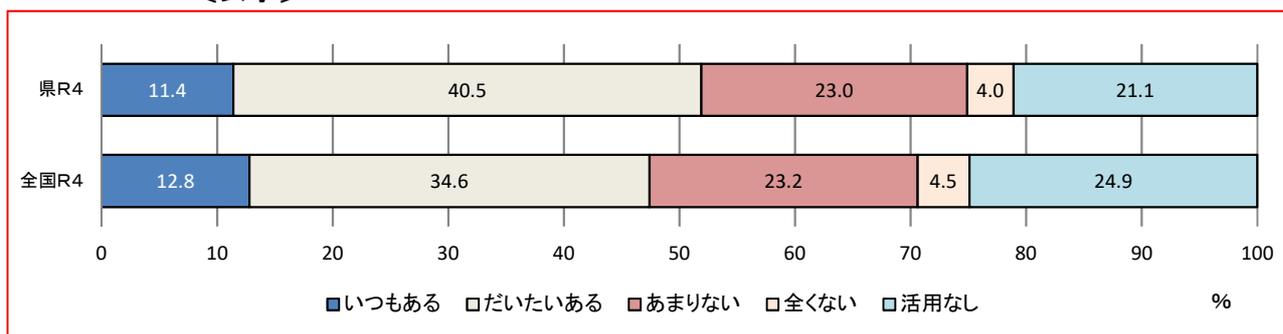
○ 全国平均と比較すると、「いつもある」と回答した割合は男女ともに低い。「あまりない」「全くない」と回答した割合は、男女ともにわずかに高い。

(5) 調査項目「体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、『できたり・わかったり』することがあるか。(新規)」に関する調査の結果

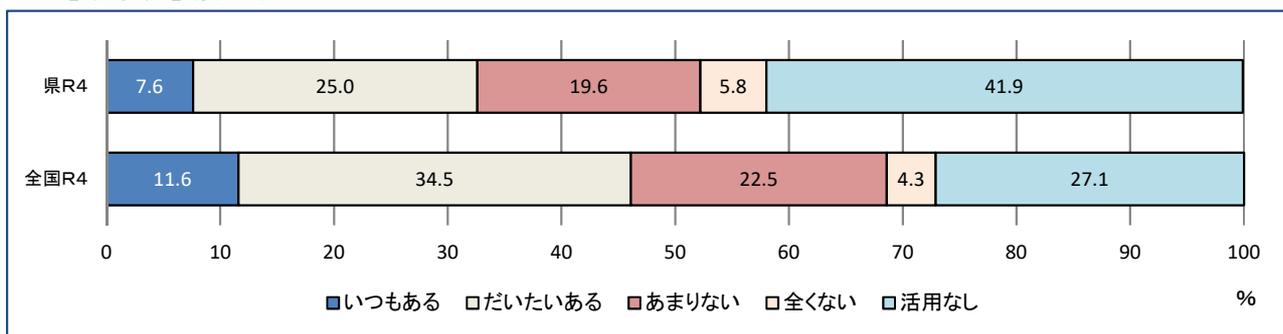
ア 【小学校】〔男子〕



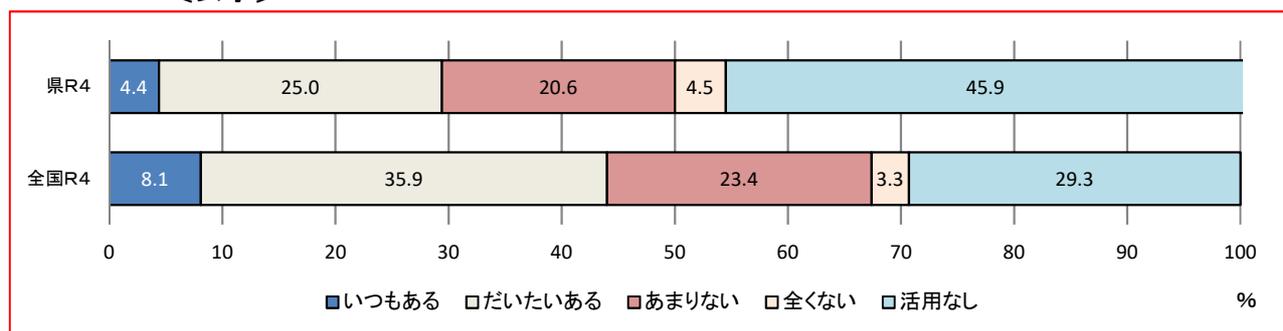
〔女子〕



イ 【中学校】〔男子〕



〔女子〕



〈現状〉

【小学校】

○ 全国平均と比較すると、「いつもある」と回答した割合は男子がほとんど差がなく、女子はわずかに低い。「あまりない」「全くない」と回答した割合は、男女ともにほとんど差がない。「活用していない」と回答した割合は、男女ともに低い。

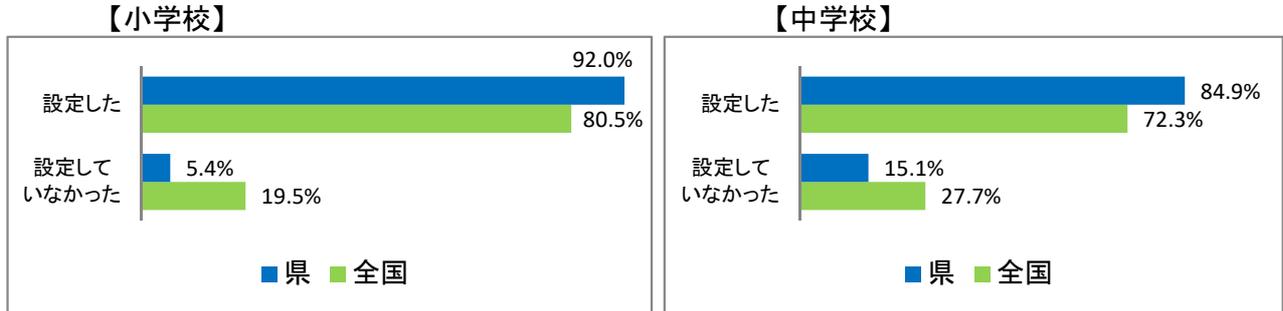
【中学校】

○ 全国平均と比較すると、「いつもある」と回答した割合は男女ともに低い。「あまりない」「全くない」と回答した割合は、男女ともにわずかに低い。「活用していない」と回答した割合は、男女ともに高い。

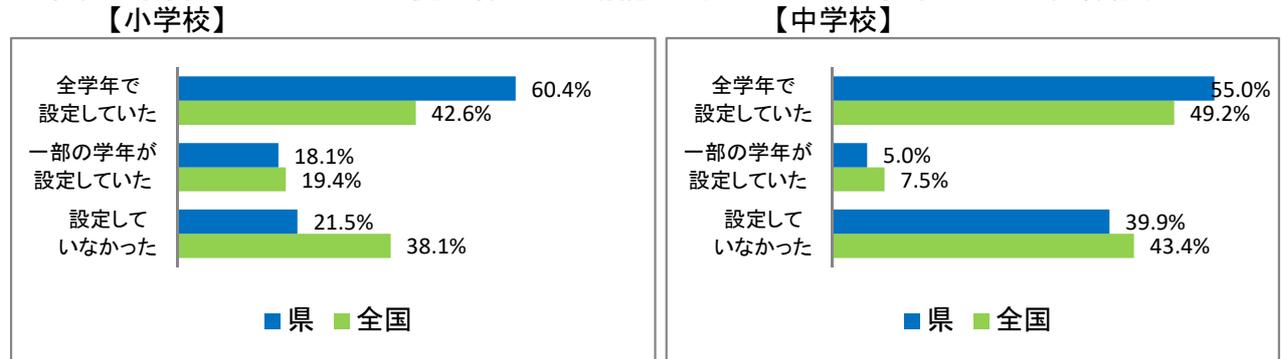
5 学校における体力向上のための取組に関する調査結果概要(学校質問紙)

※ 全国の数値は公立

(1) 令和3年度における児童生徒の体力・運動能力向上のための学校全体としての目標設定について



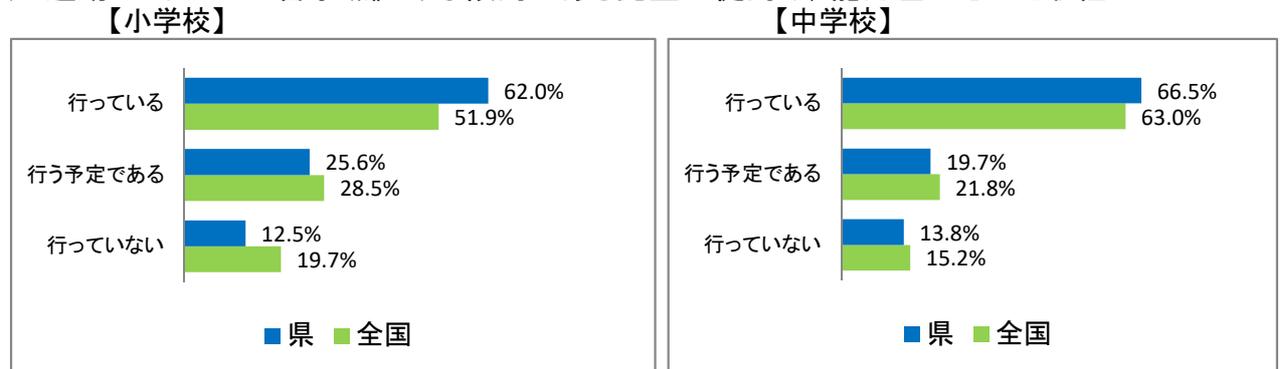
(2) 令和3年度における児童生徒の体力・運動能力向上のための学年としての目標設定について



〈現状及び考察〉

- 令和3年度における児童生徒の体力・運動能力向上のための学校全体としての目標を「設定した」と回答した学校の割合は、全国平均と比較して小中学校ともに高い状況である。
- 令和3年度における児童生徒の体力・運動能力向上のための学年としての目標を「全学年で設定した」と回答した学校の割合は、全国平均と比較して小中学校ともに高い状況である。
- ※ 学校全体の目標を基に、発達の段階に応じて学年の目標を設定するとともに、各学校の「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進プランを活用した、体力向上に向けた取組を推進する体制づくりを構築する必要がある。

(3) 運動・スポーツが苦手(嫌い)な傾向にある児童生徒向け、能力差に応じた取組について

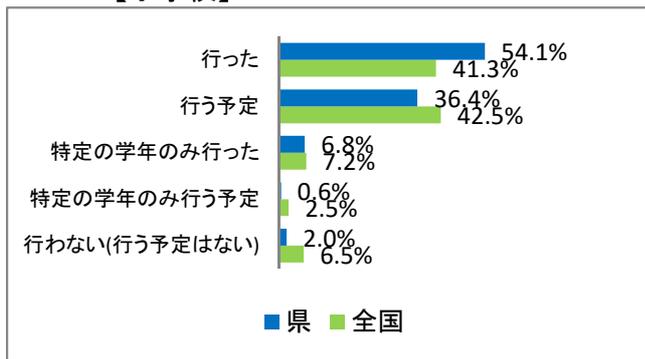


〈現状及び考察〉

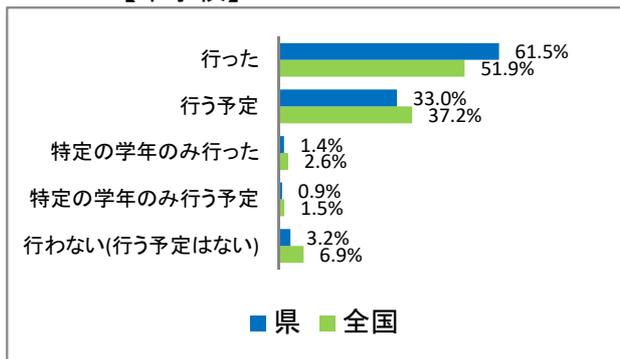
- 運動・スポーツが苦手な傾向にある児童生徒、能力差に応じた取組を「行っている」と回答した割合は、全国平均と比較して、小中学校ともに高い状況である。
- ※ 小学校学習指導要領において、運動が苦手な児童・運動に意欲的でない児童への配慮の例が示され、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方や関わり方を共有するなど内容の改善が図られている。これを受けて中学校においても、小中の系統性を意識した指導を工夫する必要がある。

(4) 令和3年度の調査結果を踏まえた授業改善の実施について

【小学校】



【中学校】

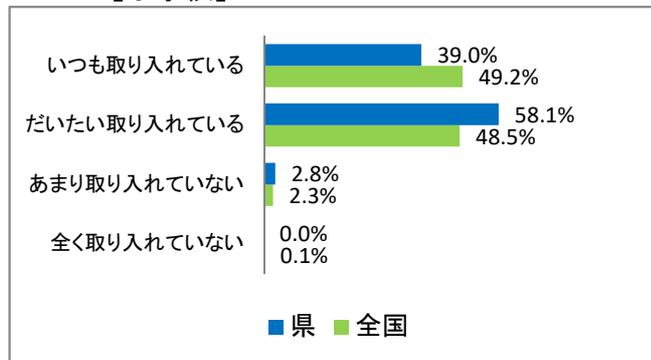


〈現状〉

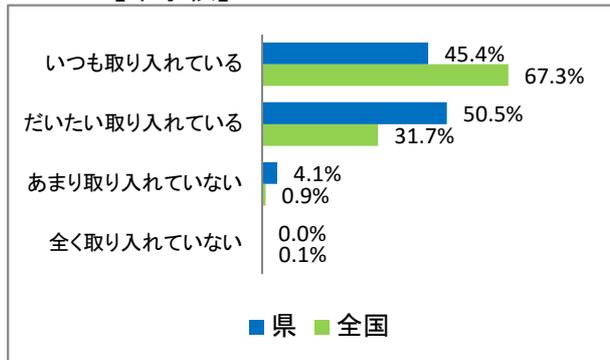
令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を踏まえた授業改善を「行った」と回答している学校の割合は、全国平均と比較して小中学校ともに高い状況である。

(5) 体育・保健体育授業での目標(めあて・ねらい等)の提示について

【小学校】

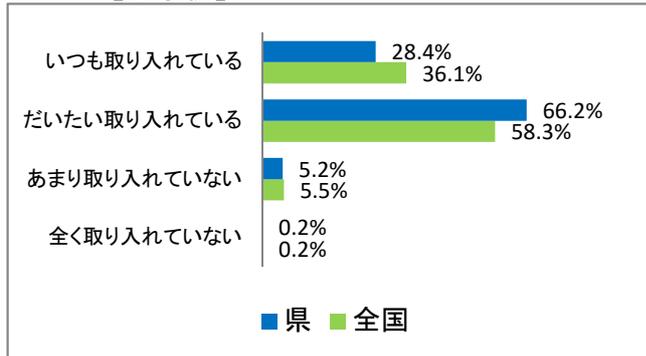


【中学校】

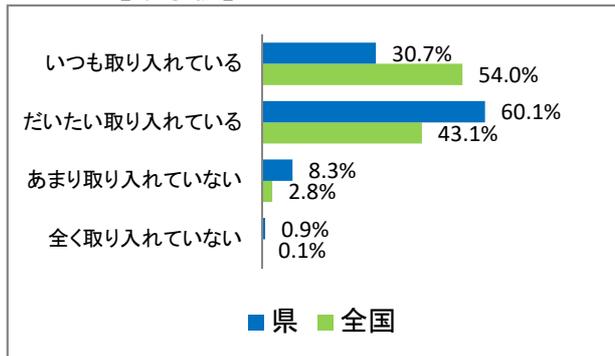


(6) 体育・保健体育授業での振り返りの活動の設定について

【小学校】



【中学校】



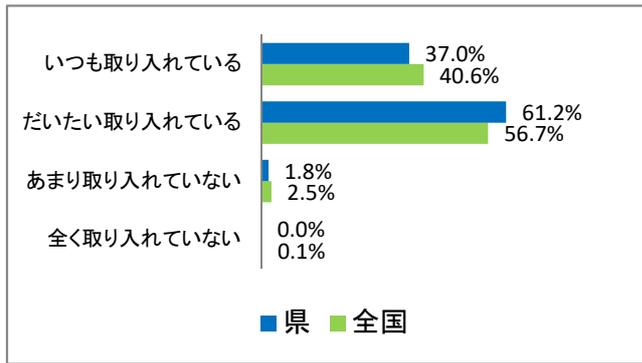
〈現状及び考察〉

○ 体育・保健体育の授業において、小中学校ともに目標(めあて、ねらい等)の提示や振り返りの活動を「いつも取り入れている」と回答した割合は、全国平均と比較して低く、「だいたい取り入れている」と回答した割合は、全国平均と比較して高い状況である。

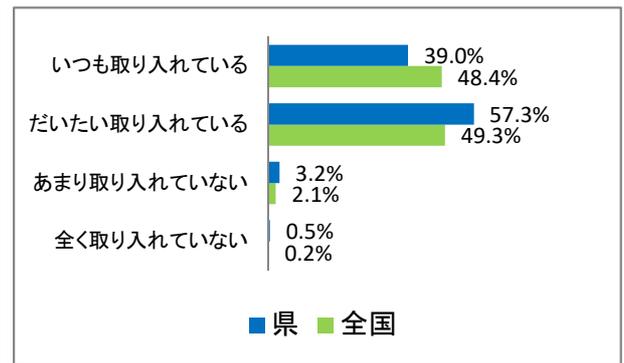
※ 特に、中学校は、「いつも取り入れている」と回答した割合が、全国平均よりも非常に低い状況が続いていることから、授業にめあて(個・グループ等)の設定とまとめによる振り返りを行う時間を確実に位置付け、児童生徒の積極的・自主的な活動を推進するとともに、自己の伸びや新たな課題を確認して次時の学習につなげるなど、深い学びに向けた、体育・保健体育の授業を実践していく必要がある。

(7) 体育・保健体育授業で、児童生徒が助け合ったり役割を果たしたりする活動の設定について

【小学校】

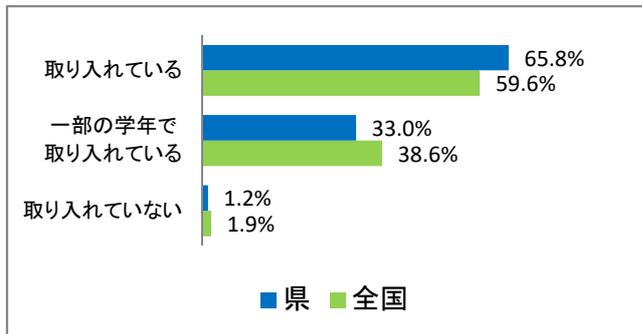


【中学校】

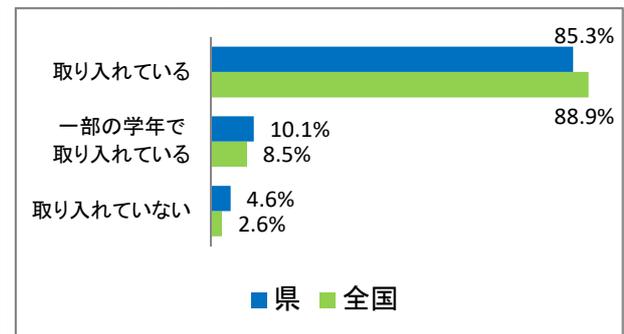


(8) 体育・保健体育授業で、児童生徒が話し合う活動の設定について

【小学校】

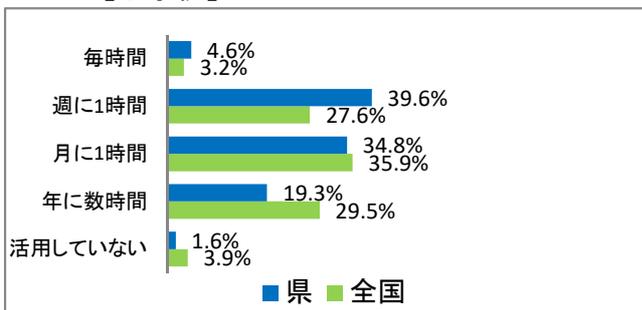


【中学校】

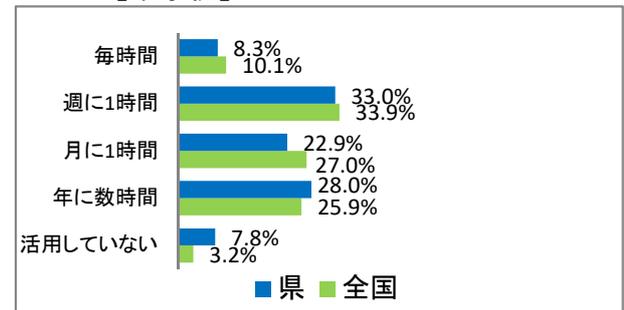


(9) 体育・保健体育授業でのICTの活用について

【小学校】



【中学校】



〈現状及び考察〉

○ 体育・保健体育の授業において、小中学校ともに児童生徒が助け合ったり役割を果たしたりする活動を「いつも取り入れている」と回答した割合は、全国平均と比較して低く、「だいたい取り入れている」と回答した割合は、全国平均と比較して高い状況である。

○ 授業で児童生徒が話し合う活動を「取り入れている」と回答した割合は、全国平均と比較して小学校は高く、中学校は低い状況である。

※ 小学校は全国平均を上回っているが、依然として一部の学年でのみ取り入れている状況が多く見られる。そのため、話し合いの目的を明確にした授業づくりや発達の段階に応じた話し合いの仕方の指導を行い、児童が主体的・対話的で深い学びを通して、身に付けるべき内容を習得し、課題解決を図る工夫を推進していく必要がある。

○ 授業において、ICTを「毎時間活用している」「週に1時間」と回答した学校の割合は、全国平均と比較して、小学校は高く、中学校は低い状況である。

※ 教科指導におけるICTの活用の必要性については、学習指導要領においても総則や解説(体育編)にも記載されている。ICTを効果的に活用し、指導方法の改善を図り、児童生徒の学習内容の習得へつなげていく授業改善が求められる。その際、ICTを活用する目的や効果的な活用場面等について、整理した上で実践していくことが重要である。

【活用例】 ・動画視聴による個人課題の把握(繰り返し・スロー再生)

・撮影した動画を活用し、伝え合う(仲間や模範との比較) ・これまでの蓄積データ(目標達成状況の確認)

6 全体考察

《今後の方向性》

学習指導要領の趣旨を踏まえ、小学校、中学校、高等学校を通じて、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現・継続する資質・能力を育成することを重視する観点から、児童生徒に「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成する取組を具体的に進める。

体力向上に関しては、その核となるのは、体育・保健体育の授業の充実である。そのために、次のポイントに留意する必要がある。

- 柔軟性(小中)、筋力(小)、スピード(中)を高める運動を取り入れた準備運動、補助運動
- 3つの資質・能力の育成と指導内容の明確化
- 授業改善(「カリキュラム・マネジメント」及び「主体的・対話的で深い学び」の実現)
- 「個に応じた指導」の一層の充実
- 運動の特性に応じた楽しさを味わうことができる場面の保証

また、本県の子どもは、運動への興味・関心や体育・保健体育の授業に対する意識が高いことから、学校において、教師が児童生徒の実態を真剣に受け止め、運動好きな子どもを育てるために、具体的には、次のような授業を目指して、改善を進めていきたい。

<運動好きな子どもを育てる授業を目指して(一単位時間の具体例)>

- 1 本時のめあて(全体・個人)を確認させる。
- 2 問題解決的な学習を展開する。
- 3 学習過程(流れ)を明確にし、活動の見通しをもたせる。
- 4 個人(チーム)の課題を解決する場や仲間と教え合ったり、話し合ったりする場を意図的に設定する。
- 5 教具(ICT機器含む)の活用や発問の工夫を行い、「分かった」「できた」などの経験をさせ、運動することや学ぶことの楽しさ、喜びを味わわせる。
- 6 本時のめあてに対する振り返りをする。
- 7 振り返りを通して、自分(チーム)の技能や思考・判断面で伸びを実感させ、達成感につなげる。

このような授業を通して、全ての子どもが、楽しく、安心して運動に取り組むことができるようにし、その結果として体力の向上につながる指導の在り方について改善を図るとともに、自己の適性に応じて「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けることで「運動好きな子ども」を育てることを目指す。

また、体育・健康に関する指導については、子どもの発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した指導の充実を図る。

さらに、子どもの体力向上に関して、家庭への啓発を行い、理解と協力を求めたり、関係機関と連携し、外部指導者を活用したりするなど、学校・家庭・地域が連携し、一体となった取組を推進する。

子どもが運動の特性に触れ、楽しさや喜びを味わうことができる授業を目指しましょう！



《今後の方向性》

◆ 学校の組織的な取組の推進を支援

- 各学校における「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進プランの作成, 活用
- 全国体力・運動能力, 運動習慣等調査結果の分析と活用促進
- 体力ナビの積極的活用と児童生徒一人一人への体力カードの作成
- 運動大好き“かごしまっ子”育成推進校(小中高)による実践的取組の紹介
- 「新体力テストで児童生徒のもっている力を引き出す指導のポイント(改訂版)」の活用促進
- 小・中・高等学校版「体力アップ! チャレンジかごしま」の継続実施(工夫・改善)
- 体力づくり「一校一運動」の推進

◆ 運動大好き“かごしまっ子”育成に向けた運動の楽しさを追求した授業, 体育指導の工夫改善の支援

- 小・中・義務教育学校体育主任等研修会
- 「運動好きな子どもを育てる」指導者研修会の実施(隔年)
- 小学校教諭等体育セミナーの開催(隔年)
- 保健・保健体育担当者研修会
- 武道・ダンス指導者研修会
- 中学校柔道授業における安全に関する指導者研修会
- 新任幼稚園教諭への「幼児期運動指針」についての研修
- 運動大好き“かごしまっ子”育成推進校(小学校4校, 中学校3校, 高等学校1校)による実践的研究及び第2期推進校(小学校2校, 中学校1校, 高等学校1校)による研究公開
- 運動大好き“かごしまっ子”育成推進校(小学校4校, 中学校3校, 高等学校1校)への地域スポーツ人材の派遣
- かごしまの子ども体力向上プログラム(小学校版, 中・高等学校版)の活用促進

◆ 運動習慣の育成に向け, 学校・家庭・地域が一体となった取組の促進

- 体力の向上, 運動習慣の育成に向けた啓発資料の活用促進
(これならできる! 「プラス5分運動」)
- 地域スポーツ人材を活用した運動習慣育成教室の実施
- 運動大好き“かごしまっ子”育成推進校(第2期)研究公開による普及啓発
- 「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進フォーラムの開催(隔年)
- 関係機関(県総合体育センター, 県教育庁社会教育課等)と連携したイベント

更なる充実に向けて

体力向上のための推進期間を設定しましょう(月間・週間・曜日等)。

＜期間設定の例＞

- 1 名称 「運動大好き“○○○っ子”」推進(月間・週間), チャレンジウイーク 等
- 2 期間 ・学期〇回 ・月〇回 ・週〇回 等
- 3 設定の仕方
 - (1) 学校行事と関連付けて, その前後に設定する。(月間)
 - (2) 業間と関連付けて, 年間を通して設定する。(曜日)
 - (3) 学校・家庭・地域と連携して設定する。(週間)
- 4 留意事項
 - (1) 体力向上に向けて学校全体で取り組む。
 - (2) 内容は, 一校一運動や体力・運動能力, 運動習慣等調査結果等を考慮する。
 - (3) 「運動大好き“かごしまっ子”育成推進プラン」に内容や期間等を記入する。

7 改善のポイント

県教育振興基本計画における数値目標(体力合計点)

		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
小5男子	県	52.57	感染 新型 症の 影響 により 中止	51.85	51.86	全国 平均 を上 回る	⇒
	全国	53.61		52.52	52.28		⇒
小5女子	県	54.87		54.34	54.24		⇒
	全国	55.59		54.64	54.31		⇒
中2男子	県	40.32		40.27	40.60		⇒
	全国	41.69		41.18	41.04		⇒
中2女子	県	49.03		48.13	47.32		⇒
	全国	50.22		48.56	47.42		⇒

運動大好き“かごしまっ子”育成に向けた学校における
体力向上, 運動習慣改善のPDCAサイクル

Plan

- 1 児童生徒の体力・運動能力向上, 運動習慣, 授業改善に向けた目標の設定
- 2 体力づくり全体計画や「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進プランの作成
- 3 学校の実態や体力課題に即した「一校一運動」の推進計画
- 4 児童生徒や家庭の実態に即した「一家庭一運動」の周知・啓発と実施

【課題1】 体力合計点が全国平均に達していない
【課題2】 1週間の総運動時間が4回連続で減少している。

Action

- 1 体力づくり全体計画や「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進プランの改善
- 2 体力向上, 運動習慣改善に効果をあげた取組と今後の対策検討
- 3 家庭への児童生徒の体力, 運動習慣の結果報告による説明責任

Check

- 1 新体力テスト, 体力・運動能力調査等の結果と考察
- 2 「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進プランの活用
- 3 体力向上, 運動習慣改善に効果をあげた取組と今後の対策についての検討

Do

- 体力づくり全体計画に基づくPDCAサイクルの確実な推進
 - (1) 「楽しい体育・保健体育」の授業充実
 - すべての児童生徒が楽しく, 安心して運動に取り組むことができる授業
 - 授業における目標の提示・確実なまとめの実施
 - 「主体的・対話的で深い学び」による授業の展開
 - 職員研修や研究授業による指導力の向上
 - (2) 新体力テストの実施
 - 実施目的, 測定方法等の共通理解
 - 児童生徒に目標をもたせる事前指導の充実
 - 「体力ナビ」活用による意欲喚起
 - (3) 「一校一運動」, 業間体育等の工夫による運動機会の確保
 - (4) 運動に消極的な児童生徒を支援する運動習慣育成教室の推進
 - (5) 「体力アップ! チャレンジかごしま」への取組
 - (6) 部活動の充実
 - (7) 家庭と協力した運動・生活習慣の改善
 - 土日の運動時間の確保
 - (8) 家庭への体力向上に関する啓発
 - これならできる! 「プラス5分運動」リーフレット配布と活用促進

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

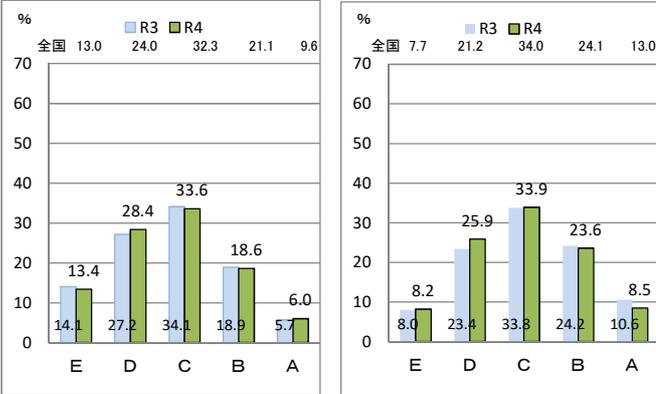
鹿児島市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

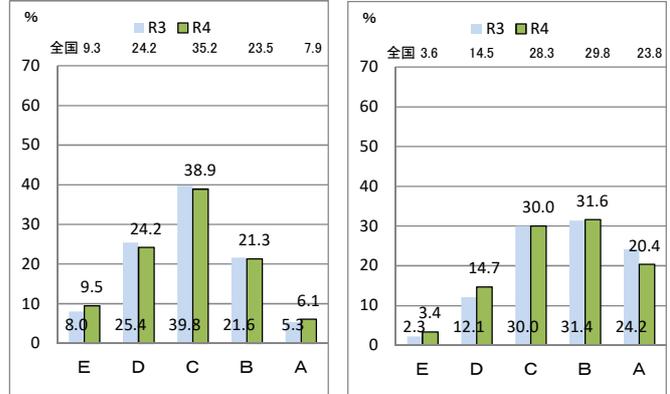
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・全国平均と比較して、男子はA+Bの割合が低く、D+Eの割合がやや高くなっており、女子はA+Bの割合が低く、D+Eの割合が高くなっており、男女とも、D・Eの下位層の底上げが課題である。
- ・R3年度と比較すると、男子はA+B、D+Eの割合がともに同じであった。女子は、A+Bの割合が減少し、D+Eの割合が増加したことから下降傾向にある。
- ・男女とも、運動への興味・関心を高めるとともに、体力の向上を図る取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・全国平均と比較して、男子はA+Bの割合がやや低く、男子のD+E、女子のA+B、D+Eの割合はほぼ同じである。
- ・R3年度と比較すると、男子はA+B、D+Eの割合はほぼ同じで、女子はA+Bの割合が減少し、D+Eの割合が増加したことから下降傾向にある。
- ・男女とも、運動への興味・関心を高めるとともに、体力の向上を図る取組が必要である。

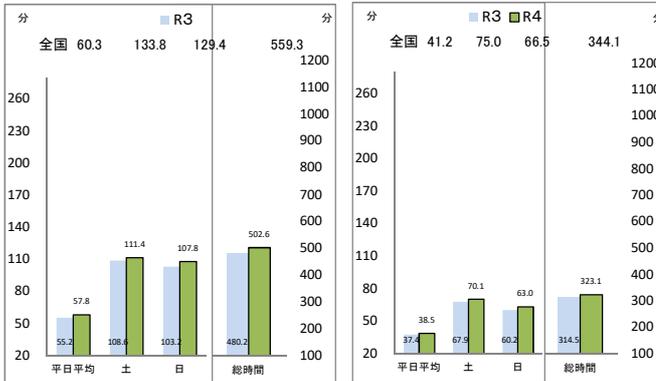
【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



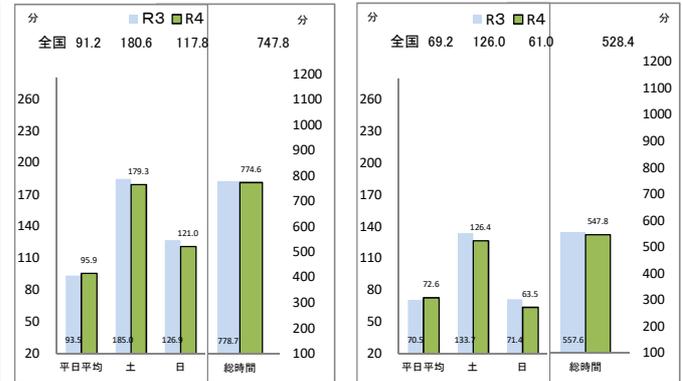
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間については、全国平均との比較において、男子は短く、女子はわずかに短い。
- ・平日及び土日については、全国平均との比較において、男女の平日、女子の土日はあまり差はないものの、男子は土日の運動時間が短い。
- ・R3年度との比較では、1週間の総運動時間が男子はわずかに長く、女子はほとんど差がない。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間については、全国平均との比較において、男子はわずかに長く、女子はほとんど差がない。
- ・平日及び土日については、全国平均との比較において、男子は平日はわずかに長く、女子はほとんど差がなく、土日は男女ともにほとんど差がない。
- ・R3年度との比較では、1週間の総運動時間が男女ともほとんど差がない。

【改善策】

【小学校】

・全国平均と比較して、男子は総運動時間が短く、男女とも体力総合評価の上位層が少なく、下位層が多いため、「一校一運動」や「チャレンジかごしま」等での運動する機会を増やし、運動量の増加を図る。

【中学校】

・「チャレンジかごしま」への取組を推奨し、更なる運動機会の増加を図る。

【共通】

・研究授業等を通じた授業改善や小中連携により、「運動好きな子供」の育成を図り、結果として運動の習慣化、体力の向上を図る。

・本市が行う「ちよトレ運動」への取組を推奨し、内容や成果を共有し、各学校において改善を図る。

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

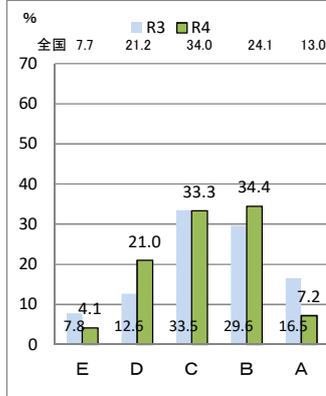
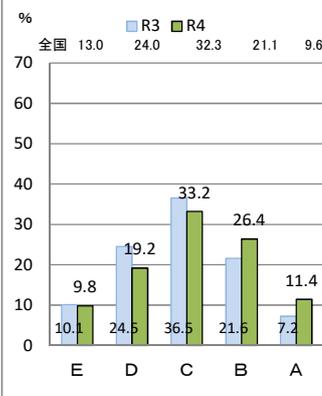
日置市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

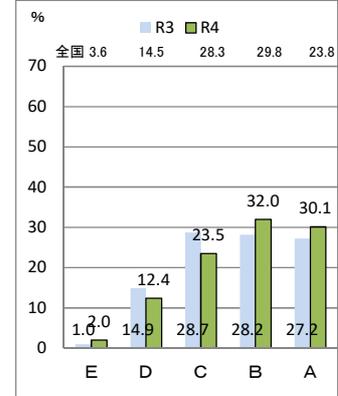
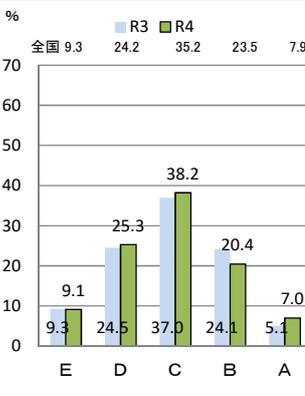
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価標準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価標準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- 男子はAが4.2ポイント、Bが4.8ポイント上昇し、Cが3.3ポイント、Dが5.3ポイント低下した。前年度と比較し、全体的に体力が向上している。全国平均と比べても高い。
- 女子はBが4.8ポイント上昇しているものの、Aが9.3ポイント低下し、前年度と比べ、体力の低下が見られる。Aの割合は、全国の半分くらいである。

〈現状及び課題〉

- 男子は、前年度の本市の状況と比較すると、あまり変わらない状況であるが、全国平均と比較するとA・Bの割合が低い。
- 女子はAが2.9ポイント、Bが3.8ポイント上昇し、全体的に体力の向上が見られる。全国平均よりも高い。

【小学校 運動実施時間】

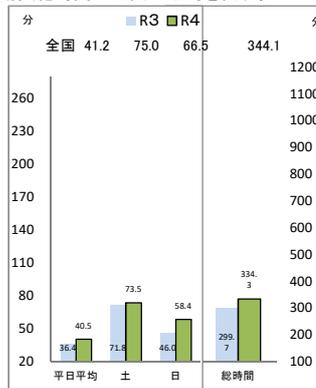
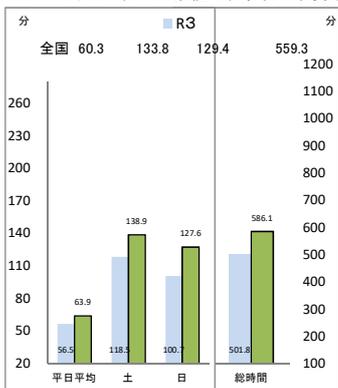
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



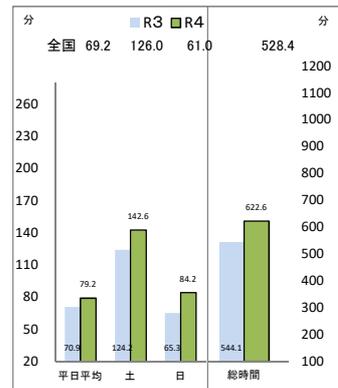
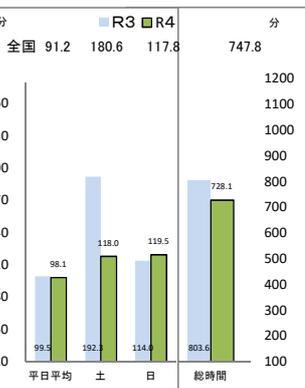
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- 男子は、平日平均・土・日・総時間が増加している。土日の運動実施時間を増やしていく必要がある。
- 女子は、平日平均・土・日・総時間が増加しているが、全国と比較するとまだ運動時間が少ない。

〈現状及び課題〉

- 男子は土曜日の運動実施時間が大幅に減少している。全国と比較しても60分ほど少ない。同じく、一週間の総時間も減少している。
- 女子は全体的に運動時間が増加し、全国と比較しても多い。

【改善策】

【小学校】体育授業の指導法改善。チャレンジがごしま申告率「100%」。家庭における運動時間の確保。

【中学校】体育授業の指導法改善。チャレンジがごしま申告率「80%以上」。運動部活動生以外への運動時間確保の啓発。

【共通・その他】

- 日置市が推奨する「体話(たいわ)」を通じた家庭との連携(運動の日常化)
- 「チェスト行けひおきっ子Ⅱ」事業(小中一貫教育による体力向上)による、9年間を見据えた体力向上策の策定
- 一校一運動の工夫・改善及び「ひおきっ子サーキット」の小中連携による継続的な実践
- 「体カナビ」の活用による、体力面の課題の自覚化

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

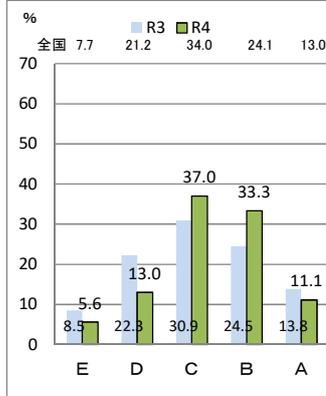
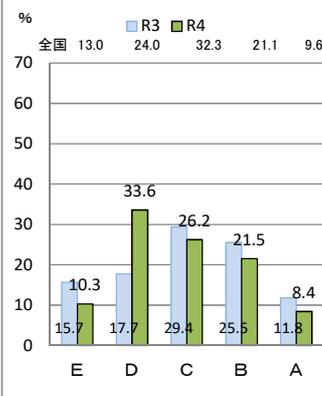
いちき串木野市教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

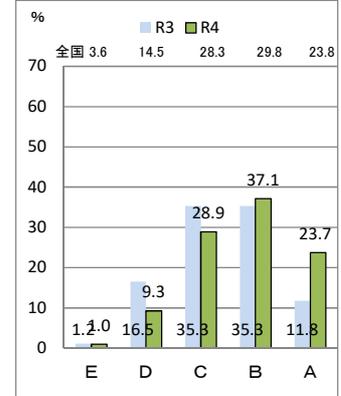
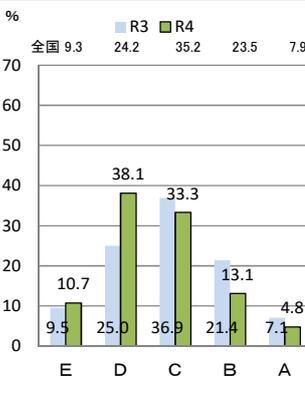
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- 男子はEの割合が4.6ポイント減少したものの、Dの割合は15.9ポイント増加し、前年度と比較しABの割合も減少している。4種目が全国平均を下回り、下位層の底上げが必要である。
- 女子はE、Dの割合が計12.2ポイント減少し、A、Bの割合が計6.1ポイント増加している。全体的に体力の向上が窺える。しかし、Aの割合が2.7ポイント減少したため、BをAに引き上げる取組が必要である。特にソフトボール投げが全国平均を大きく上回った。

〈現状及び課題〉

- 男子はE、Dの割合が計14.3ポイント増加し、A、Bの割合が10.6ポイント減少する等、全体的に下位層の生徒が増加している。8種目が全国平均を下回った。
- 女子はDの割合が7.2ポイント減少し、Aの割合が11.9ポイント増加する等全体的に体力の向上が窺える。特に持久走が全国平均を大きく上回った。各種目の結果を見ると、男女共に上体起こし、長座体前屈が苦手である。

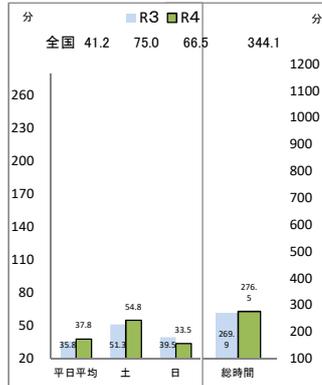
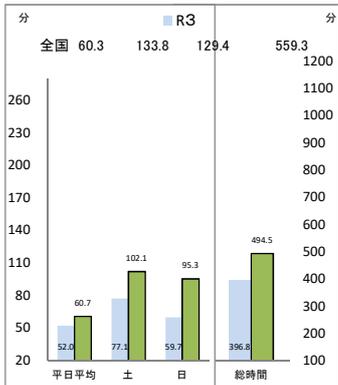
【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。

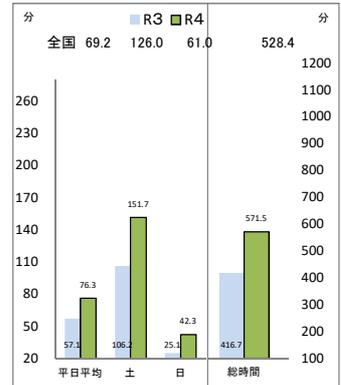
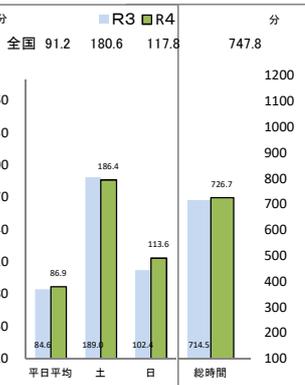


【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- 前年度と比較して、男女ともに総運動時間が長くなった。
- 1週間の総運動時間は、男女ともに、前年度と比較して長くなったものの、全国平均と比較すると短い結果となった。男女ともに全国と比較すると60分以上の差が見られる。
- 平日は、男女ともに、全国平均と大きな差は見られず、土・日曜日は男女ともに全国平均と比較して短くなっている。

〈現状及び課題〉

- 前年度と比較して、特に女子の総運動時間が長くなった。
- 1週間の女子の総運動時間は、全国平均と比較して43.1分長く、特に土曜日の運動時間が増加している。男子は、全国平均と比較して、21.1分短くなっている。
- 平日は、男女ともに、全国平均と大きな差は見られず、土・日曜日は、前年度と比較して、特に女子の運動時間が長くなった。

【改善策】

- 生徒に運動する楽しさを実感させる取組を通して興味・関心を高め、結果として体力向上に繋がる方策を検討する。
- 運動部、スポーツクラブ等に加入している生徒以外の運動に対する意識を高める。
- 各種目の分析を基に、重点指導種目を設定し、授業の補教運動に積極的に取り入れる。
- 授業における運動量の確保、知識の習得と思考力・判断力・表現力に関する指導の配分を工夫し、運動の特性を考慮した教材研究と、児童生徒の発達段階を踏まえた指導法の改善を図る。
- 本調査結果に基づいた課題や改善策を家庭や地域と共有し、地域一体となって体力づくりに繋がる取組を推進する。
- 体育主任等研修会や管理職研修会等において、休日における運動やスポーツを促す具体的資料を活用する等、児童生徒の主体的な取組に繋がるよう指導する。

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

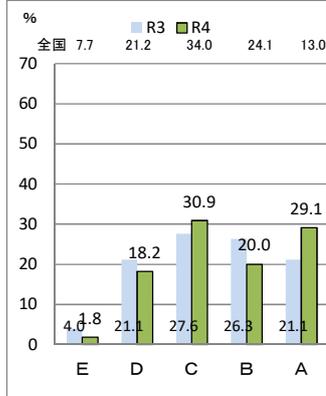
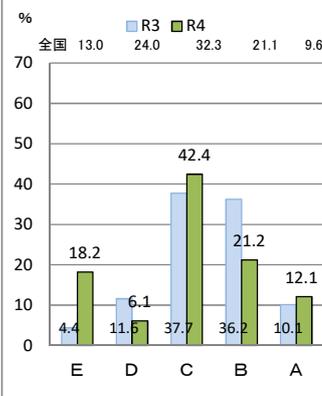
枕崎市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

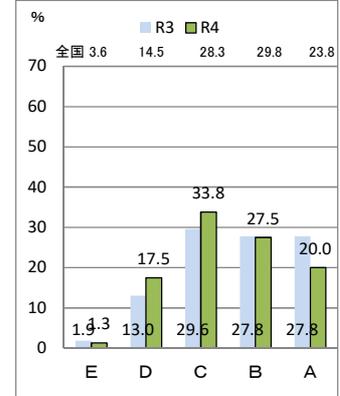
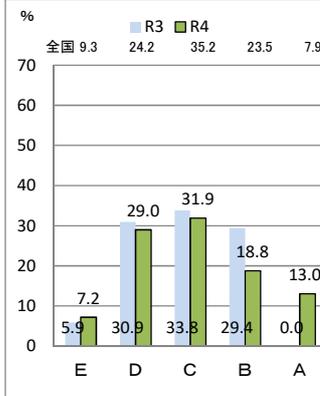
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- 男子は、全国比で、C・Eの割合が高い。また、Eの割合は、令和3年度の本市と比較しても、割合が4倍ほどに増加している。
- 女子は、全国と比較して、Aの児童の割合が16.1ポイント高く、D・Eの割合が低い傾向にあり、全体的に運動能力は高い結果となった。令和3年度の本市の結果と比較しても、Aの割合が増加した。
- 男子は、Eの児童の割合を減少させる取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- 男子は、全国と全体的な割合は類似し、令和3年度の本市の結果と比較すると、Aの割合が13ポイント増加し、運動能力は向上している。
- 女子は、全国と比較すると、C以上の割合はあまり変わらない。令和3年度の本市の結果と比較すると、C・Dの割合が増加し、中位層に集中する傾向にある。
- 男女ともに、Dの割合を割合を減少させる取組が必要がある。

【小学校 運動実施時間】

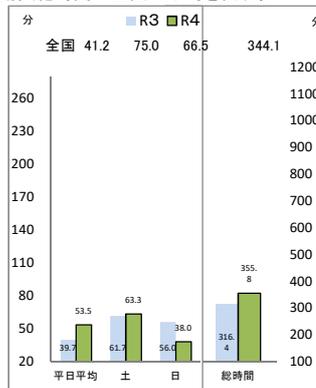
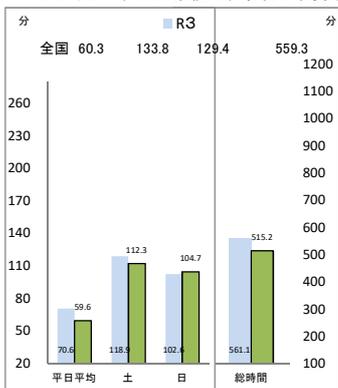
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



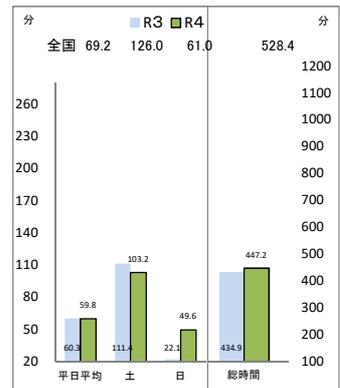
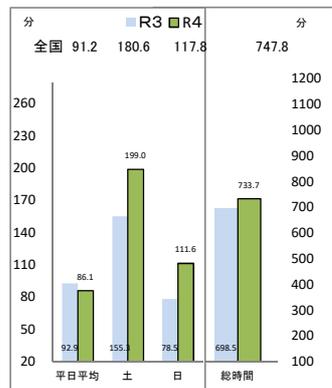
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- 男子は、全ての項目において運動実施時間が全国よりも短く、令和3年度の本市の結果と比較しても、総時間で50分ほど短い。
- 女子は、全国と比較すると、総時間については全国を上回っているが、土・日の運動実施時間については下回る。また、令和3年度の本市の結果と比較すると、日の運動実施時間が20分ほど短い。

〈現状及び課題〉

- 男子は、全国と比較すると、土以外は運動実施時間が下回る。令和3年度の本市の結果と比較すると、土・日はそれぞれ30分程長い。
- 女子は、全ての項目において運動実施時間が全国よりも短く、総時間で比較すると80分ほど短い。日の運動実施時間が大幅に増加したが、全体的な運動実施時間を増加させる取組が必要である。

【改善策】

- 【小学校】
 - 主体的に対話的な体育・保健体育の授業づくり(場やルールを工夫、友達と共に学び合う授業の在り方 等) ・ 基本的な生活習慣の育成
- 【中学校】
 - 主体的に対話的な体育・保健体育の授業づくり(場やルールを工夫、友達と共に学び合う授業の在り方 等) ・ 基本的な生活習慣の育成
- 【共通・その他】
 - 運動の習慣化(体育部を通して学校・学級全体での取組、固定施設等の積極的活用、家庭との連携「一家庭一運動」 等)
 - 児童生徒に運動の楽しさや喜びを味わわせ指導法の工夫(授業力向上、効果的なICTの活用、教科部会の充実、授業の相互参観 等)
 - 「体力アップ! チャレンジかごしま」への継続的な取組(年間を通した取組→運動の習慣化、全学級申告、複数種目への取組 等)

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

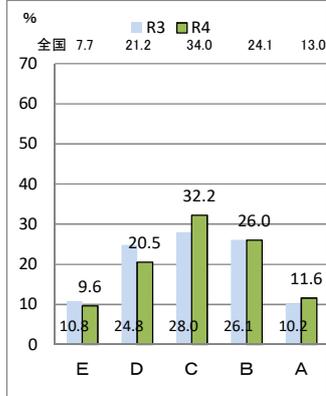
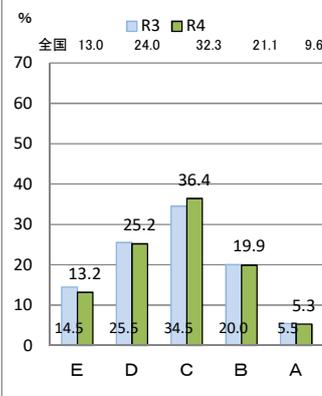
指宿市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

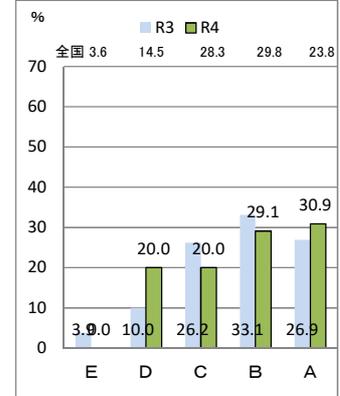
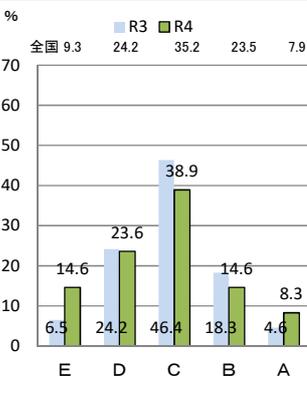
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価標準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価標準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子は、Cの割合が1.9ポイント増加し、Eの割合が1.3ポイント、Dの割合が0.3ポイント減少している。
- ・女子は、Dの割合が4.3ポイント、Eの割合が1.2ポイント減少し、Aの割合が0.8ポイント、Cの割合が4.2ポイント増加している。
- ・全国と比較して、Aの割合が男子は4.3ポイント、女子は1.4ポイント低く、課題である。児童の体力及び運動への興味・関心を高め、男女とも、E、D、Cの児童をB、Aへ引き上げる取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、Aの割合が3.7ポイント、Eの割合が8.1ポイント増加し、Cの割合が7.5ポイント、Dの割合が0.6ポイント減少している。
- ・女子は、Dの割合が10.0ポイント、Aの割合が4.0ポイント増加し、Bの割合が4.0ポイント、Cの割合が6.2ポイント、Eの割合が3.0ポイント減少している。
- ・全国と比較して、Eの割合が8.1ポイント、女子はDの割合が10.0ポイント高い。生徒の体力及び運動への興味・関心を高め、特に男子は、C・D・Eの生徒をB、Aへ引き上げる取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

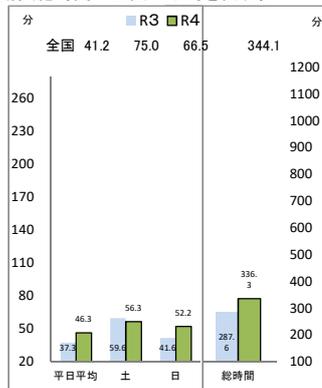
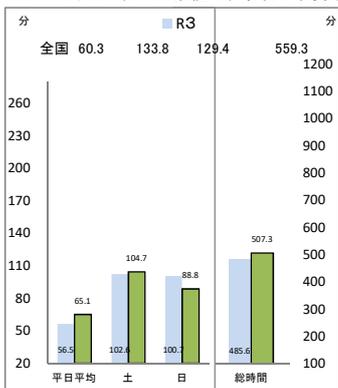
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



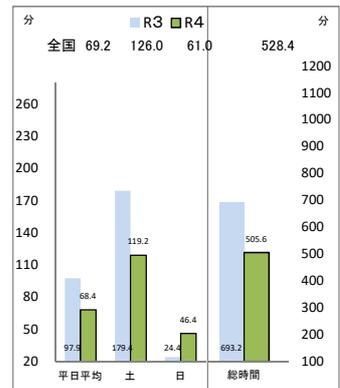
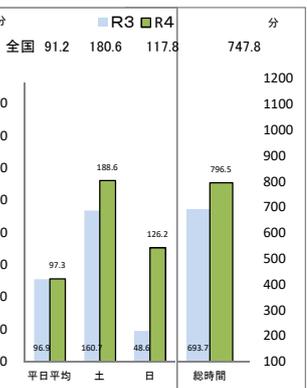
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国と比較すると、男子が「52分短い」、女子が8分短い結果であった。
- ・土・日曜日は、男子において、全国平均より土曜日で約29分、日曜日で約40分短い。女子においては、土曜日で約18分、日曜日で約14分短い。
- ・週休日における運動時間の確保に向けた手立てが必要である。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国と比較すると、男子が「49分長い」、女子が「23分短い」結果であった。
- ・平日は、全国平均と比較して男子は6分、女子は1分短い。
- ・土・日曜日は、男子において、全国平均より土曜日で約8分、日曜日で約9分長い。女子においては、土曜日で約7分短く、日曜日で約15分短い。

【改善策】

【小学校】

- ・体づくり運動タイムの設定による、児童の運動実施時間の確保

【共通・その他】

- ・市教委作成「運動好きな子供を育てる授業ポイント」の周知、実践
- ・小中一貫教育を通じた体力向上(専門性を生かした授業実践)
- ・運動大好き「かごしまっ子」育成推進プランの定期的な点検・修正による推進プランの促進(結果を検証し対策について話し合う研修の場)
- ・「チャレンジかごしま」への積極的取組の推進(敏捷性を高める運動等)

【中学校】

- ・体育実技講習会等への積極的参加の促進

- ・「一校一運動」及び「一家庭一運動」の推進(週2～3回15分程度)
- ・副読本や学習カード等を活用し、ねらいや目標を明確にした授業実践の促進

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

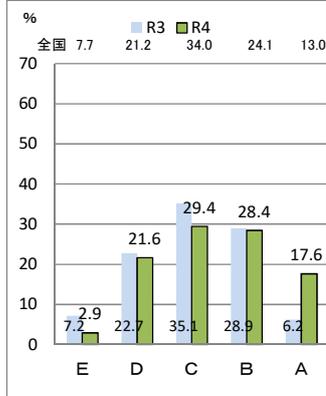
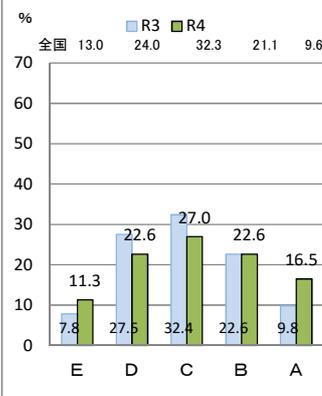
南さつま市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

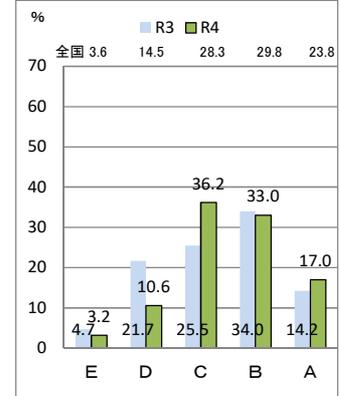
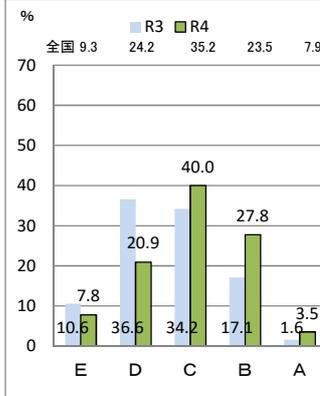
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価標準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価標準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子はEの割合が3.5ポイント、Aの割合が6.7ポイント増加している。
- ・女子は、Eの割合が4.3ポイント減少し、Aの割合が11.4ポイント増加している。
- ・男女とも、前年度と比較してAの割合が増加している。
- ・今後は、E、Dの児童の体力及び運動への興味・関心を高め、BやAへ引き上げる取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、E、Dの割合がそれぞれ2.7、15.6ポイント減少し、C、B、Aの割合がそれぞれ5.8、10.7、1.9ポイント増加している。
- ・女子は、E、Dの割合がそれぞれ1.5、11.1ポイント減少し、C、Aの割合がそれぞれ10.7、2.8ポイント増加している。
- ・今後は、C、Bの児童の体力及び運動への興味・関心を更に高め、BやAへ引き上げる取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

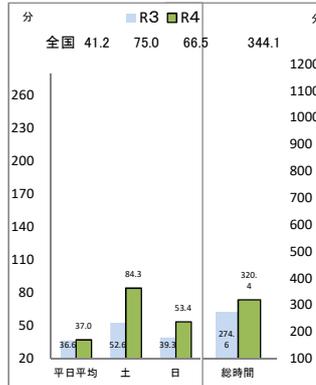
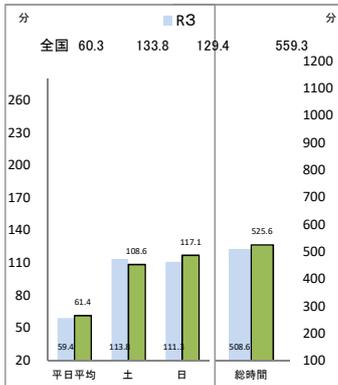
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



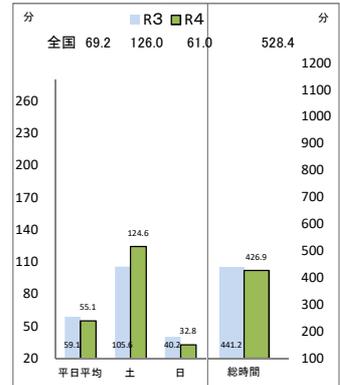
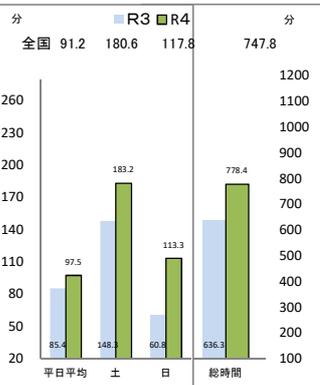
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、男女ともに前年度と比較して増加しているが、全国平均と比較すると、男女ともに「わずかに短い」結果であった。
- ・平日は、男女とも運動時間に大きな差は見られない。
- ・土・日曜日は、女子の土曜日が長い、他は短い。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較して、男子が「わずかに長い」女子が「短い」結果であった。
- ・前年度と比較して男子は運動時間が増加しており、女子は土曜日については運動時間が増加しているが、他は減少している。

【改善策】

【小学校】

・「チャレンジかごしま」を活用し、運動の日常化への取組を工夫する。

【中学校】

・運動部活動の指導の工夫改善を図ったり運動部活動に所属していない生徒の運動実施時間を増やしたりする取組を進める。

【共通・その他】

・体力ナビ等を活用して、分析等を行い、自校の課題を明確にする。

・自校の課題に即した教科体育の充実(分かる・できる体育、運動量の確保、補強運動の充実、授業を通じた研修等)を行う。

・体育・保健体育の授業における補強運動の運動内容及び実施方法等の充実を図る。

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

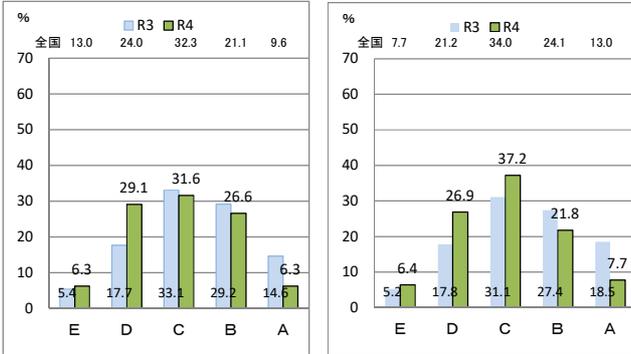
南九州市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



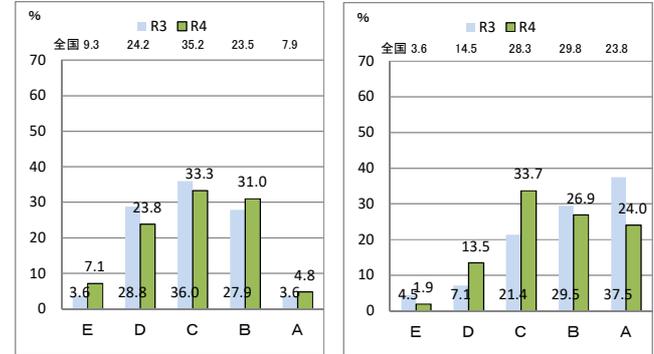
※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。
小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下

〈現状及び課題〉
 ・全国平均と比較して男子は、A+Bの割合が高いがDの割合が高い。女子はA+Bの割合が低く、D+Eの割合が高くなっており、体力の低下が懸念される。
 ・昨年度と比較すると、男女ともAが減少し、Dが大幅に増加していることから、特に下位層の運動への興味・関心を高めるとともに、体力の向上を図る取組を充実させていく必要がある。
 ・男女とも「長座体前屈」「上体起こし」が課題である。柔軟性を高める運動を授業や体力向上の取組等で継続的に行う必要がある。

【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。
中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉
 ・全国平均と比較して、男子はA+Bの割合が高く、D+Eの割合が低くなっており、体力の向上が伺える。女子はCの割合が高く、D+Eの割合が低くなっていることから、今後の体力の向上が期待される。
 ・昨年度と比較すると、男子はA+Bが大幅に増加しており、体力の向上が伺える。女子は、Eが増加しており、まずはDへ引き上げる取組が必要である。
 ・男子は「上体起こし」、女子は「長座体前屈」が課題である。共に柔軟性が必要な運動であることから、授業や体力向上の取組等で継続的に行う必要がある。

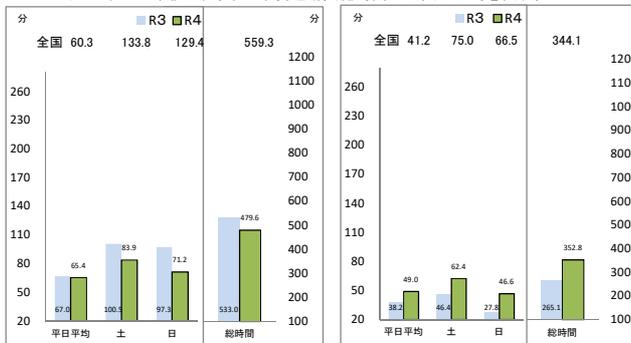
【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日) (1週間) (平日の平均及び土日) (1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜~金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

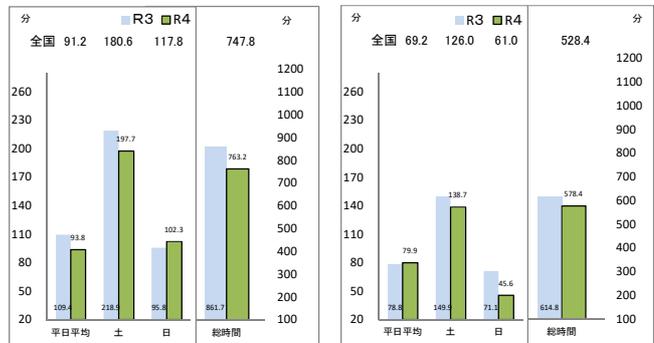
〈現状及び課題〉
 ・1週間の総運動時間については、全国平均との比較において、男子は「短く」、女子は「ほとんど差がない」結果であった。
 ・平日及び土日については、全国平均との比較において、平日は男女とも長く、土日は男子が低く、女子は長かった。男子は、家庭と連携し、週休日の運動時間を確保に努める必要がある。
 ・昨年度との比較では、男子は平日及び土日も全て減少し、女子は平日及び土日も全て増加した。

【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日) (1週間) (平日の平均及び土日) (1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉
 ・1週間の総運動時間については、全国平均との比較において、男子は「ほとんど差がない」、女子は「長い」結果であった。
 ・平日及び土日については、全国平均との比較において、男女ともに平日と土曜日は長く、日曜日だけが低い。日曜日の運動の時間を確保する手立てが必要である。
 ・昨年度との比較では、男女ともに全体的に運動時間が減少している。

【改善策】

【小学校】

・全体的に体力の低下が伺えることから、体を動かすことの楽しさや記録が伸びた達成感を味わわせることなど、運動好きの子供を増やしていく必要がある。そのために、授業における場づくりの工夫やICT端末機器等の効果的活用など、授業改善を図るよう指導していく。また、体育の授業での十分な運動量の確保を指導するとともに、家庭への運動機会の確保に向けた啓発を図る。

【中学校】

・男女ともに体力を維持している状況であることから、更なる体力向上を目指し、授業の充実と継続的な体力づくりに努める。特に柔軟性が課題であるので、柔軟性を高める運動を中心とした、継続的な柔軟性の運動機会を意図的に設定する。

【共通】

・体育授業の準備運動において「課題となる運動の1分間補強運動」を位置付け、確実に実践することにより、各学校において体力・運動能力調査において課題となった運動の改善を図る。特に本市は「柔軟性」が課題となっていることから、「チャレンジ!かごしま」の中でも、「のばしてこころ」を継続的に取り組むよう推奨していく。

・体育授業において、体育黒板を使用し、「目標の提示、課題を解決する活動、振り返りの活動」を確実に位置付け、問題解決的な学習が展開されるような授業改善を図る。

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

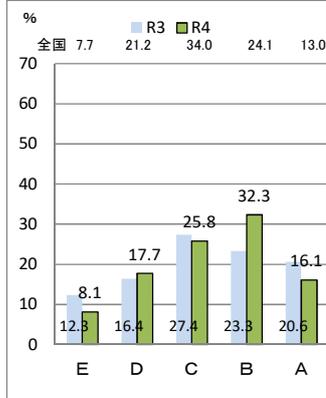
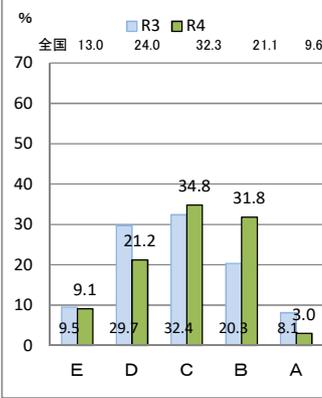
阿久根市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

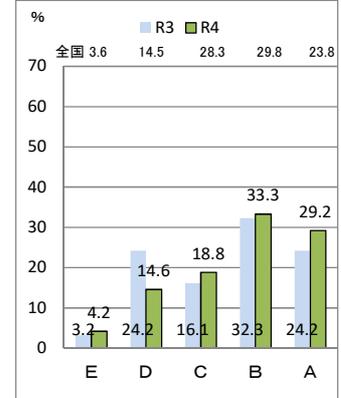
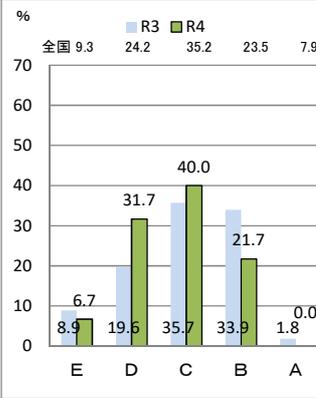
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- 男子では、A、Bを合わせた割合を比較すると、R3から6.4ポイント増加しており、同様にD、Eを合わせた割合では、R3から8.9ポイント減少していることから、全体的に体力が向上している。
- 女子では、男子と同様にA、Bを合わせた割合が4.5ポイント増加し、D、Eを合わせた割合が2.9ポイント減少したことから、全体的に体力が向上している。

〈現状及び課題〉

- 男子では、R3に比べC、Dの割合が増加している。特に、Aの生徒が0人である。また、D、Eを合わせた割合が9.9ポイント増加している。
- 女子では、A、Bの割合が増加し、C、Dの割合が減少しており、A、Bを合わせた割合が、R3より6ポイント増加している。
- 実技別では、男女とも長座体前屈や立ち幅とびが、全国平均に比べ4ポイント以上低くなっている。

【小学校 運動実施時間】

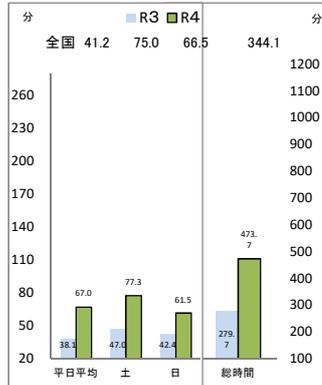
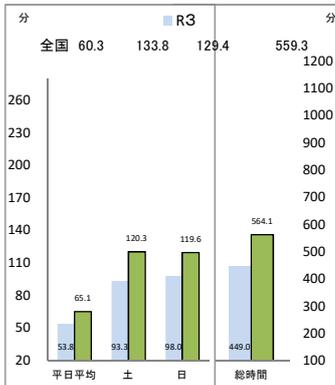
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



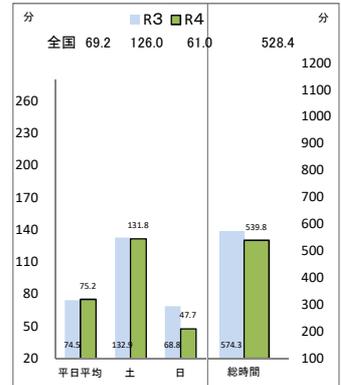
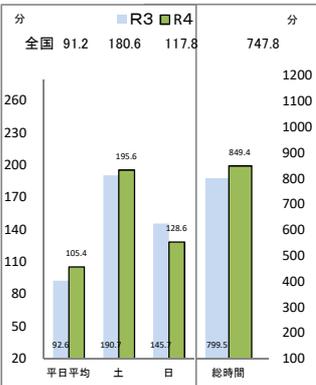
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- R3に比べ、男女とも運動時間の総時間が増加している。
- 女子では、平日平均が約1.7倍になっている。
- 女子の平日の運動時間は男子より多かったが、土日の運動時間をより多くする手立てが必要である。

〈現状及び課題〉

- 男子は、運動時間の総時間が増加し、女子は、減少している。
- 男子の平日と土曜の運動時間が増加し、日曜の運動時間が減少している。土日合わせた時間は、R3より12.2ポイント減少している。
- 女子の平日と土曜の運動時間は横ばいであるが、日曜の運動時間が21.1ポイント減少している。

【改善策】

【小学校】

- 本調査の結果分析を行い、体育の授業を改善するとともに、家庭での運動についても啓発を図る。

【中学校】

- 本調査の結果分析を行い、各学校の課題を明確にするとともに、年間指導計画を立て、計画的に補強運動等を行う。

【共通】

- 「チャレンジかごしま」に計画的に取り組み、家庭と連携した「運動大好きかごしまっ子」育成推進プランの立案と評価を行う。
- 「筋力」「柔軟性」等の強化を目的とした補強運動を計画し、授業等で計画的に実施する。

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

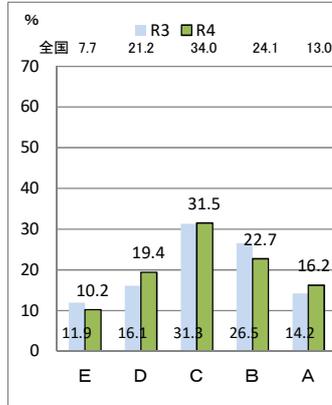
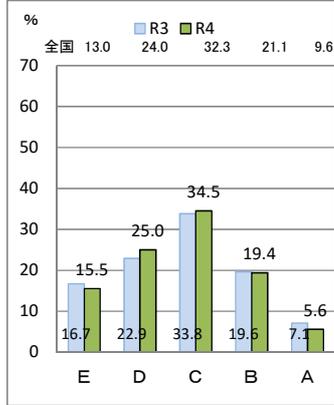
出水市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

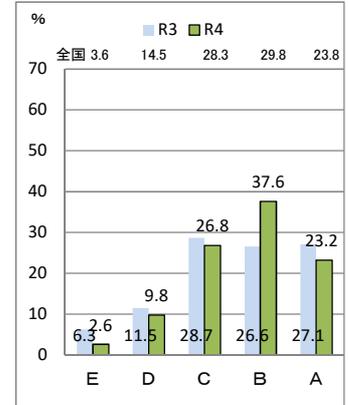
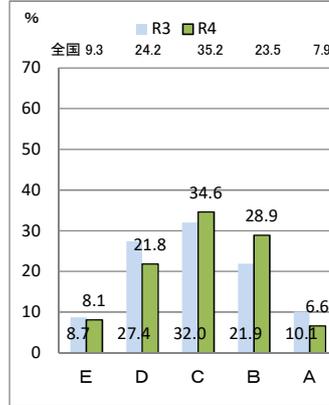
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A: 65点以上 B: 58点～64点 C: 50点～57点 D: 42点～49点 E: 41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A: 57点以上 B: 47点～56点 C: 37点～46点 D: 27点～36点 E: 26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子はAの割合が1.5ポイント、Eが1.2ポイント減少し、Dが2.1ポイント増加した。女子はEの割合が1.7ポイント減少し、Dが3.3ポイント増加した。また、Aが2.0ポイント増加し、Bが3.8ポイント減少した。
- ・別紙実技集計表から、男子は全ての種目で全国・県平均を下回り、課題が見られる。女子は、課題であった20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げで全国・県平均を上回った。

〈現状及び課題〉

- ・男子はDの割合が5.6ポイント減少し、Bが7.0ポイント増加した。女子はEの割合が3.7ポイント、Aが3.9ポイント減少し、Bが11.0ポイント増加した。
- ・別紙実技集計表から、男女とも上体起こし、反復横とび、立ち幅とび、ハンドボール投げが全国・県平均を上回り、筋力や瞬発力は身に付いていると考えられる。長座体前屈は男女とも全国平均を下回り、柔軟性の課題があると捉えられる。

【小学校 運動実施時間】

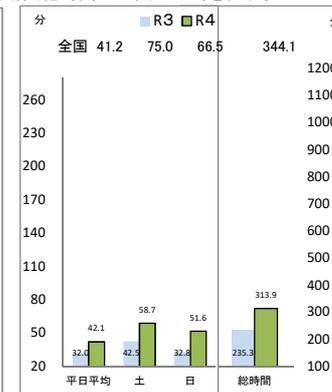
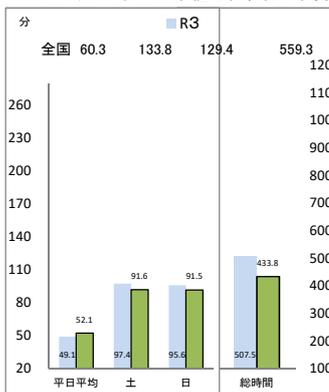
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



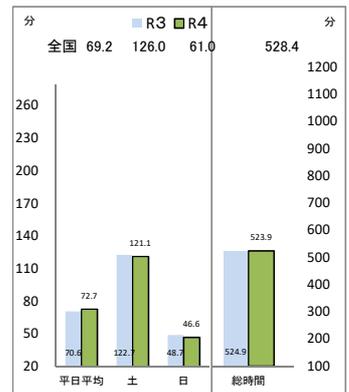
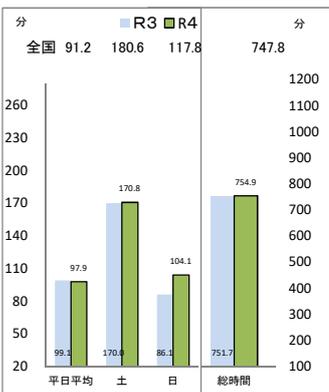
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・グラフから、令和3年度と比較すると、男子の運動時間は減少し、女子の運動時間は増加している。
- ・全国では男女とも前年度よりも運動時間が増加しているが、本市では新型コロナの影響が続いているものと考えられる。
- ・男女別では、男子の運動時間が長く、女子の運動時間は短い。

〈現状及び課題〉

- ・グラフから、令和3年度と比較して、男子の日曜日の運動実施時間を除いて、男女ともほぼ変化がない状態である。
- ・全国では、女子の運動時間が昨年度より減少しており、新型コロナの影響により、運動機会が減少しているものと考えられる。
- ・男女別では、男子の運動時間が長く、女子の運動時間は短い。

【改善策】

- ・本市では、授業開始5分間の補強運動「チャレ・トレタイム」を推奨し、各学校で具体的な運動を決めて実施している。その中で、走力・跳力に関する運動を実施している学校も多く、小学校の男子を除けば、その効果が少しずつ表れてきていると考えられる。一方で、取組の学校差や、単発的・短期的な取組などの課題が見られる。
- ・「チャレ・トレタイム」の継続的な取組、「一校一運動」の取組や、体育的行事等も関連させた年間を通じた計画的な「チャレンジかごしま」への取組を指導するとともに、それらの取組の中で、達成感をもたせ、高める称賛の工夫などについて指導する。
- ・運動に親しみ、日常化・生活化へとつなげられるように、「運動大好き“かごしまっ子”育成推進プラン」を計画し、実行することを指導する。

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

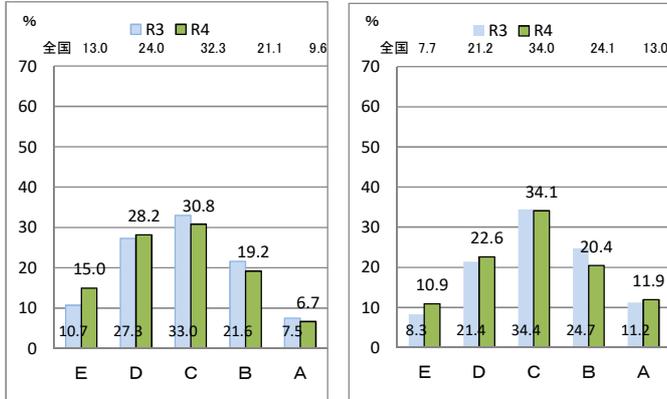
薩摩川内市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

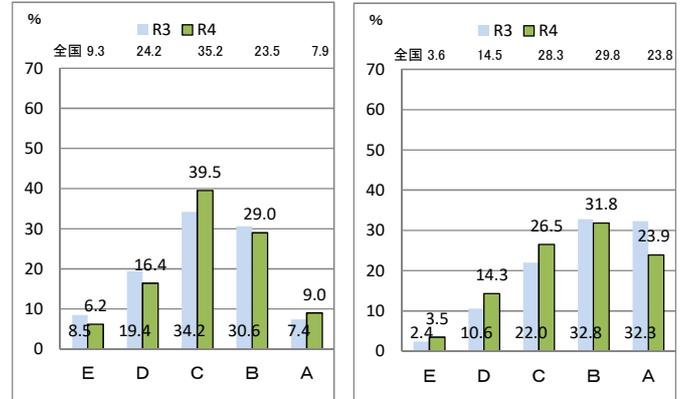
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・全国平均と比較すると、男子はD+Eの割合が6.2ポイント高く、A+Bの割合が4.8ポイント低い。女子は、D+Eの割合が4.6ポイント高く、A+Bの割合が4.8ポイント低い。
- ・R3年度と比較すると、男子はDとEの割合が増加し、AとB、Cの割合が減少している。女子は、A、DとEの割合が増加し、BとCの割合が減少している。
- ・男女ともに全国平均と比較すると下位層の割合が高いことから、下位層を1つ上の段階に引き上げるための取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・全国平均と比較すると、男子はA+Bの割合が6.6ポイント高く、D+Eの割合が10.9ポイント低い。女子はA+Bの割合が2.1ポイント高く、D+Eの割合が0.3ポイント低い。
- ・R3年度と比較すると、男子はAとCの割合が増加し、B、DとEの割合が減少している。女子はC、DとEの割合が増加し、AとBの割合が減少している。
- ・男子は体力が高い傾向にあり、大きく増加した中間層を上位層へさらに引き上げるための取組が必要である。
- ・女子は全国平均とあまり変わらないものの、最上位層が大きく減少しており、全体的に1つ上の段階に引き上げるための取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

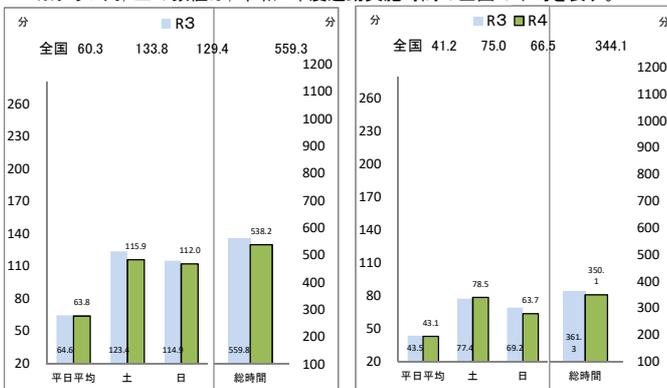
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜~金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

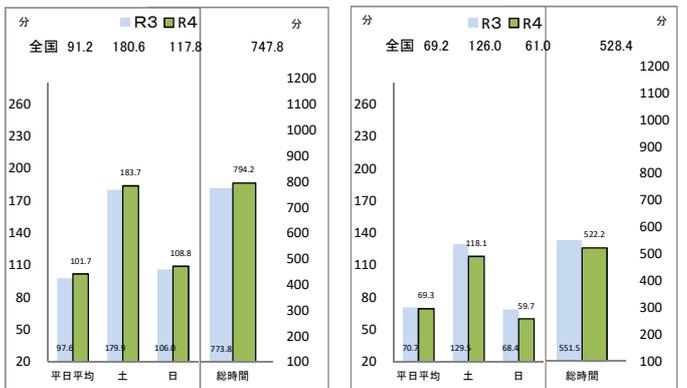
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・全国平均と比較すると、1週間の総運動時間は男子で21.1分下回り、女子で6.0分上回っている。また、男子は平日に長く、土・日曜日に短い傾向があり、女子は平日・土曜日に長く、日曜日に短い傾向がある。
- ・曜日による運動時間をR3年度と比較すると、男子は平日、女子は平日・土曜日ではあまり変わりが無いが、男子は土・日曜日、女子は日曜日に減少している。

〈現状及び課題〉

- ・全国平均と比較すると、1週間の総運動時間は男子で46.4分上回り、女子で6.2分下回っている。また、男子は、平日、土・日曜日を問わず長い傾向にあり、女子は土・日曜日で短い傾向にある。
- ・曜日による運動時間をR3年度と比較すると、男子は全体的に増加し、女子で全体的に減少している。
- ・特に女子は、1週間を通じて運動時間を確保する手立てが必要である。

【改善策】

【小学校】

- ・運動量を確保した学習過程の確立及びICTによる動画撮影等を活用した問題解決型学習の充実
- ・「一家庭一運動」や「プラス5分運動」の啓発、外遊びの奨励など家庭との連携による休日の運動時間の確保

【中学校】

- ・県体力診断プログラム「体力ナビ」を活用した個々の実態把握と体力伸長への取組の奨励
- ・運動部活動に所属していない生徒の教科体育や教科外体育での運動量の確保

【共通、その他】

- ・「運動大好き“かごしまっ子”育成推進プラン」に基づいた年間を通じた取組の見直しと推進
- ・「体力アップ! チャレンジかごしま」「一校一運動」の取組の奨励と取組時間の確保

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

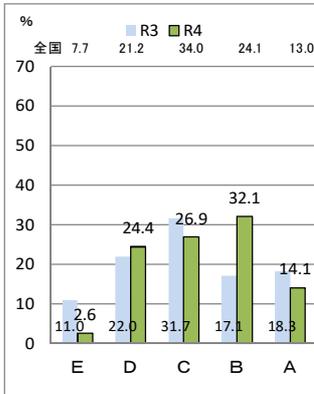
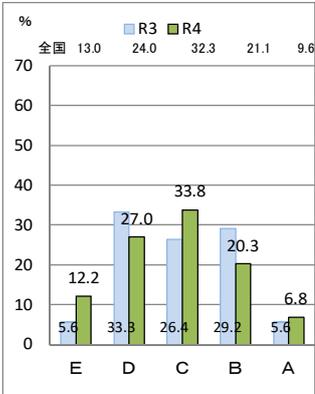
さつま町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

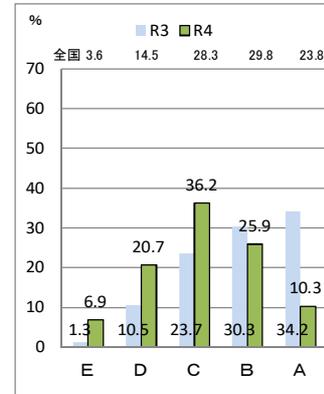
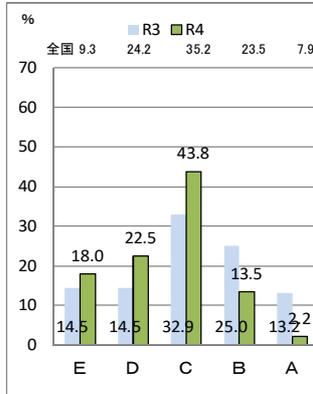
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉
 ・男子は、Aの割合が1.6ポイント、Eの割合が6.6ポイント増加している。A・Bの層が減少しており、体力の低下が見られる。
 ・女子は、Bの割合が15ポイント増え、Eの割合が大幅に減少し、全体的に体力の向上が見られる。
 ・男子・女子ともに、D・Eの層を引き上げるために、体力及び運動への興味・関心を高め、継続して運動させることが必要である。

〈現状及び課題〉
 ・男子は、A・Bの層が昨年度より減少しており、全体的に体力の低下が進んでいる。
 ・女子は、A・Bの層が減少し、C及びD・Eの層が増加していることから、全体的に体力が低下してきている。
 ・全体的に体力及び運動への興味・関心を高めるとともに、上位層へ引き上げるための支援が必要である。

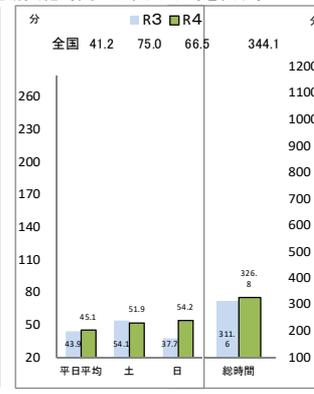
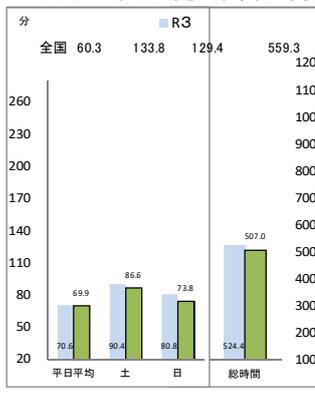
【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。

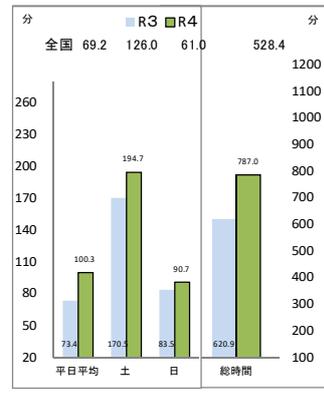
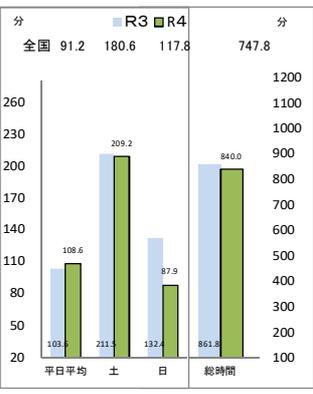


【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉
 ・男子は、昨年度に比べ、総運動時間は減少しているが、土・日の運動時間も減少している。
 ・女子は、平日の運動時間は、昨年度よりやや増えているが、日曜日の運動時間は、大幅に増加している。
 ・男女ともに、土・日の運動時間確保に向けた手立てが必要である。

〈現状及び課題〉
 ・男子は、昨年度と比較すると、わずかに運動実施時間が減少しており、全国平均並みである。
 ・女子は、昨年度と比較すると、大幅に運動実施時間は増えており、全国平均より若干下回っている。
 ・男子の土・日の運動時間の確保に向けた手立てが必要である。

【改善策】

- 【小学校】**
 ・教科体育において、課題となっている体力や運動能力に関する補強運動の実施
 ・家庭での体力つくりの必要性の啓発と、週休日の運動時間の確保
- 【中学校】**
 ・運動部活動に加入していない生徒や、バス通学の生徒の運動量の確保(教科体育及び教科外体育の充実)
- 【共通】**
 ・「体力アップ! チャレンジかごしま」に併せた、本町主催の「さつまランキング」の実施と運動機会の確保

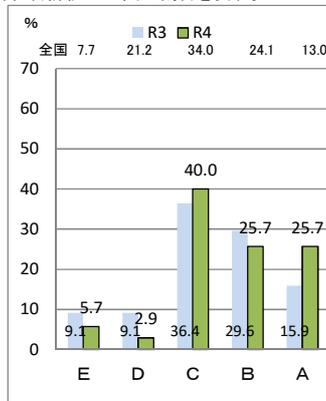
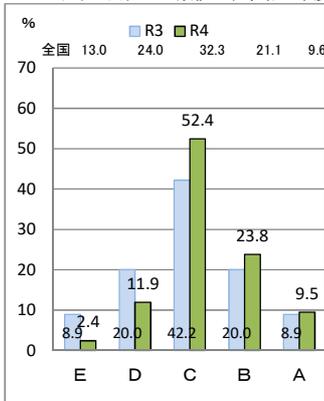
令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

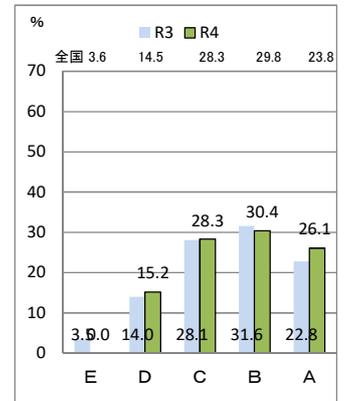
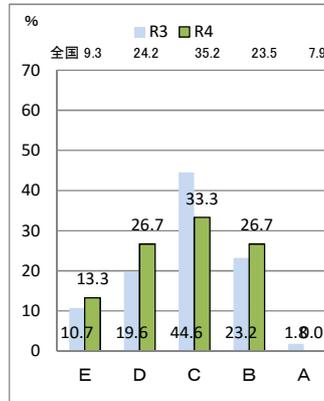
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・R3年度と比較すると、A+Bの割合が、男子は4.4ポイント、女子は6.9ポイント増加している。また、D+Eの割合が、男子が14.6ポイント、女子が9.6ポイント減少している。
- ・全国平均と比較すると、A+Bの割合が、男子は2.5ポイント、女子は14.3ポイント上回っている。
- ・本年度は、昨年度、全国平均に比べ、高い結果であったが、E、Dの児童の体力及び運動への興味・関心を高める取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・R3年度と比較すると、A+Bの割合が、男子は1.7ポイント、女子は2.1ポイント増加している。D+Eの割合が、男子が9.7ポイント増加し、女子が2.3ポイント減少している。
- ・全国平均と比較すると、A+Bの割合が、男子は4.7ポイント下回っているが、女子は2.9ポイント上回っている。
- ・男女とも、E、D、Cの児童の体力及び運動への興味・関心を高め、Cの生徒をB、Aへ引き上げる取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

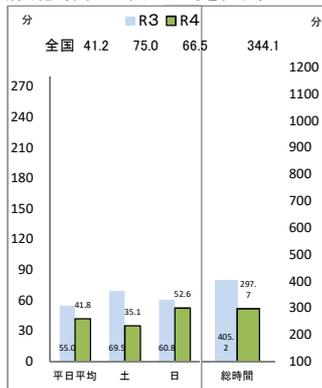
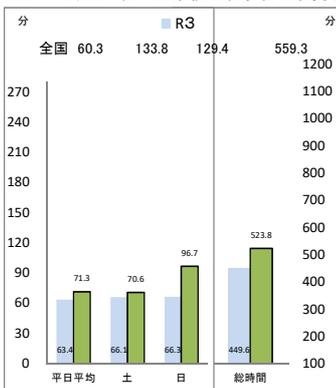
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



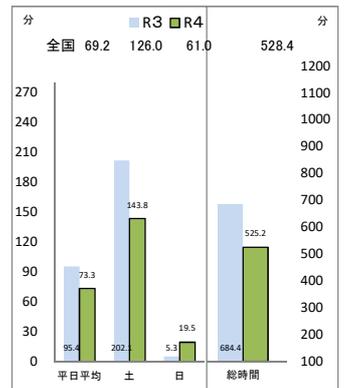
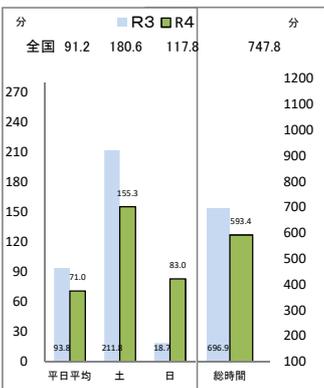
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・R3年度と比較すると、1週間の総運動時間は、男子は74.2分増加し、女子は107.5分増加している。女子は、全ての曜日減少している。
- ・全国平均と比較すると、1週間の総運動時間は、男子は35.5分、女子は46.4分短くなっている。
- ・女子は、昨年度、全国平均に比べかなり運動時間が少なくなっているため、日頃の運動時間の確保に向けた手立てが必要である。

〈現状及び課題〉

- ・R3年度と比較すると、1週間の総運動時間は、男子は103.2分、女子は159.2分減少している。男女とも、平日、土が減少している。
- ・全国平均と比較すると、1週間の総運動時間は、男子は154.5分短く、女子は3.2分長くなっている。
- ・男子は、特に総運動時間が全国平均の80%に満たないため、日頃の運動時間の確保に向けた手立てが必要である。

【改善策】

【小学校】

- ・「一校一運動」及び「体力アップ! チャレンジかごしま」への取組により、児童の運動に対する興味・関心の向上、運動に親しむ習慣の形成
- ・教科体育で運動の苦手な児童への指導の充実(体づくり運動で体を動かす楽しさや心地よさを味わせ、心と体をほぐしたり、体力を高めたりする。)

【中学校】

- ・「一校一運動」及び「体力アップ! チャレンジかごしま」への取組の継続により、運動に対する興味・関心の向上
- ・教科体育で運動量の十分な確保(特に、運動部活動に入っていない生徒への運動に親しむ習慣の形成に向けた取組)

【共通】

- ・学校、家庭、地域と連携を図り、地域で開催されるスポーツ行事や町主催行事への積極的な参加の呼び掛け

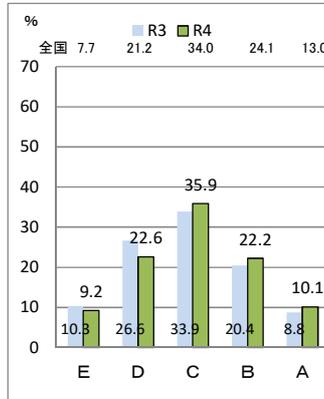
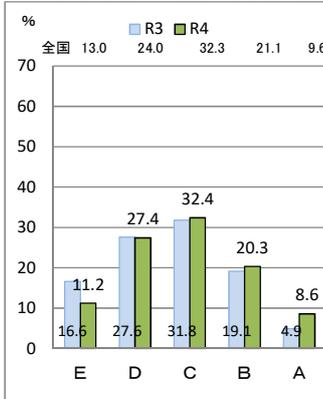
令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

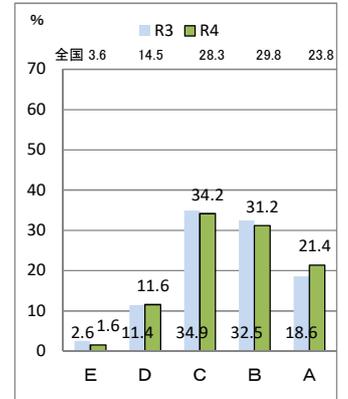
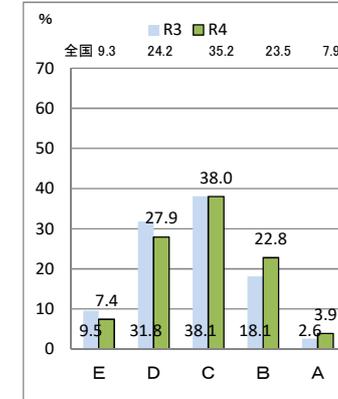
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、Eの割合が5.4ポイント減少し、Aの割合が3.7ポイント増加している。
- ・女子は、Dの割合が3.4ポイント減少し、Bの割合が1.8ポイント増加している。
- ・各学校の体力向上の取組の成果から、男女とも、D、Eの児童が減少している。今後は、Cの児童をB、Aへ引き上げる取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、D、Eの合計の割合が5.8ポイント減少し、A、Bの合計の割合が6.0ポイント増加している。引き続き体力向上に取り組み、D、Eの合計の割合をさらに5.0ポイント減少させ、A、Bへ引き上げていく取組が必要である。
- ・女子は、Aの割合が2.8ポイント増加している。他の割合はほとんど変化は見られない。Dの割合を減少させ、Cの児童をA、Bへ引き上げる取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

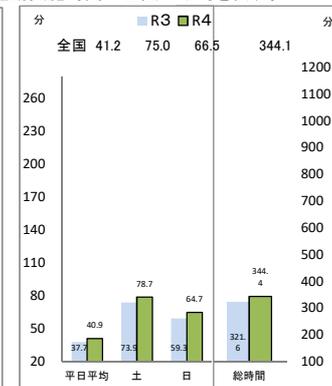
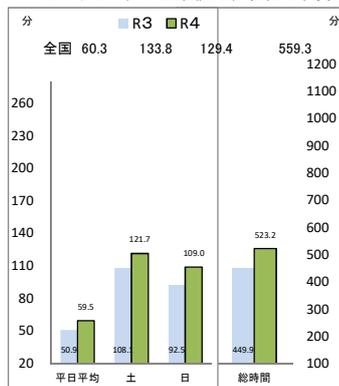
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



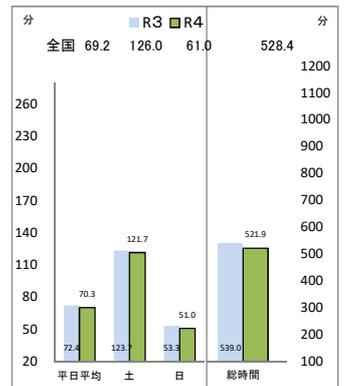
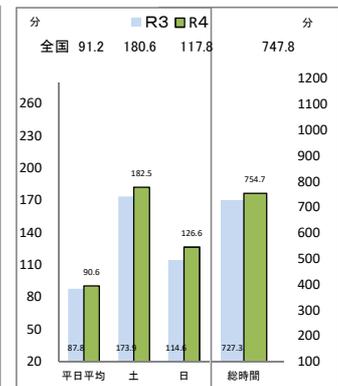
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男女共、運動実施時間は平日、土日とも増加している。
- ・運動実施時間の増加が体力総合評価の向上にもつながっていると考えられる。
- ・日常がコロナ禍以前の生活に戻つつあるので、これまで以上に運動に親しむ習慣づくりが必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子の運動実施時間は平日、土日とも増加している。総運動時間は27.4分増加している。
- ・女子の運動実施時間は平日、土日は若干減少しており、総運動時間になると17.1分減少している。
- ・女子は土日の運動時間の確保が必要である。

【改善策】

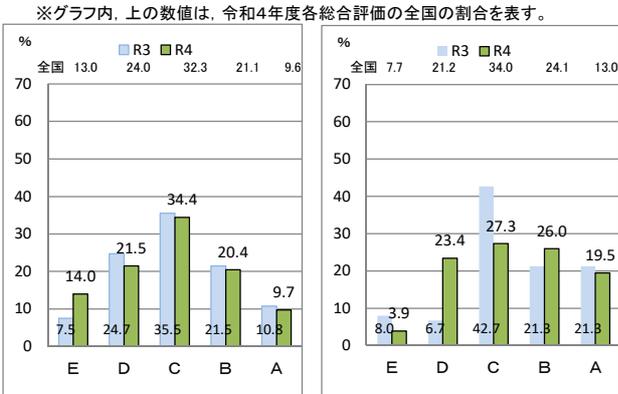
- ・各学校において、体力向上委員会等を明確に位置付け、体力向上策を検討する。
- ・PTAと協力し、学校、家庭が連携した「一家庭一運動」の具体的な取組を推進する。
- ・管理職研修会や体育主任等研修会等、各種研修会等で具体的・実践的な指導を行い、指導力の向上と授業改善を図る。
- ・体力・運動能力調査を実施するにあたり、実施方法や指導のポイント等について全職員で共通理解をする。実施の際は、練習をするとともに1回の実施で終わらずに複数回測定する。
- ・土日の運動時間の確保に向け、家庭で取り組める資料やイベント等を積極的に広報する。

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

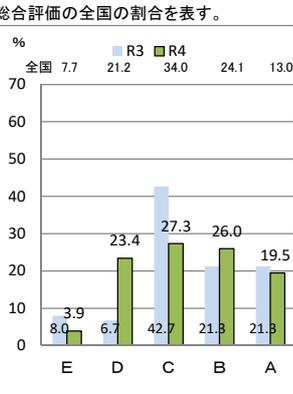
伊佐市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

【男子】

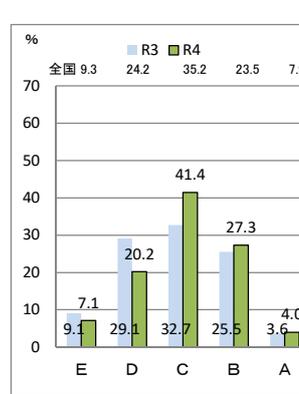


【女子】

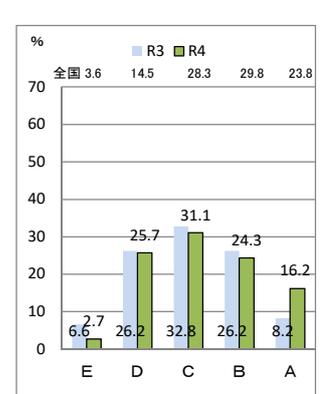


【中学校 体力総合評価】

【男子】



【女子】



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

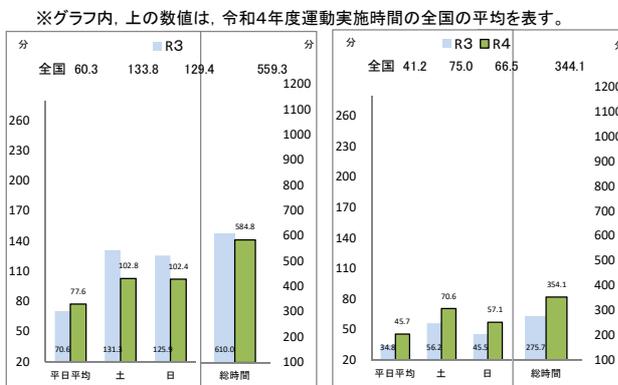
＜現状及び課題＞
 ・男子は、A～D層が減少し、E層の割合が増加した。反復横跳び、シャトルラン、50m走、立ち幅跳びについては全国を上回ったが、握力、上体起こし、長座体前屈、ソフトボール投げについては下回った。
 ・女子は、C、E層が減り、B、D層が増加した。体力合計点は、全国・県を上回ったものの、長座体前屈、上体起こし、握力については下回った。
 ・男女とも運動の楽しさを味わい、運動に親しむ態度を育てるため、友達と関わり合いながら達成感を味わう授業づくりが必要である。

＜現状及び課題＞
 ・男子は、A～C層が増加し、D、E層が減少し、体力総合点は全国並みだった。半数の種目で全国又は県を下回る結果となり、特に長座体前屈の差が大きい。
 ・女子は、A層が増加し、体力総合点は全国を下回る結果となった。特に、長座体前屈、反復横跳び、50m走の差が大きい。
 ・男女とも運動に親しむ態度を育てるため、自分のペースで学習したり、友達と関わり合ったりしながら達成感を味わう授業づくりが必要である。

【小学校 運動実施時間】

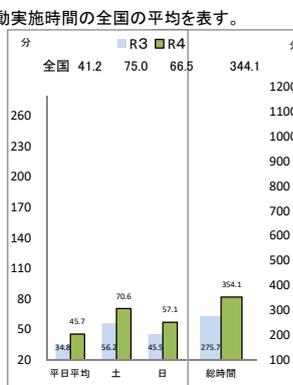
【男子】

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)



【女子】

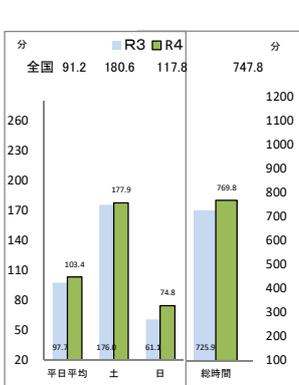
(平日の平均及び土日)(1週間)



【中学校 運動実施時間】

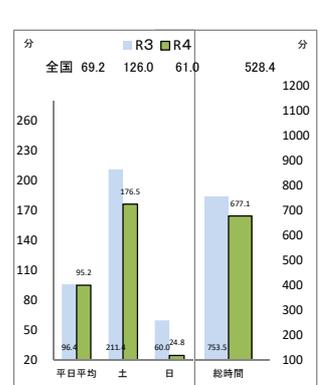
【男子】

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)



【女子】

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

＜現状及び課題＞
 ・男子は、平日、土日ともに運動時間が昨年度より減少したものの、全国・県平均を上回っている。女子は、昨年度より運動時間が増加し、全国又は県を上回る結果となった。
 ・質問紙の中で、体育の授業が楽しいと思う理由に挙げられている「友達と一緒にできる」、「できなかったことができるようになる」の視点からの授業改善を行い、運動好きな子どもを育てることが課題である。

＜現状及び課題＞
 ・男子は平日、土日共に運動時間が全国・県平均に比べて上回り、女子は下回っている。特に女子の土日の運動量が昨年度より減少している。
 ・部活の休業日である水曜日と日曜日の運動時間の落ち込みが大きく、自主的に運動に親しむ態度を日々の授業や部活動で育成することが必要である。

【改善策】

【共通】

- ・達成感・充実感を味わい、運動好きの子どもを育てるために、管理職研修会や体育主任等研修会を通して授業づくりの研修を行い、教職員の資質向上を図る。
- ・「かごしまっ子」育成推進プランや「チャレンジかごしま」と関連させながら、朝や業間に運動に親しむ時間を設定し、継続的に取組を行う。
- ・児童生徒がどのようなときに授業を楽しんでいるのかなど、質問紙内容を改めて確認させ、友達との関わりや充実感・達成感を味わう汗いっぱいの授業づくりを進めるようにする。

【小学校】

- ・学校体育に係る学校訪問を行い、体育の一単位時間の授業展開を検討し、授業改善を通して体力向上を図っていく。

【中学校】

- ・学校訪問した際に、運動への興味・関心を高める手立てについて話し合うことで、授業改善を通して体力向上を図っていく。
- ・部活動に係る競技力向上や指導力向上の各種研修会等への積極的な参加を促すことで資質向上を図る。

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

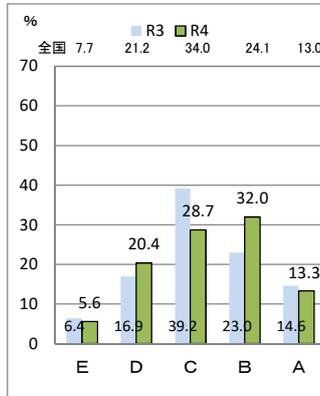
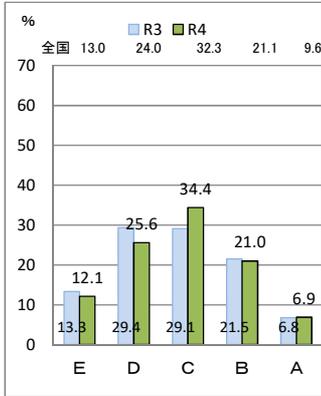
始良市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。

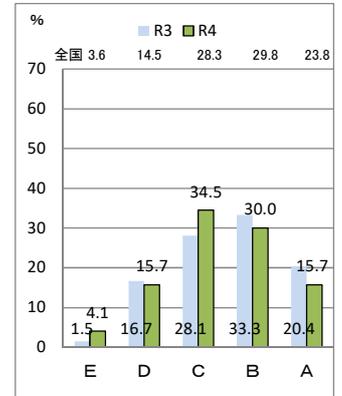
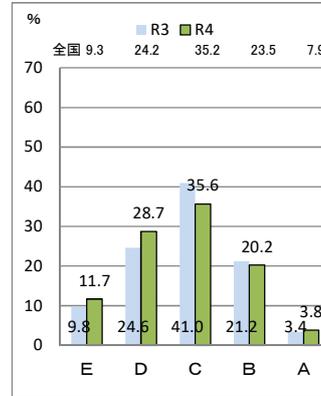


【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

※グラフの縦軸は、総合評価標準の児童生徒の割合(%)を示す。



※ グラフの横軸は、総合評価標準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価標準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

・男子は前年度と比較して、(A+B)の児童が0.4ポイント減少しているが、(D+E)の児童も5.0ポイント減少していることから、下位層の底上げが見られる。今後も、D、Eの引き上げとともに、Cの中間層にも配慮した指導が必要である。
 ・女子は前年度と比較して(A+B)の児童が7.7ポイント増加し、(D+E)の児童も2.7ポイント増加していることから、運動の得意な子と苦手の子の二極化が見られる。
 ・女子はD、Eの児童が増加しており、運動への子どもの興味関心を高め、進んで運動に取り組ませる手立てが必要である。

〈現状及び課題〉

・男子は前年度と比較して(A+B)の生徒が0.6ポイント減少し、(D+E)の生徒が6.0ポイント増加していることから、全体的な体力の低下が見られる。
 ・女子は前年度と比較して、(A+B)の生徒が8.0ポイント減少し、(D+E)の生徒が1.6ポイント増加しており、男子と同様に全体的な体力の低下が見られる。特に、A、Bの上位層の伸び悩みが見られる。
 ・男女ともに(D+E)の生徒が増加している。下位層及び中間層の引き上げが必要である。

【小学校 運動実施時間】

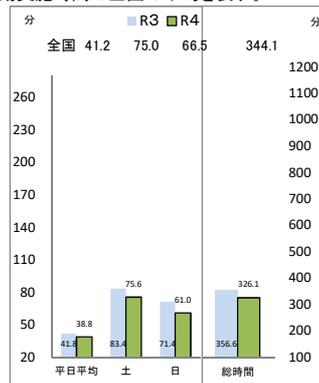
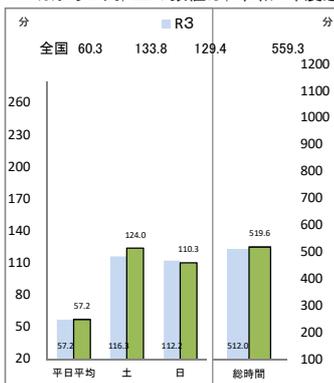
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



【中学校 運動実施時間】

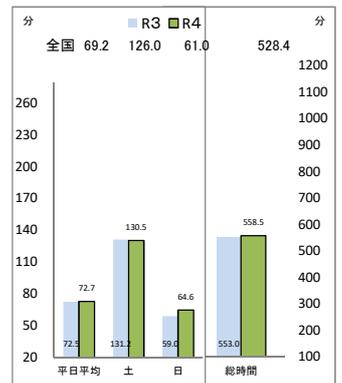
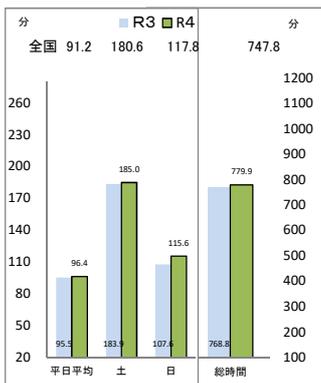
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

・全国と比較した一週間の総運動時間は、男子が「短い」、女子が「ほとんど差がない」結果であった。
 ・前年度と比較すると、総時間で、男子が「ほとんど差がない」、女子が「わずかに短い」結果となった。女子は、金曜日以外の曜日において運動実施時間が減少しており、日常生活の中で運動する時間の確保と外遊びの機会の増加を図る手立てが必要である。

〈現状及び課題〉

・全国と比較した一週間の総運動時間は男女ともに「わずかに長い」結果であった。
 ・前年度と比較すると、男女ともに「ほとんど差がない」結果となった。スマートフォン等の遊びの多様化による運動離れの傾向や新型コロナウイルス感染症の影響等がある中で、男女併せて7割以上の曜日で運動実施時間が増加している。今後も、運動の日常化を図るため、教科体育等における運動の量と質の向上を図る指導に努めたい。

【改善策】

- ① 調査結果の分析に基づいた、教科体育、一校一運動等での補強運動等の設定と、継続的な取組の推進
- ② 学習内容の明確化、振り返りの実施、一単位時間の運動量の確保を意識した授業実践
- ③ 「体力アップ! チャレンジかごしま」への市内全学校・全学級参加の推進等による、運動の楽しさ、意欲を高める指導の充実
- ④ 教師の指導力向上を図る「体力・気力アップ始良っ子育成研修会」、「小・中学校体育主任研修会」等の実施
- ⑤ 運動の日常化を目指す「一家庭一運動」の推進
- ⑥ 始良・伊佐教育事務所による学校体育に関する学校訪問の推進
- ⑦ 幼児期運動指針を活用した幼児期からの運動習慣の基盤づくりの充実

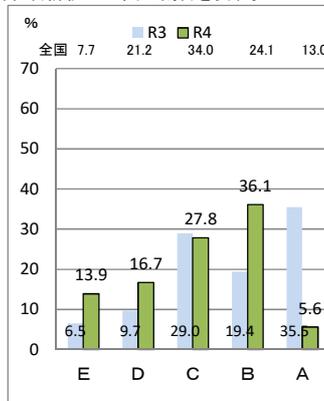
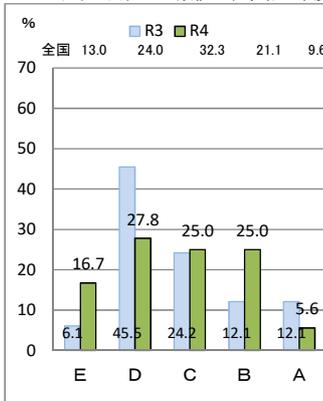
令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

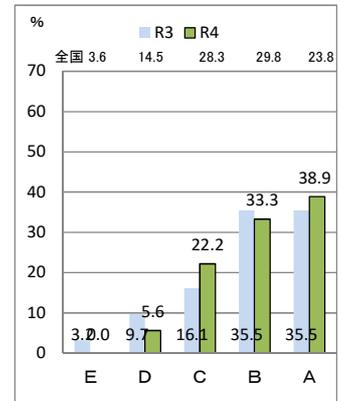
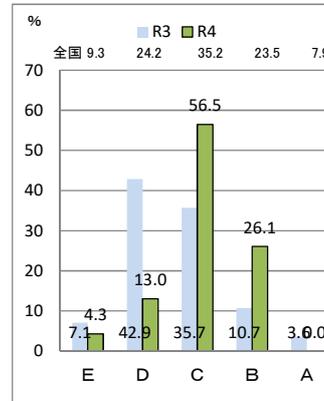
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、Eの割合が増加したものの、Dが減少し、相対的に中間、上位層の割合が増え、全体的に体力の向上が見られる。
- ・女子は、Bの割合が大きく増加したが、その分、Aの割合が大きく減少し、全体的に体力の低下が見られる。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、Aの割合が皆無となったが、B、Cの割合が大きく増加し、全体的には体力の向上が見られる。
- ・女子は、Eの割合が皆無となり、Aの割合が一番多く、全体的に総合評価が高い生徒が増えている。

【小学校 運動実施時間】

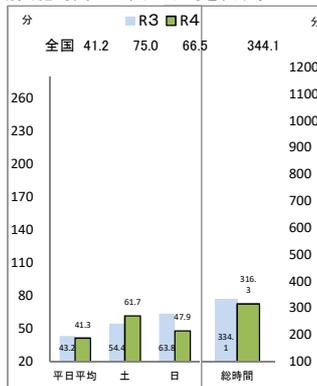
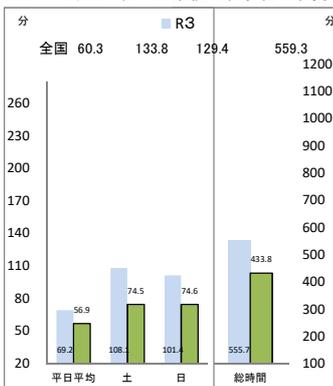
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



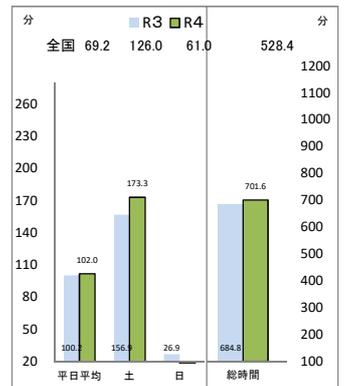
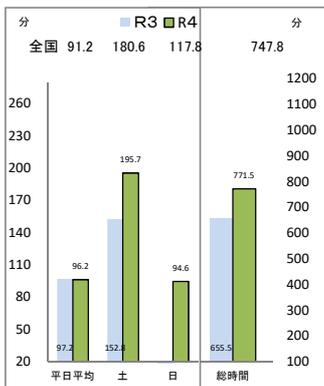
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男女ともに1週間の総運動実施時間は、令和3年度に比べて減少しており、特に男子の運動時間の減少が顕著である。これは新型コロナウイルス感染症の感染防止対策による活動自粛の影響が前年度から尾を引いていると思われる。
- ・総時間は、全国平均を下回っている。

〈現状及び課題〉

- ・男女ともに平日の運動時間は昨年度並みであったが、男子は、土・日の運動時間が増加し、総時間も全国平均を上回っている。
- ・女子は日曜日の運動時間が少ないが、土曜日の運動時間が増加し、相対的に総時間はやや増加し、全国平均を大きく上回っている。

【改善策】

- ＜小学校＞ ○少人数学級(複式学級)等の実態に応じた、創意工夫を生かした授業の展開、体力づくりの推進(一輪車・縄跳び運動等)
- ＜中学校＞ ○小中連携による授業研究の実施、体育的行事・部活動等の合同実施の推進
- ＜共通＞ ○授業の工夫・改善と運動量の確保
 - ◇導入時→目標(めあて・ねらい等)を児童・生徒にしっかり示す。
 - ◇展開時→児童・生徒同士で話し合い、工夫する活動を積極的に取り入れるとともに、運動量の確保を常に意識する。
 - ◇終末時→学習したことを振り返る活動を確実に進行。(タブレットの有効活用)
- 教科外の取組の充実
 - ◇各校の特色を生かしながら、地域と連携した体力づくりの推進に努める。(町内一周駅伝・豊祭相撲・子ども会ウォーキング等)

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

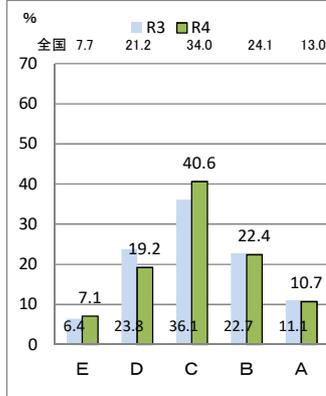
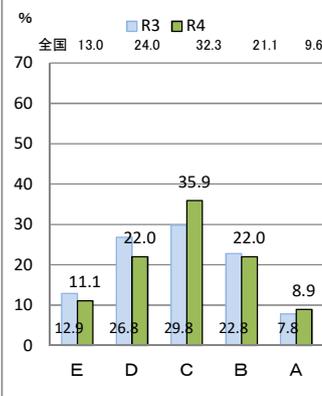
鹿屋市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

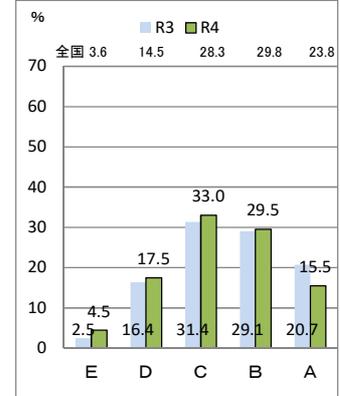
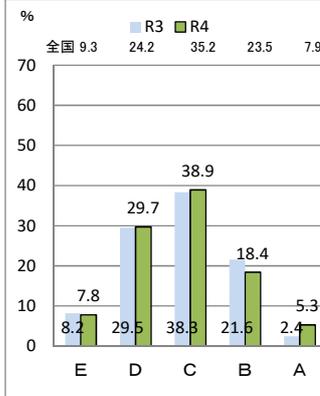
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価標準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価標準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子はE, Dの割合がともに減少し、Cの割合が6.1ポイント増加しており体力の底上げがみられる。全国と比較してもB, Cの割合が高い。
- ・女子はDの割合が4.6ポイント減少し、Cの割合が4.5ポイント増加している。全国と比較するとCの割合が高い。
- ・男女ともに上位層へ引き上げるため、運動への興味・関心を高めるとともに授業改善や業間体育等の取組をより充実させる必要がある。

〈現状及び課題〉

- ・男子はAの割合が2.9ポイント増加しているものの、Bの割合が3.2ポイント減少している。全国と比較するとCの割合が高くなっている。
- ・女子はAの割合が5.2ポイント減少し、B～Eの割合が増加している。全国と比べるとD, Eの割合が高い状況である。
- ・男女ともに1ランク上へ引き上げるため、授業改善や生徒会活動による運動の推進等の取組を充実させ、運動意欲を高める必要がある。

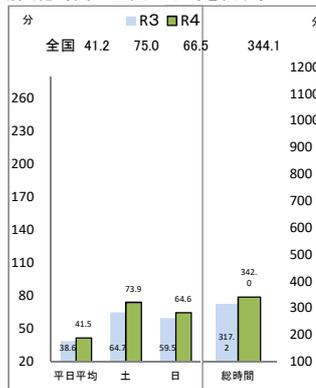
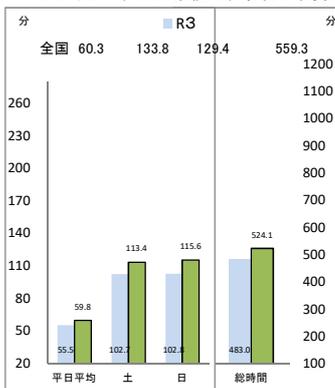
【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。

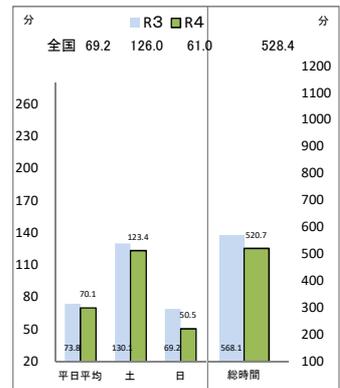
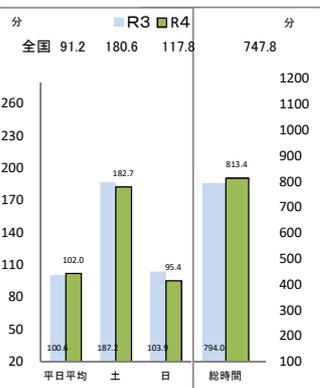


【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、男女ともに昨年度を大幅に上回っているものの、全国と比較すると男子は35分短く、女子はほぼ変わらない。
- ・平日の運動時間は、男女ともに全国とほぼ変わらないが、土日の運動時間は全国と比較すると男子が34分短く、女子もわずかに短い。
- ・自発的に運動に取り組むよう、興味・関心を高める必要がある。

〈現状及び課題〉

- ・総運動時間は、男子は昨年度を19分上回ったものの、女子は48分下回った。全国と比較すると男子は65分長く、女子はほぼ変わらない。
- ・平日の運動時間は、男女ともに全国を上回っているが、土日の運動時間は全国と比較すると男子が16分短く、女子も13分短い。
- ・土日の運動を促進するため、家庭への啓発が必要である。

【改善策】

- ・体育、保健体育の授業において、目標の確認や振り返りの活動を徹底するとともに、ICTを活用し、「できる」(達成感)を味わえる授業づくりや仲間と一緒に活動をしたり、話し合い活動をしたりするなど友達と関わる活動を取り入れた授業改善を図る。
- ・学校や家庭において日頃から児童生徒に、運動をすることの大切さを伝えるとともに、運動の楽しさを実感し、工夫しながら運動する習慣の定着に努めるよう、体育、保健体育の授業や体力向上に係る研修会への積極的な参加を通して、教員の指導力向上を図る。
- ・家庭、地域と連携し、資料配付等により、睡眠、食事、運動習慣など健康に係る意識を高め、徒歩での登下校や昼休みの外遊びなど運動の生活化や日常化を推奨し、体力の向上を図る。また、調査の個人データ分析により、目標を設定し、家庭での運動を促進する。
- ・課題である「上体起こし(筋力・筋持久力)」、「反復横跳び(敏しょう性)」、「立ち幅跳び(瞬発力)」を向上させる補強運動等の取組(鹿屋体育大学が推進している5分間運動「Exseed」やチャレンジかごしま)を年間通じて実践する。また、児童会、生徒会活動による主体的な取組を推進する。

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

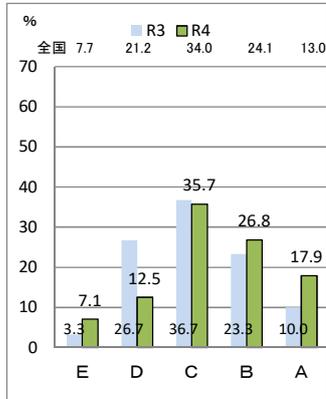
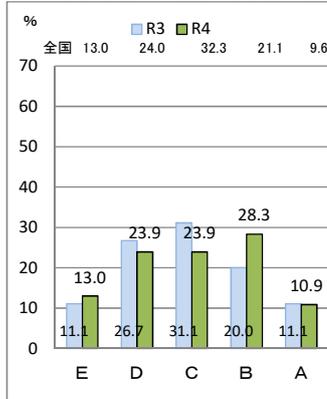
垂水市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

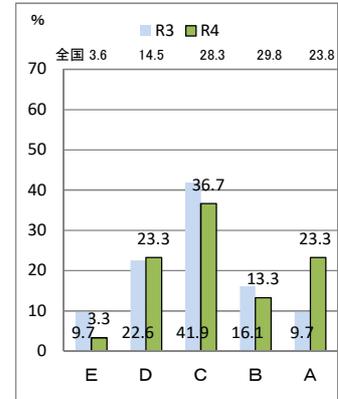
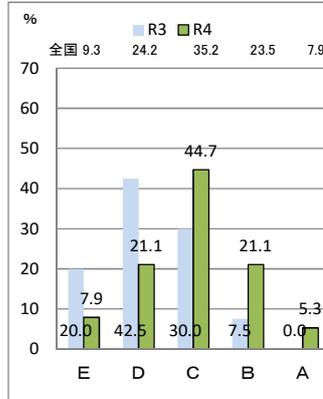
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男女ともC, Dの割合が減少し, A, Bの割合が増加している。
- ・男子は, Bの割合が8.3ポイント, Eの割合が1.9ポイント増加している。
- ・女子は, Eの割合が3.8ポイント増加したが, Dの割合が14.2ポイント減少し, Bの割合が3.5ポイント, Aの割合が7.9ポイント増加している。
- ・男子は, D, Eの割合が36.9%なので, B, Cへ引き上げる取組が必要

〈現状及び課題〉

- ・男子は, Dの割合が21.4ポイント, Eの割合が12.1ポイント減少し, A～Cの割合が合わせて33.6ポイント増加している。B, Cの全体に占める割合が65.8%と高く, A, Bへ引き上げる取組が必要である。
- ・女子は, Eの割合が6.4ポイント減少し, Aの割合が13.6ポイント増加している。Aの割合が増加したものの, C, Dの割合が高いため, それぞれ一つ上の段階に引き上げる取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

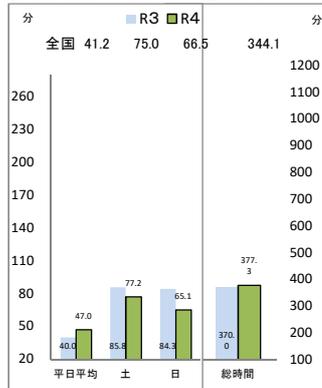
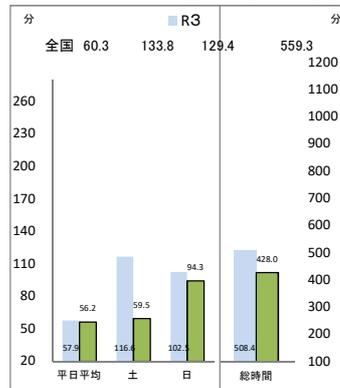
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



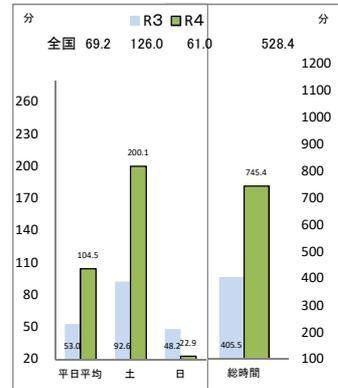
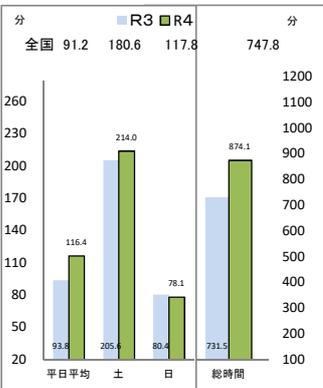
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間を全国平均と比較すると, 男子は130時間以上短く, 女子はわずかに長い。
- ・平日の運動時間は, 全国平均と比較して男女ともに大きな差は見られない。
- ・土, 日曜日は, 女子はほとんど差がないが, 男子では, 土・日曜日とも全国平均よりも短い。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間を全国平均と比較すると, 男子が約126分, 女子が217分長い。
- ・平日の運動時間は, 全国平均と比較して男子はわずかに長く, 女子は長い。
- ・土, 日曜日は, 男子で日曜日の運動時間が全国平均より短い。女子においては, 土曜日が全国平均より約74時間長く, 日曜日が約38分短い。

【改善策】

【小学校】

・「体力向上プログラム」の運動例や1人1台タブレット端末を効果的に活用した, 家庭, 地域での運動習慣育成の推進

【中学校】

・運動の仕方が分かったり, コツを発見したりするなど「分かる楽しさ」を中心とした授業改善

【共通・その他】

・鹿屋体育大学と連携した, 体育授業における教員の技術指導向上と, 体力向上に関する教員研修の充実

・県総合体育センターのスポーツ・レクリエーション体験教室を活用した, 「運動に親しみ、楽しむ場」の機会設定

・ICT機器を効果的に活用した体育授業改善

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

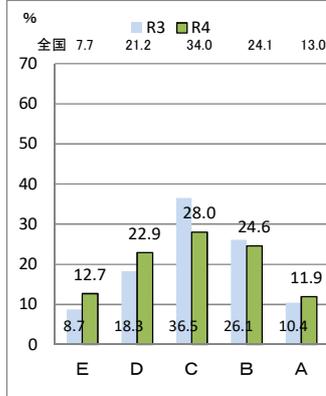
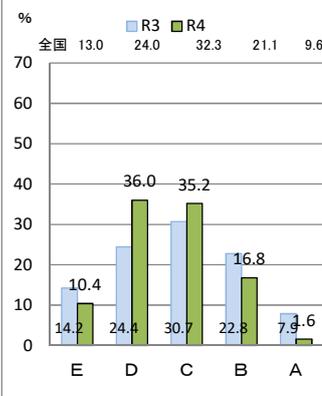
曾於市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

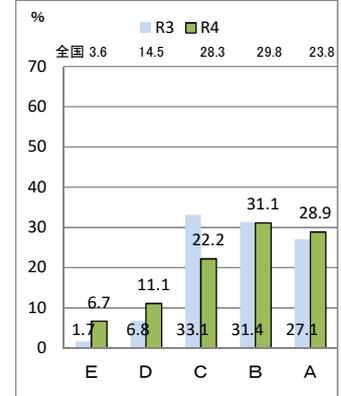
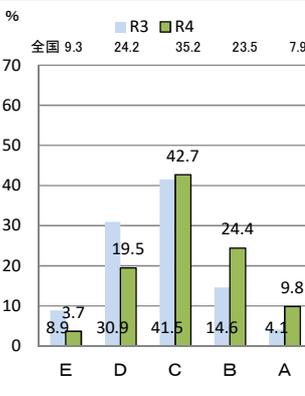
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子は中位層が増え、同時にD層も増加、A層が減少する結果となった。全国平均以上の種目が3/9種目であり、上体起こし、長座体前屈が全国平均を大きく下回り、筋力(腹筋)と柔軟性が課題である。
- ・女子はA、D-E層が増加し、C層が減少している。全体的にはD-E層に厚みが出る結果となった。種目別では3/9種目が全国平均を上回っており、上体起こし・長座体前屈が全国平均を大きく下回る状態であり、男子と同様に筋力(腹筋)と柔軟性が課題である。

〈現状及び課題〉

- ・男子はC-A層の増加、D-E層の微減となった。特に持久力が全国と比較しても5ポイント以上高く、握力以外の種目については、ほぼ、全国平均並みとなっており、握力の課題が明確となった。
- ・女子は昨年度と比して、C層の減少、D-E層の増加がみられる。特に持久力においては、全国、県よりも9ポイント以上低い結果となった。他種目においても全国平均よりも低いものが目立つが、A-B層には一定の増加が見られる。

【小学校 運動実施時間】

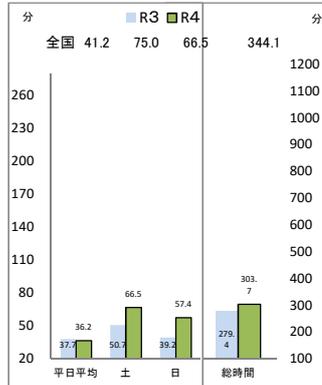
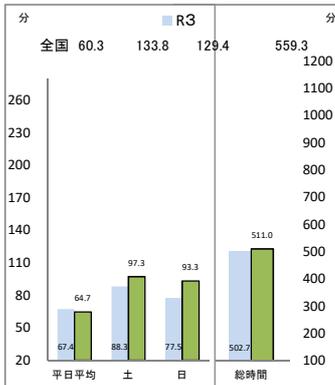
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



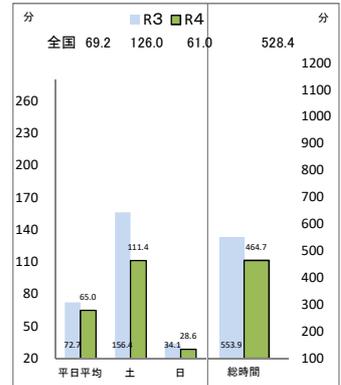
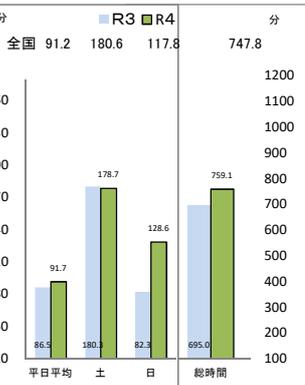
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子の総時間は昨年度よりも若干増加し、週末の運動時間も増加している。
- ・女子は昨年度も男子と比して運動時間の少なさが目立っていたが、本年度はその水準から増加している。コロナ禍の影響もあったが、その中でも運動に親しむ機会が増えてきている。

〈現状及び課題〉

- ・男子は昨年度との比較では、日曜日が大幅に増加している。部活動の関係もあるが、その他の理由も調査する必要がある。
- ・女子は曜日に限らず、全体的に減少傾向がみられる。
- ・男女ともに新型コロナウイルス感染症の発生以前と比較すると、回復傾向は見られるものの、運動不足が心配される状況にある。

【改善策】

- ・体育・保健体育の授業実践の中で、体づくりを目指すプログラム等の積極的な活用や、学校の実態(結果からの分析)に応じた体力・筋力の向上の実践を図りながら、ICTの活用や学びあい等を取り入れた体育・保健体育となるような授業改善を目指す。
- ・児童生徒の身体活動時間の確保や望ましい運動習慣の形成を目指し、客観的に振り返りができるよう「体力ナビ」の活用、見える化を促し、児童生徒の体力・運動能力や健康への関心を高めるなど、自ら進んで運動に取り組む習慣づくりを目指す。
- ・コロナ禍における体力低下で終わらせるのではなく、体を動かす喜びを感じられるような一校一運動の充実を推進し、各学校の取組を紹介する場の設定を行う。

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

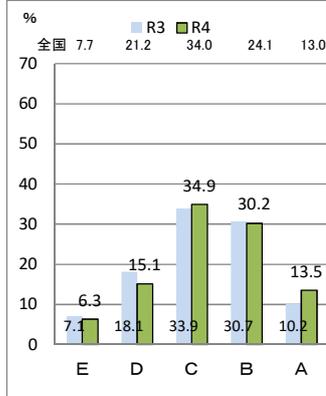
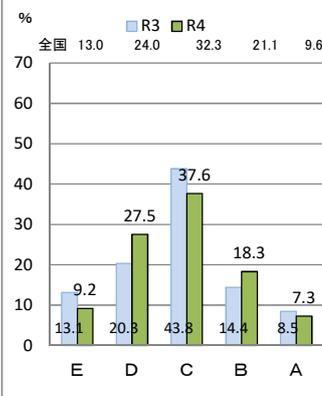
志布志市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

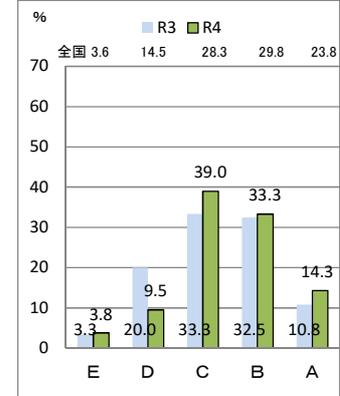
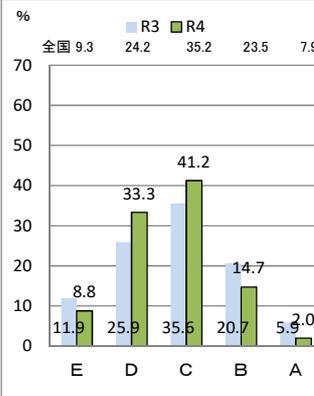
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価標準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価標準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子は、全国の割合と似た分布状況になっており、Eの児童の割合が令和3年度よりも減少していることから、全体的に体力が底上げされている。B～Dの児童の体力を高める取組が必要である。
- ・女子は、D、Eの児童の割合が令和3年度よりも減少し、Aの割合が増加している。全国の割合との比較からもA、Bの児童の割合が多く、Dの割合が少ないことから、全体的に体力向上が図られている。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、A、Bの生徒が令和3年度よりも減少し、C、Dが増加している。全国の割合と比較してもA、Bの生徒の割合が少なく、C、Dの割合が多い。C、Dの生徒の体力を高める取組が必要である。
- ・女子は、Dの生徒が令和3年度よりも減少し、A～Cが増加している。全国の割合と比較すると、Aの生徒の割合が少ない。全体的に体力の向上が図られているが、B、Cの生徒の体力を高める取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

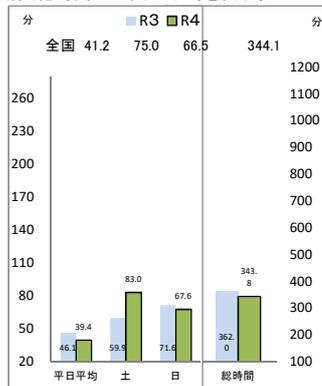
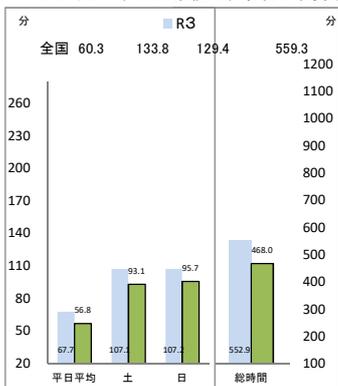
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



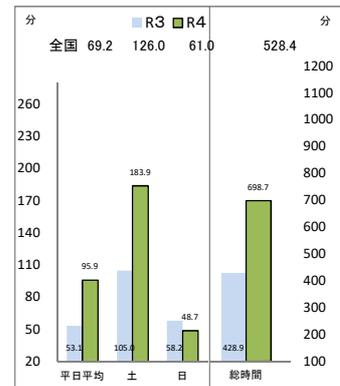
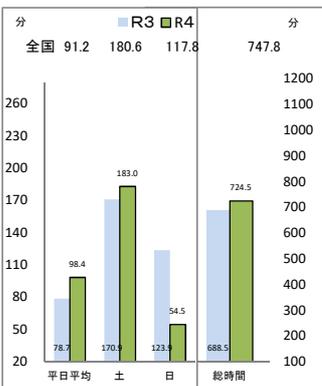
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、令和3年度から全体的に運動実施時間が減少している。1週間の総運動時間も全国の平均よりも少ない。運動やスポーツをする時間を増やす必要がある。
- ・女子は、全国の平均と比較するとほとんど差がない。令和3年度と比較すると、土曜日を除き運動実施時間が減少している。

〈現状及び課題〉

- ・男女ともに、日曜日の運動実施時間が令和3年度よりも減少している。日曜日が部活動の休日になっていることが要因と考えられる。
- ・1週間の総運動時間は、男子が全国の平均とほとんど差がなく、女子が長くなっている。また、令和3年度と比較すると増加していることから、運動実施時間がある程度確保できている。

【改善策】

- ・運動部や地域のスポーツクラブに所属していない児童生徒が全国平均と比べて多く、運動やスポーツをする時間を持ちたいと思う児童生徒も全国平均よりも少ないことから、運動やスポーツのよさを体験できるような取組を積極的に取り入れ、意識を高める。
- ・小学校においては、体育の授業が楽しい、いつも進んで学習に参加していると回答した割合が全国平均と比べると低いことから、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をより一層推進していく。
- ・全体的には体力向上が図られていると判断できることから、引き続き、各学校の「運動大好き“かごしまっ子”育成プラン」に基づいた取組を進めていく。
- ・長座体前屈、上体起こしに課題が見られることから、体力向上アドバイザー(鹿児島大学から招聘)の指導助言を基に体力向上策を検討す

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

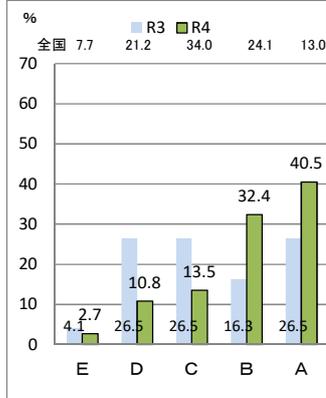
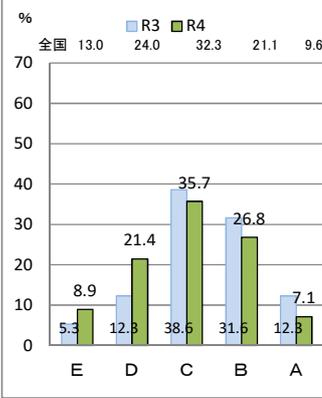
大崎町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

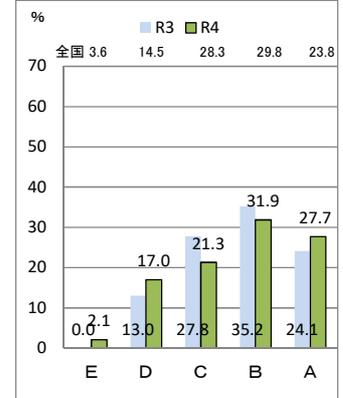
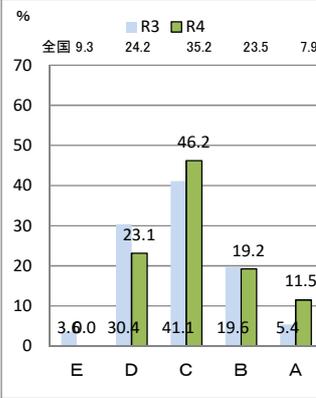
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価標準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価標準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子は、令和3年度と比較し、D、E合計の割合が12.7ポイント増加している。全体的に1段階上げる取組の工夫が必要である。
- ・女子は令和3年度と比較し、A、B合計の割合が30.1ポイント増加している。今後も継続した取組への働きかけが必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子は令和3年度と比較し、D、E合計の割合が10.9ポイント減少している。今後も継続的な取組が必要である。
- ・女子は令和3年度と比較し、D、E合計の割合が6.1ポイント増加している。D、Eの生徒の体力及び運動への興味・関心を高めるための支援が必要である。

【小学校 運動実施時間】

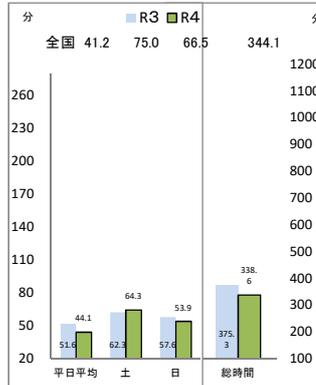
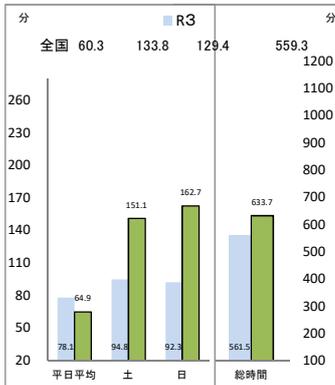
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



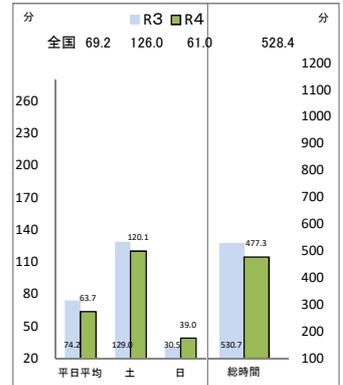
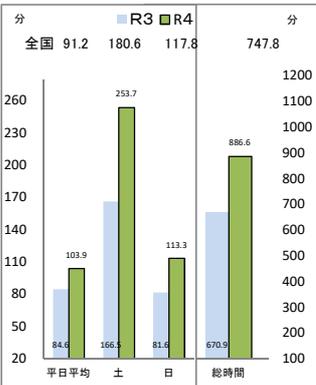
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、総時間は増加しているものの、平日の運動時間が短くなっている。
- ・女子は、平日の平均時間と総運動時間が減少している。
- ・男女とも全国平均は超えているものの、平日の運動時間の確保に向けた手立てが必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、全て昨年度より増加し、全国平均も超えていた。
- ・女子は、平日や土曜日の運動時間が減少し、全国平均も下回っている。日常的な運動時間の確保に向けた手立てが必要である。

【改善策】

【小学校】

- ・運動への興味・関心を維持・増加させる取組の継続

【中学校】

- ・生徒が動きの高まりを実感する授業改善から運動習慣の改善へつなげる指導の工夫

【共通, その他】

- ・各家庭へ、1km～500mは歩いて登下校を奨励
- ・町の広報誌で体力の現状と体力向上に向けた取組を掲載
- ・「チャレンジがしま」への継続的な取組の指導

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

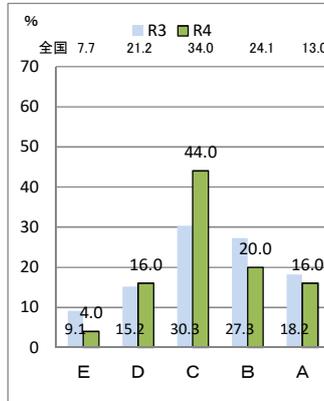
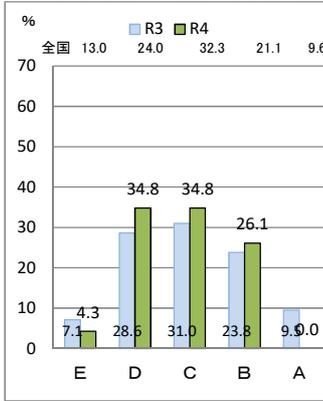
東串良町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

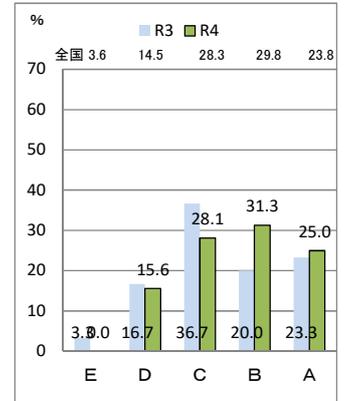
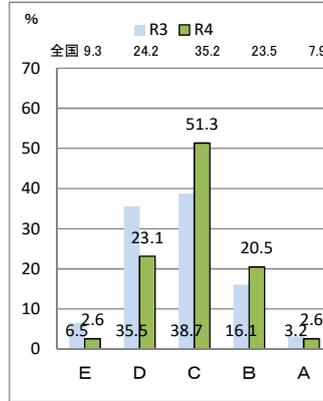
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、Eの割合が2.8ポイント減少し、Aの割合が9.5ポイント減少した。Aの割合は0%であった。
- ・女子は、Eの割合が5.1ポイント減少し、A、Bの割合がそれぞれ2.2ポイント、7.3ポイント減少した。
- ・男女とも、前年度と比べ中位層の割合が増加する結果となった。D、CをB、Aに引き上げる必要がある。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、E、Dの割合がそれぞれ3.9ポイント、12.4ポイント減少し、C、Bの割合がそれぞれ12.6ポイント、4.4ポイント増加した。
- ・女子は、E、D、Cの割合がそれぞれ3.3ポイント、1.1ポイント、8.6ポイント減少し、B、Aの割合がそれぞれ11.3ポイント、1.7ポイント増加した。
- ・前年度に比べ明らかに右寄りの分布になっており、一定の成果が見られるが、欲を言えば、男子のC、BをさらにAに引き上げたい。

【小学校 運動実施時間】

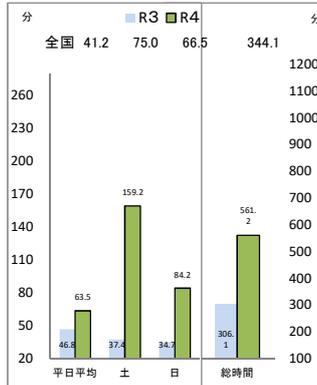
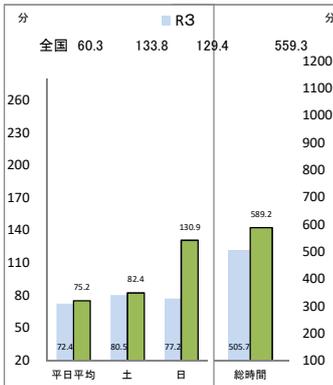
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



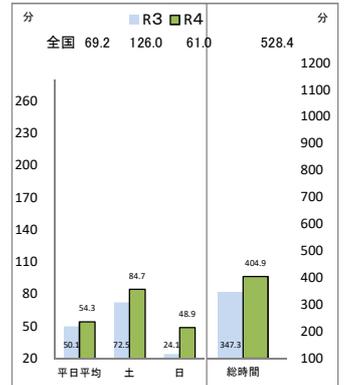
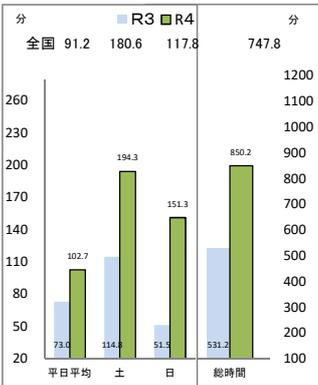
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男子、女子とも「長い」という結果であった。
- ・男子の土曜日のみ、全国平均より「短い」という結果であった。
- ・平日平均、土、日、総時間、いずれも前年度を上回る結果となった。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男子は「長い」、女子は「短い」という結果となった。
- ・平日平均、土、日、総時間、いずれも前年度を上回る結果となった。
- ・女子については、前年度と比べて改善しつつあるが、引き続き課題である。

【改善策】

【小学校】

- ・教科体育における「運動量の確保」、体カテストの事前事後指導の強化(練習及び複数回実施の推奨)

【中学校】

- ・教科体育や運動部活動等における「運動量の確保」、女子に特化した重点指導

【共通、その他】

- ・コロナ禍で意識化された体力向上の取組の継続
- ・管理職研修会での継続的な啓発
- ・町PTA連絡協議会における小中一貫共通実践事項「歩育」の充実及び一層の推進
- ・町広報誌を活用した保護者や地域への啓発

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

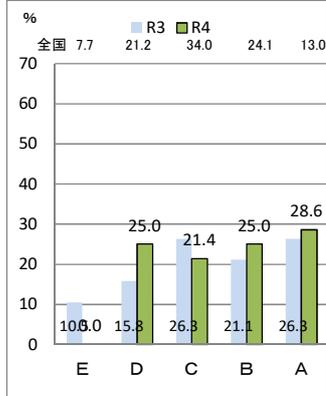
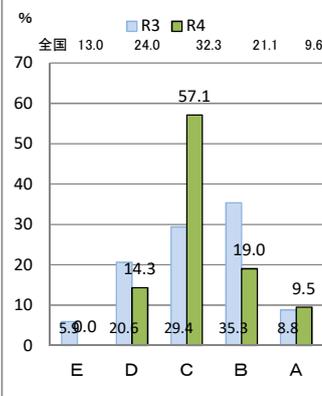
錦江町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

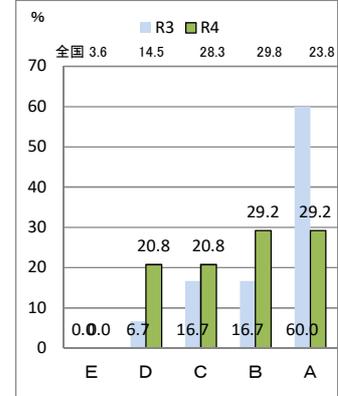
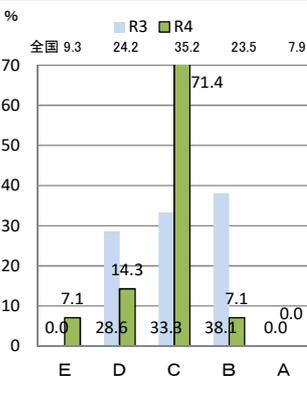
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子は、E・D・Bの割合が減少し、A・Cの割合が増えている。E・DをCへ引き上げることができており、体力は向上してきているが、更にCをBへと引き上げていく必要がある。
- ・女子は、Eの割合が大きく減少し、B・Aの割合が増加していることから、全体的には、体力が向上している。
- ・男女ともにD・Cの子供の体力及び運動への興味・関心を高め、A・Bへ引き上げる取組が今後も必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、Cの割合が38.1ポイント増加し、Bの割合が32.9ポイント減少しており、全体的には、体力低下が見られる。
- ・女子は、Dが14.1ポイント増加し、Aが30.8ポイント減少しており、昨年度と比べて全体的には体力の低下が見られる。
- ・男女ともに、運動への興味・関心を高め、D・Cからそれ以上に引き上げる手立てが必要である。

【小学校 運動実施時間】

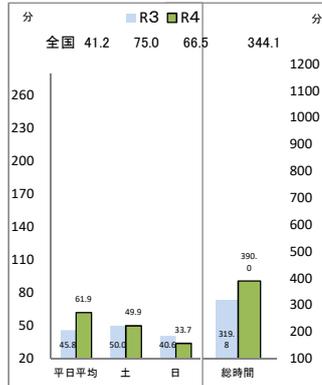
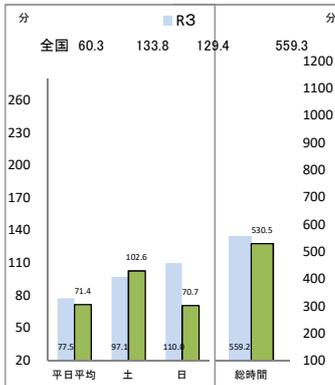
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



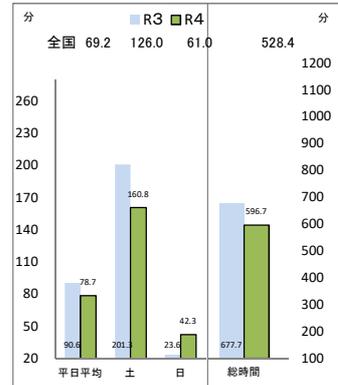
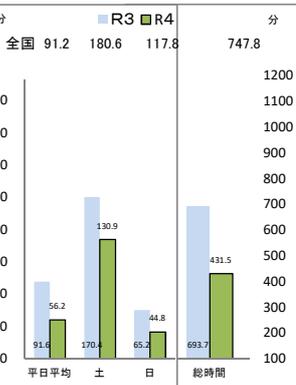
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・運動時間については、令和3年度と比較して、男子は減少しているが、女子は増加している。平日は、男子が全国平均並みで、女子は全国平均を上回っているが、土日の減少傾向が大きい。
- ・子供たちに運動への関心を高め、日常的に運動に親しませる手立てが必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男女とも令和3年度よりも運動時間が減少した。特に、日曜日は全国平均と比較して大きく減少している。女子は、総時間が全国平均を上回った。
- ・男子は全ての曜日で全国平均を下回っている。女子は、日曜日以外は、全国平均を上回っている。男子については、運動時間を延ばしていく必要がある。日曜日については、男女とも地域での自主的な運動時間の確保など、地域行事等と絡めた手立てが必要である。

【改善策】

【小学校】

- ・運動への関心を高め、体力向上を図る必要がある。「チャレンジがこしま」等の取組を通して、進んで運動を楽しむ子供の育成を推進する。また、体育の授業などで、日常的に柔軟性を高める運動を取り入れる等指導方法を工夫する。

【中学校】

- ・教科体育の充実及び運動部活動の運営・指導方法の工夫改善を行う。また、家庭や地域社会で運動に関する行事に参加する等、運動を楽しませたい。

【共通・その他】

- ・児童生徒が「運動は楽しい」と感じる授業づくりや年間を通して継続的に行う長縄などの一校一運動などの設定を行う。
- ・各学校において、児童生徒の実態に応じた体力向上に向けての具体策の検討や共通実践を図る。
- ・休日における錦江町(地域)コミュニティスポーツクラブ等への積極的な参加により、学校外でも、地域住民とともに運動を楽しむ場の設定を行う。

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

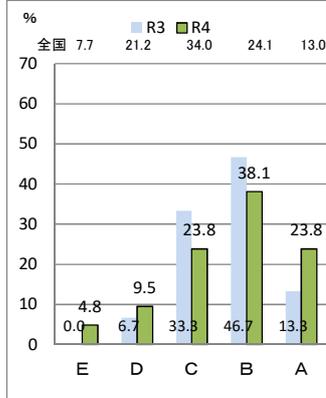
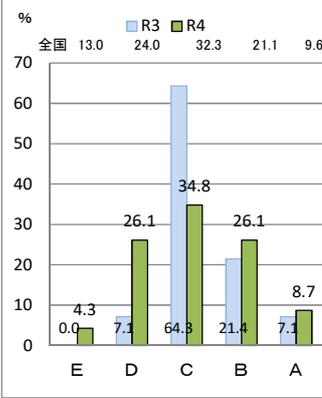
南大隅町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

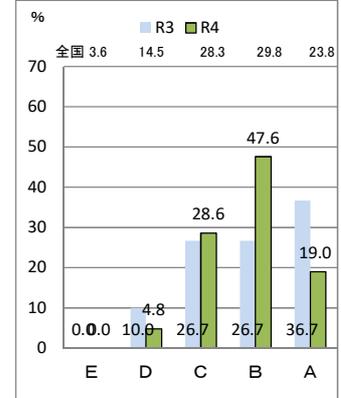
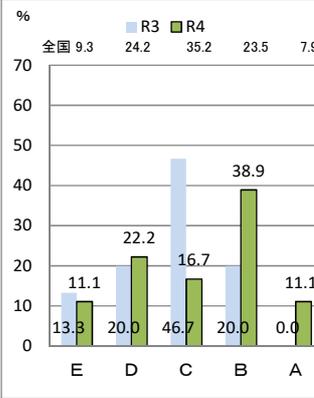
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子は、昨年度のCの児童がA, B, D, Eへと振り分けられた形となった。全体的には昨年度より運動能力は下降傾向にあるが、全国平均と同程度、県平均より若干上回る結果となった。
- ・女子は、Aが10ポイント増加しているが、DとEも増加している。全体的には昨年度より上昇傾向にある。
- ・男女ともに、DやEの児童を引き上げる取組が必要と考える。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、AやBの生徒が10ポイント以上増加し、Dの生徒が若干の増加となった。全体的には上昇傾向にあるといえる。
- ・女子は、Aが減った分、Bが増えている。また、Dの生徒が5ポイントほど減少している。全体的には、昨年度と同程度だが、全国平均よりはよい結果となっている。
- ・特に男子に、運動能力の二極化が見られるので、DやEの生徒に対し、運動能力の底上げを行う必要がある。

【小学校 運動実施時間】

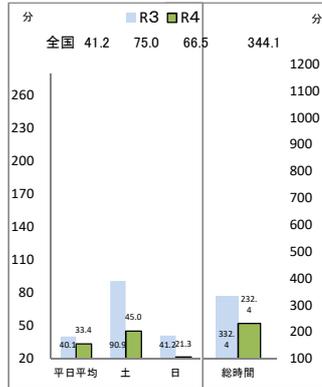
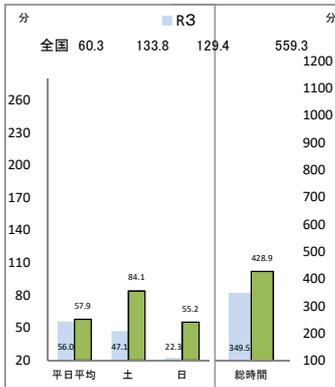
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



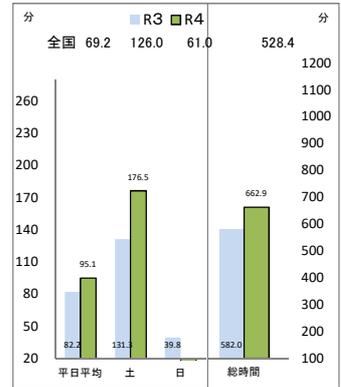
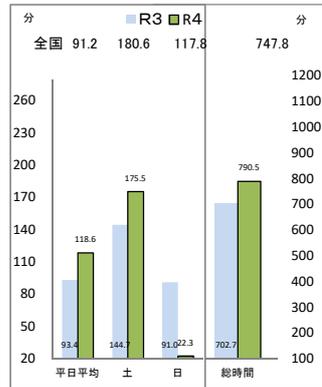
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、平日は全国平均と比べて大きな差はないが、土日はかなり短くなっている。女子は、平日は全国平均より若干短く、土日は大幅に短くなっている。
- ・男女ともに、土日の運動時間を確保する取組が必要と考える。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、平日は全国平均と比べて若干短く、土日はかなり短くなっている。女子は、平日、土曜日は全国平均より高く、日曜日は大幅に短くなっている。
- ・男女ともに日曜日の運動時間が短いことから、部活動以外の運動時間が短いことが考えられる。また、部活動をしていない生徒の運動時間の確保も必要と考える。

【改善策】

【小学校】

- ・学校における運動機会の確保と、運動に親しむ活動の計画的・継続的な実施(家庭での運動の習慣化につなげる手立て)

【中学校】

- ・部活動以外の運動機会の確保及び運動の充実に向けた、体育授業改善及び部活動の運営・指導の工夫改善のための研修の実施

【共通・その他】

- ・調査結果分析に基づいた課題改善のための年間を通じた運動の実施(一校一運動、体育授業導入時の運動等)
- ・PTAや家庭教育学級等での運動啓発活動

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

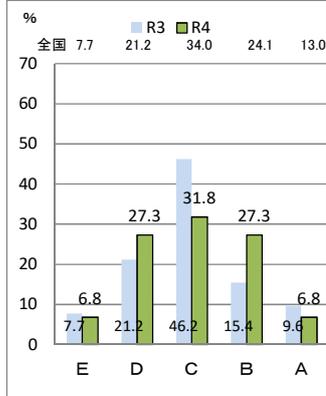
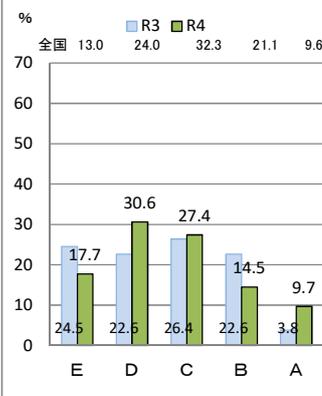
肝付町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

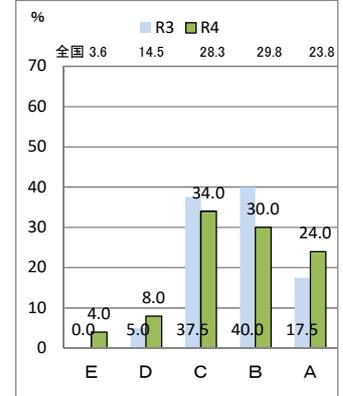
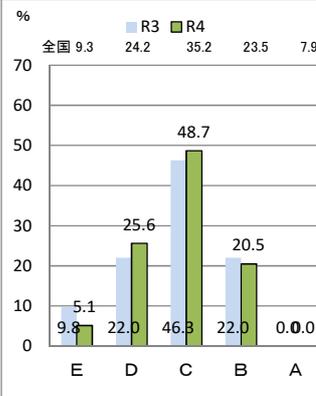
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・R3年度と比較すると、男子のEが減少し、中間層に移行している。また、Bが減少してAが増加しており、中間・下位層の底上げが認められる。女子は、Aが減少し、昨年度多かったCが、BとDに散在している。
- ・全国と比較すると、男子の上位層はほぼ同等の割合であるが、女子の上位層は約半数である。
- ・児童の体力及び運動への興味関心を高め、日常的に運動する習慣を付け、基礎体力を高めていく取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・R3年度と比較すると、男子は昨年同様、Aの該当者がいない。また、Bの割合も減少し、中間・下位層が増加している。女子はB・Cの割合が減少してAが増加しており、中間層から上位層への移行が認められる。
- ・全国と比較すると、女子はほぼ同等の割合であるが、男子は上位層がいない状況であり、ほとんどが中間層以下である。特に、男子の運動への興味関心を高め、日常的に運動する習慣を確保し、いかにして基礎体力を引き上げていくかが課題である。

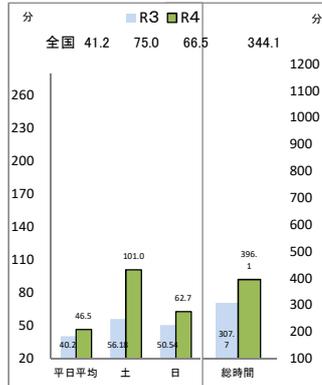
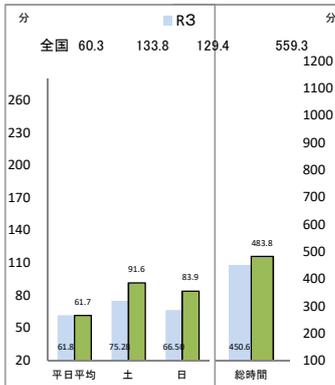
【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。

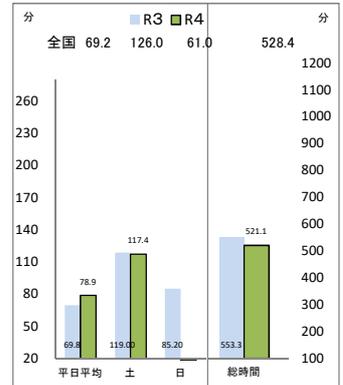
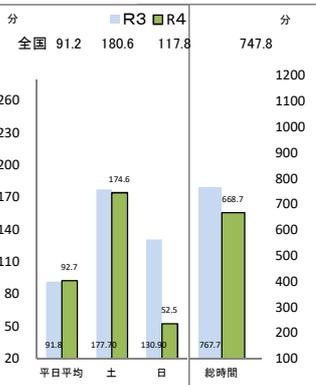


【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・R3年度と比較すると、男女ともに運動実施時間が増加しており、新型コロナウイルス感染症予防をしながら、日常的な運動ができるような工夫がなされてきた状況がうかがえる。
- ・全国と比較すると、男子はまだ全体的に運動時間が少ない状況だが、女子は少しずつ近づいてきている。全体的に、学校内外での運動する機会を確保していくことが望まれる。

〈現状及び課題〉

- ・R3年度と比較すると、男女ともに運動実施時間が減少している状況である。特に、日曜日の運動時間が減少していることから、家庭で週末に運動する機会が少なくなっている状況がうかがえる。
- ・保護者や地域とも連携しながら、学校以外での運動をする機会の確保等について検討し、働き掛けていくことが望まれる。

【改善策】

【小学校】

- ・体育の授業時におけるチャレンジタイム(体力向上を目差した5分間運動など)の推進

【中学校】

- ・保健体育の授業における個人・学校の課題となる運動の改善・工夫の推進

【共通・その他】

- ・「チャレンジかごしま」のより一層の取組推進

- ・朝の時間や休み時間を活用した外遊びの推進

- ・休日における運動やスポーツ体験を促すため、学校だよりやホームページ等で周知するとともに、地域スポーツクラブ等と連携していく。

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

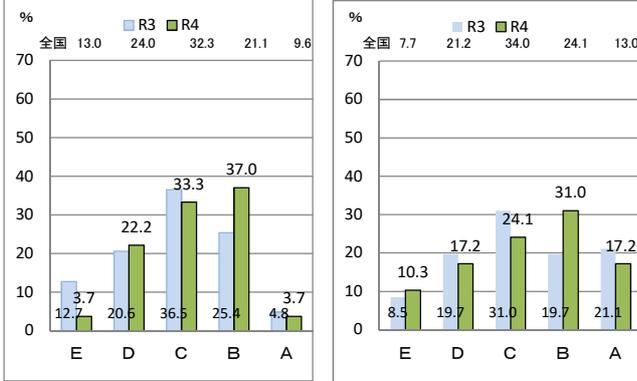
西之表市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

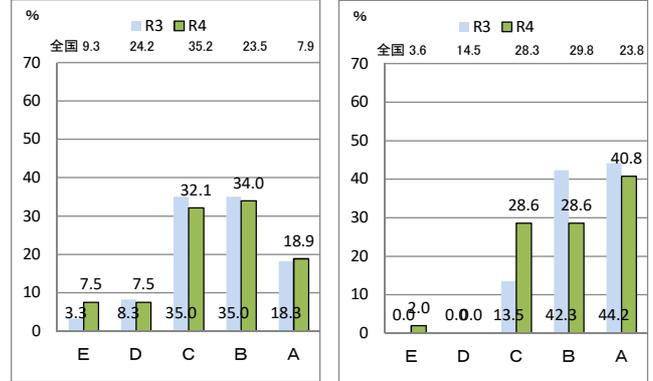
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉
 ・男子は、前年比でAの割合が1.1ポイント、Cの割合が3.2ポイント減少し、Bの割合が11.6ポイント上昇している。また、Eの割合は9.0ポイント減少した。
 ・女子は、前年比でAの割合が3.9ポイント、Cの割合が6.9ポイント減少し、Bの割合が11.3ポイント上昇している。また、Eの割合は1.8ポイント上昇した。
 ・男女ともにBの割合が大きく上昇しており、A・Bは全国平均を上回っているが、C・D・Eの児童への体力及び運動への興味関心を高めていく取組が必要がある。

〈現状及び課題〉
 ・男子は、前年比でB～Dの割合が1.0～2.9ポイント減少し、Aの割合が0.6ポイント、Eの割合が4.2ポイント上昇している。
 ・女子は、前年比でAの割合が3.4ポイント、Bの割合が13.7ポイント減少し、Cの割合が15.1ポイント、Eの割合が2.0ポイント上昇した。
 ・男女ともにAの割合は全国平均を大きく上回っているが、D・Eの生徒との体力運動能力の二極化が課題であるため、D・Eの生徒への体力向上支援が必要である。

【小学校 運動実施時間】

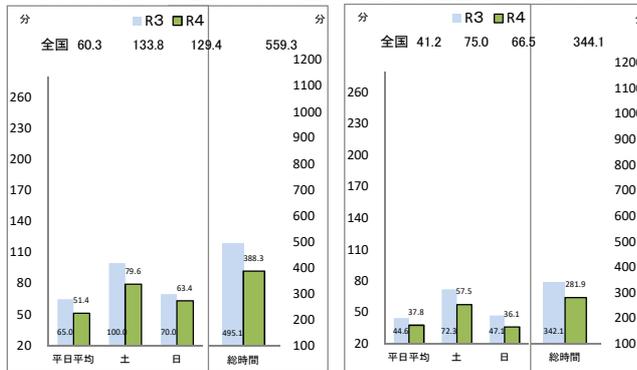
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

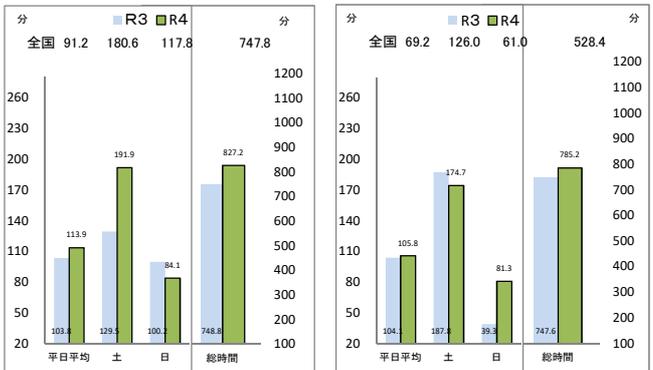
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉
 ・1週間の総運動時間は、前年、全国平均と比較すると、男女ともに短い。
 ・平日の運動時間は、前年と比較すると男女ともにほとんど差はないが、全国平均と比較すると、男女ともにわずかに短い。
 ・週休日の運動時間を全国平均と比較すると、男女ともに短い。
 ・男女ともに、運動時間の確保に向けた手立てが必要である。

〈現状及び課題〉
 ・1週間の総運動時間は、前年、全国平均と比較すると、男女ともに長い。
 ・平日の運動時間は、前年と比較すると男女ともにほとんど差はないが、全国平均と比較すると、男子がわずかに長く、女子は長い。
 ・週休日の運動時間を全国平均と比較すると、男子がわずかに短く、女子が長い。
 ・男女ともに、毎日の運動習慣がしっかりと身に付いている。

【改善策】

【小学校】

・「1校1運動」、「体力づくりカード」、「チャレンジかごしま」を活用した運動の実践による児童の運動実施時間の確保

【中学校】

・体力・運動能力テストの結果をふまえた個人の目標設定と取組への声かけや見取り、教科体育における運動時間の確保、「チャレンジかごしま」への参加

【共通、その他】

・タブレット端末で自己分析を行うなど、ICT機器の効果的な活用

・PTAや家庭教育学級での運動に関する研修の実施や、運動の日常化に向けた休日の運動及び外遊びに関する家庭との連携

・地域スポーツ大会等への積極的参加の促進、スポーツ行事や運動関連の情報発信による広報・啓発

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

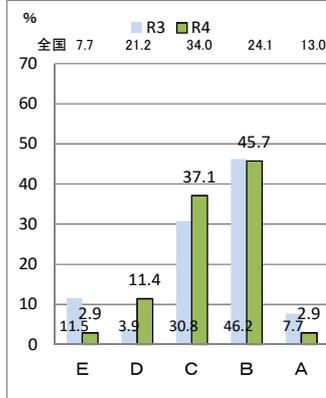
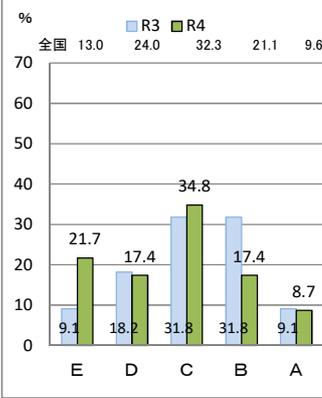
中種子町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

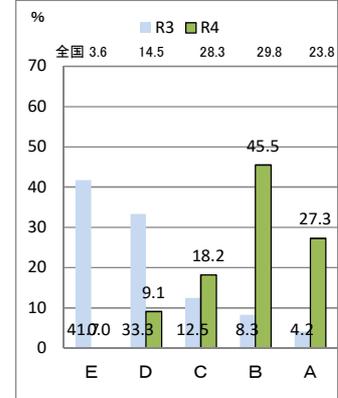
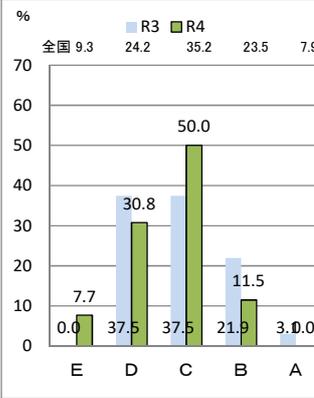
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価標準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価標準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子はEの割合が12.6ポイント増加し、Bの割合が14.4ポイント減少しており、下位層の増加が顕著に見られるため、C以上に引き上げる支援が必要である。
- ・女子はC、Dの割合がそれぞれ6.3ポイント、7.5ポイント増加し、A、Eの割合がそれぞれ4.8ポイント、8.6ポイント減少している。興味関心を高め、C、Bの児童を、Aに引き上げるための取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子はCが半数を占め、昨年度は見られなかったEの割合が7.7ポイントと増加。それとは逆に、Aが0ポイントとなった。苦学意識を持つ生徒への支援とC、Bの生徒をB、Aに引き上げる取組が必要である。
- ・女子は昨年度最も多かったEが0ポイントとなった。B、Aが大幅に増加し、全体の72.8%を占めている。取組の好事例を検証し、D、Cの生徒の引き上げにつなげたい。

【小学校 運動実施時間】

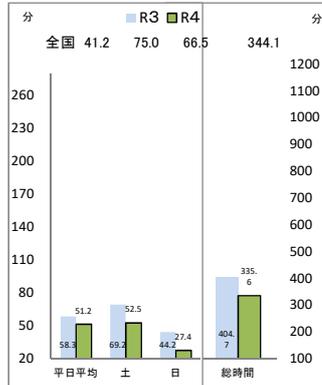
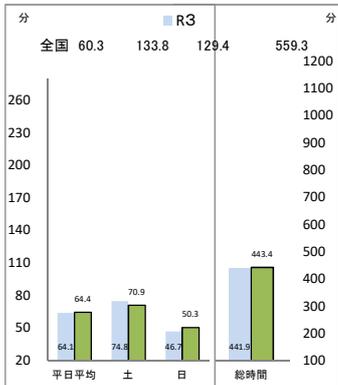
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



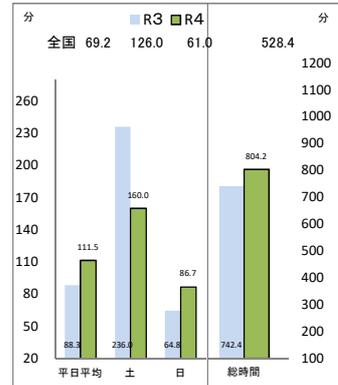
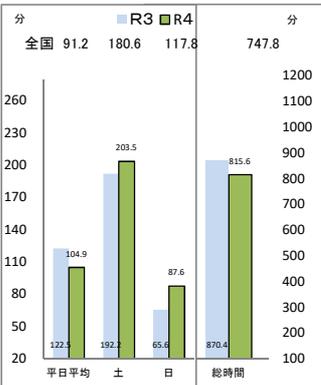
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男子が「短い」女子が「ほとんど差がない」結果であった。
- ・平日は、全国平均と比較して男女とも大きな差はみられない。
- ・土・日曜日は、女子はわずかに短いが、男子において、全国平均より短くなっている。家庭とも協力した取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男女とも「長い」結果であった。特に、女子は大幅に上回った。
- ・平日は、男子はほとんど差がなく、女子は42分長い。
- ・土曜日は、男女とも全国平均と比較してわずかに長いですが、日曜日は男子が30分短く、女子が25分長い。

【改善策】

【小学校】

- ・親子で取り組む「一家庭一運動」の取組推進による家庭との連携強化
- ・研究推進校を指定し、研究の好事例、成果等を域内小学校へ情報発信

【中学校】

- ・かごしま国体開催を踏まえ、運動に親しもうとする意識の向上

【共通】

- ・1単位時間の学習過程の作成や補強運動の取り入れ等による教科体育の充実

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

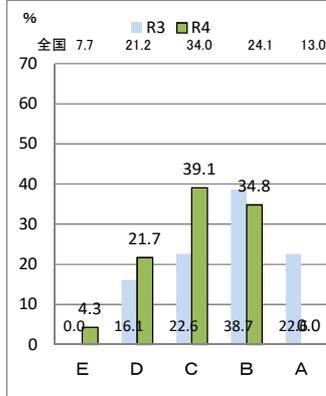
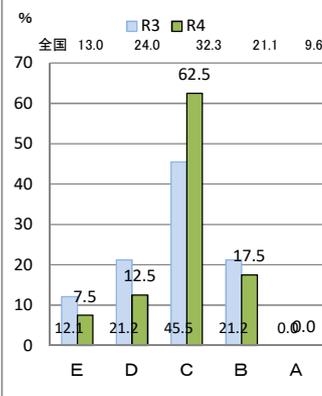
南種子町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

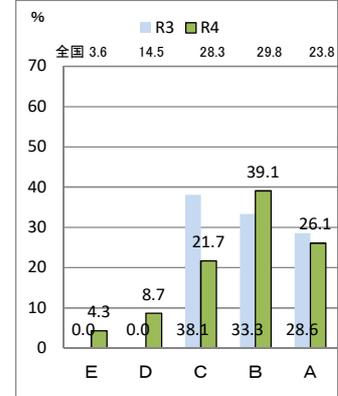
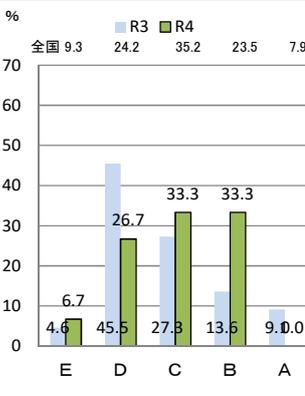
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価標準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価標準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子はEの割合が4.6ポイント減少し、Bの割合が3.7ポイント減少している。
- ・女子はEの割合が4.3ポイント増加し、Aの割合が22.0ポイント減少している。
- ・男女とも、E、D、Cの児童の体力及び運動への興味・関心を高め、Cの児童をB、Aへ、Bの児童をAへ引き上げる取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子はEの割合が2.1ポイント増加し、Aの割合が9.1ポイント減少しているが、Bの生徒が19.8ポイント増加している。E、Dの生徒の体力及び運動への興味・関心を高めるとともに、C、Bへの引き上げる取組が必要である。
- ・女子はEの割合が4.3ポイント増加し、Aの割合が2.5ポイント減少している。E、D、Cの生徒の体力及び運動への興味・関心を高め、A、Bへ引き上

【小学校 運動実施時間】

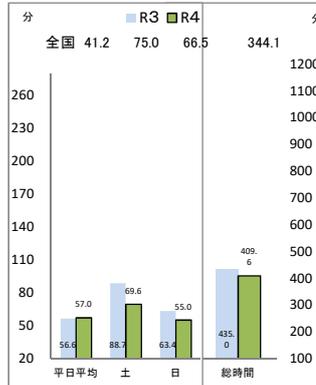
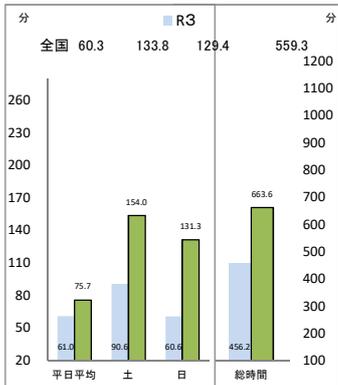
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



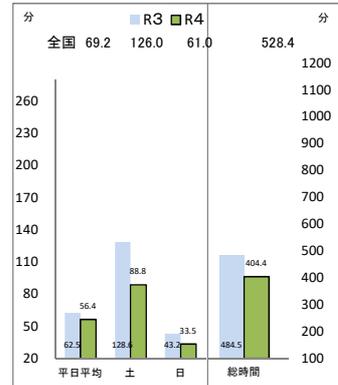
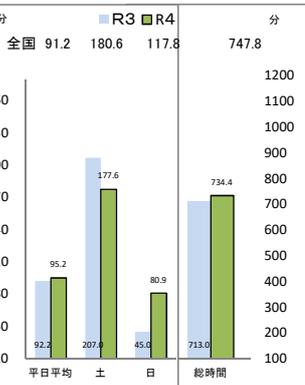
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男女ともに「長い」結果であった。
- ・平日は、全国平均と比較して男女とも「長い」結果であった。
- ・土・日曜日は、男子において、全国平均より長くなっており、女子において短くなっている。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男子が「ほとんど差がない」女子が「短い」結果であった。
- ・平日は、全国平均と比較して男子は「ほとんど差がない」女子が「短い」結果であった。
- ・土・日曜日は、男子女子ともに、全国平均より「短く」なっている。

【改善策】

【小学校】

- ・「チャレンジかごしま」への積極的な取組を推進。

【中学校】

- ・「チャレンジかごしま」や単元指導・朝の活動を通して生徒自らが運動に取り組もうとする姿勢の醸成。
- ・体力・運動能力を高めるため、体育授業における指導方法改善。

【共通、その他】

- ・児童生徒の課題に応じた運動の充実。
- ・週末も体を動かす雰囲気醸成のための家庭との連携を充実させる。(家庭教育学級、学校保健委員会、PTAの活用等)

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

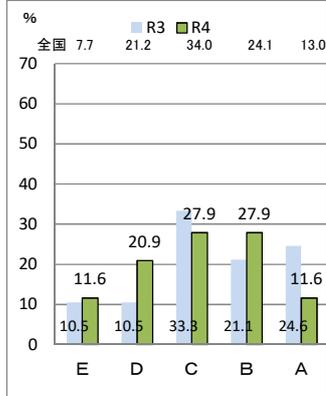
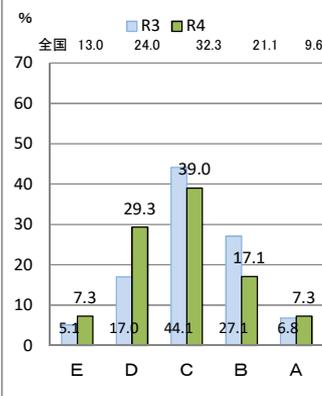
屋久島町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

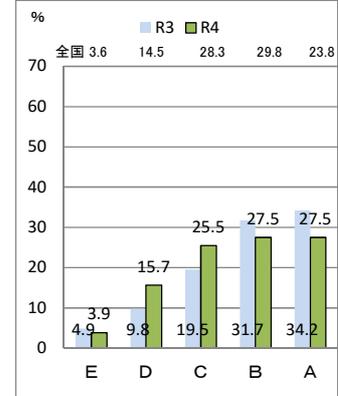
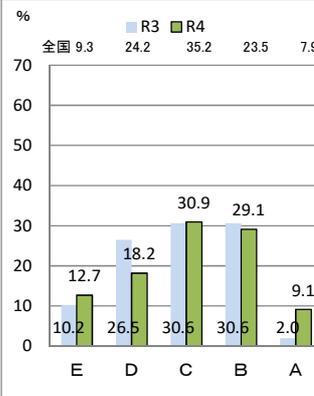
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価標準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価標準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子は、B・Cの割合が低下しており、昨年に比べDの割合が急激に増加(12.3ポイント)している。依然としてコロナウイルス感染症の影響による運動の機会が減少していることが原因と考えられる。
- ・女子も男子と同じく昨年に比べDのポイントが増加し、逆にAの割合が13ポイントも減少した。Eの児童の数も昨年に引き続き増加している。各校の課題から、ポイントを絞った取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、Aの割合が7.1ポイント増加しており、B・Cにおいては昨年同様、Dにおいては減少が見られる。しかし、Eも2.5ポイントではあるが増加が見られ、運動能力の二極化が懸念される。
- ・女子は、全体の55%をA・Bが占める結果となった。昨年度と比べ、改善が見られるが、E・Dの合計割合が昨年度を上回っているため、今後も教科体育等をきっかけとし、運動習慣を身に付けさせる取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

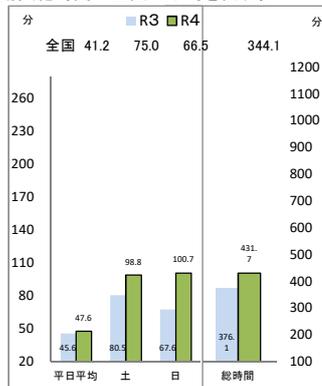
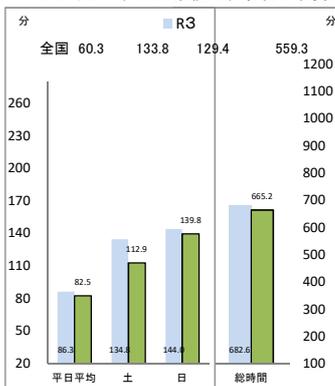
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



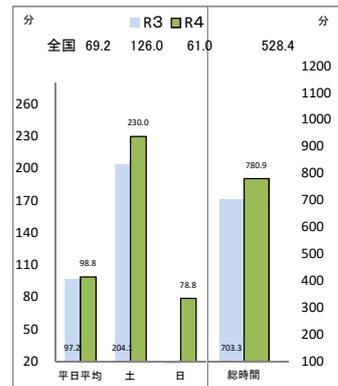
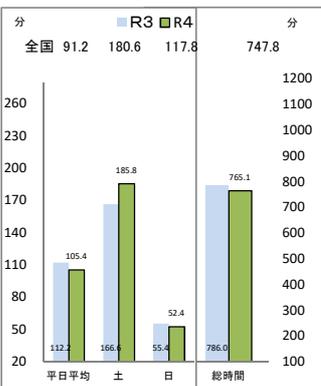
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子の運動時間は、昨年度を下回ってはいるが、平日、週休日ともに、全国平均と比較して、大きく上回った。
- ・女子の運動時間は、平日、週休日ともに、全国平均と比較すると、上回っており、昨年度との比較においても上昇した。室内での運動時間の確保など、各校の取組の成果が見られた。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、全国平均と比較して大きく上回る結果であった。総運動時間の増加に伴い、バランスよく今後も運動時間を確保する必要がある。
- ・女子の運動時間は、昨年度に比べ増加が見られた。運動時間の増加に伴い、重点的に取り組む種目を明確にし、更に運動能力のアップへの工夫が必要。

【改善策】

【小学校】

- ・〇〇タイムや休み時間等を利用した屋久島チャレンジの継続した取組(体力アップ!チャレンジがごしま、屋久島1周マラソン、外遊び等)
- ・町行事(町小学校水泳記録会・町小学校陸上記録会・町民体育祭・集落運動会)と関連付けた取組

【中学校】

- ・部活動未所属者や文化系部活動部員の運動時間確保に向けた取組の強化(生徒会主体の体力向上イベント等)

【共通】

- ・教科体育における十分な運動時間の確保及び運動の特性に応じた指導法の導入、課題種目強化のための補強運動の実施(年間を通して)

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

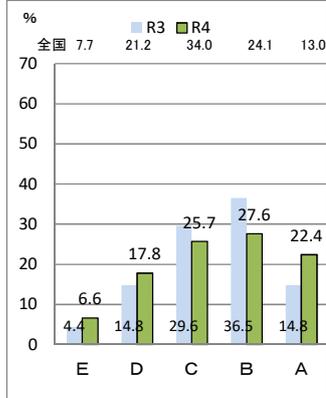
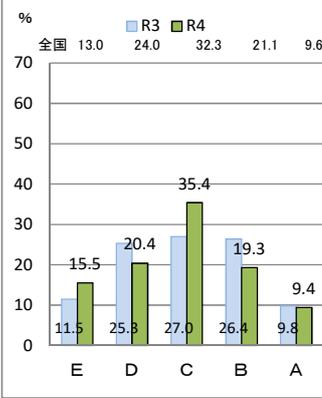
奄美市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

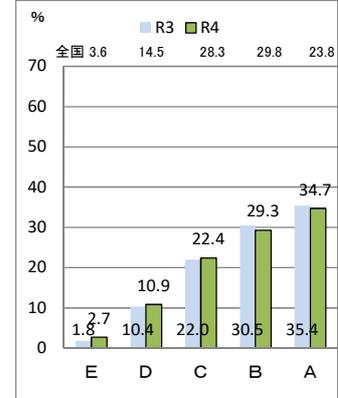
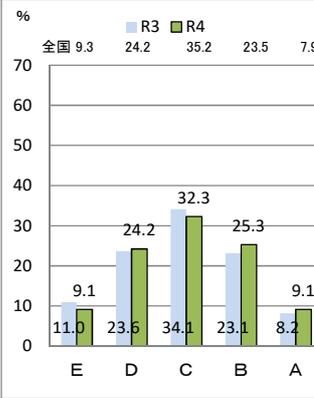
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子はE+Dの割合は0.9ポイント減少し、Cの割合が8.4ポイント増加した。B+Aの割合が7.5ポイント減少した。
- ・女子はE+Dの割合が5.2ポイント増加し、B+Aの割合は1.3ポイント減少した。
- ・男女とも、B+Aの割合が減少した。E+Dについては、男子は若干減少したが、女子は5.2ポイント増加した。体力向上に向けて、児童の運動に対する意欲を高める取組の工夫が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子はE+Dの割合が1.3ポイント減少し、B+Aの割合は3.1ポイント増加した。
- ・女子はE+Dの割合が1.4ポイント増加し、B+Aの割合も1.9ポイント減少した。
- ・E+D及びB+Aの前年度との比較は、男女ともそれほど大きな変化は見られなかった。生徒が主体的に運動に取り組めるよう、引き続き運動機会の設定等を行っていく必要がある。

【小学校 運動実施時間】

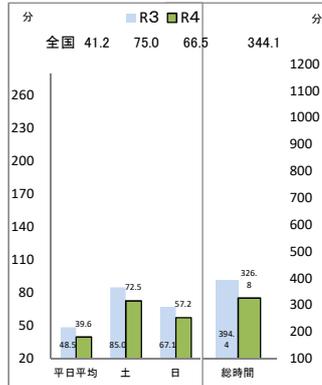
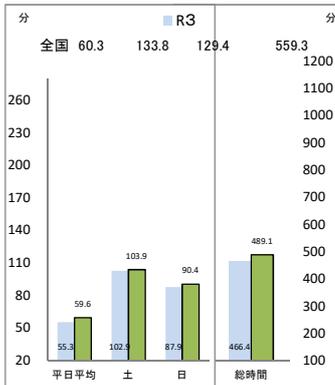
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



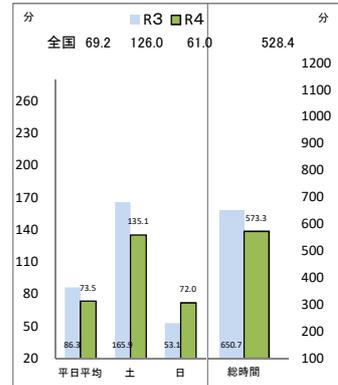
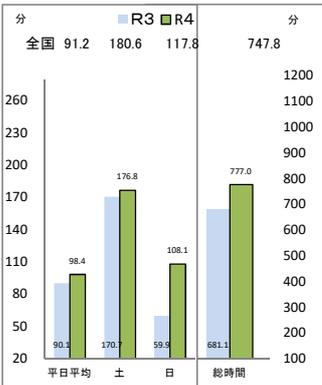
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子の平日及び土日における総運動時間は、いずれも前回より上回ったが、全国平均よりも短い。
- ・女子の平日及び土日における総運動時間は、いずれも前回より下回り、全国平均よりも短い。
- ・ゲームやテレビ視聴の時間を減らすよう家庭や地域と連携し、外遊びを奨励していく必要がある。

〈現状及び課題〉

- ・男子の平日及び土日における総運動時間は、いずれも前回より上回り、全国平均より長い。
- ・女子の平日及び土曜日における総運動時間は、いずれも前回より下回ったが、日曜日は前回は上回った。全国平均と比較すると全て長い。
- ・今後も、生徒の運動時間を確保していく工夫が必要である。

【改善策】

【小学校】

- ・各学校の全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果に基づく実態把握と改善策への取組、体力向上推進会議及び小学校体育主任等研修会等での啓発

【中学校】

- ・「運動大好き「かごしまっ子」育成推進プラン」の共通理解と共通実践

【共通、その他】

- ・一校一運動の推進及び教科体育の充実(めあての提示、主体的に運動に取り組む時間の確保、場所や場面設定の工夫、まとめの時間の設定)

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

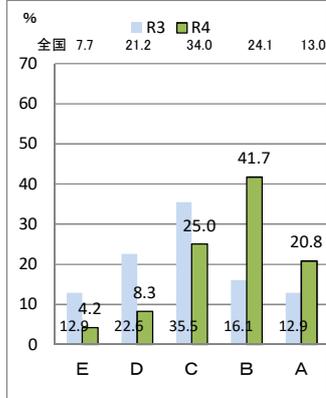
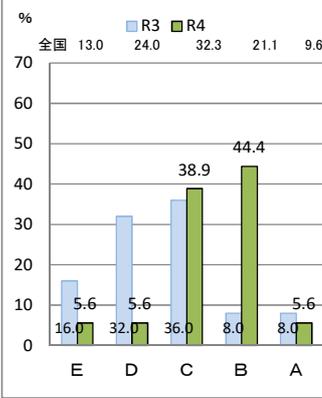
瀬戸内町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

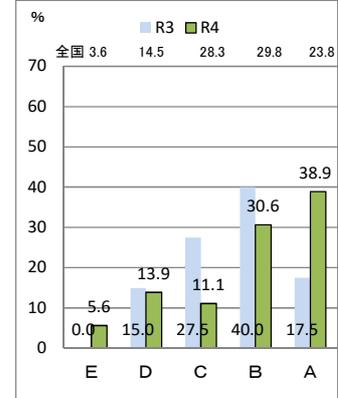
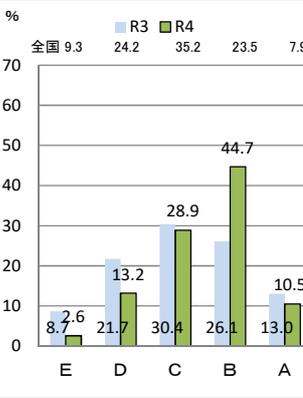
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・ 小学校男女ともに、R3年時より高い評価になっている。
- ・ 小学校男子は、上体起こし以外の全ての項目で全国・県平均値を上回っており、小学校女子は、全ての項目で全校・県平均値を上回っている。
- ・ 小学校男子については、上体起こしの数値が低い。そのため、柔軟性を高める手立が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・ 中学校男女ともに、R3年時より高い評価になっている。
- ・ 中学校男子は、全ての項目で全国・県平均値を上回っている。中学校女子は、50m走以外の項目は全国・県平均値を上回っている。
- ・ 中学校女子については、50m走や反復横跳びの数値が低い。そのため、スピードや敏捷性を高める手立が必要である。

【小学校 運動実施時間】

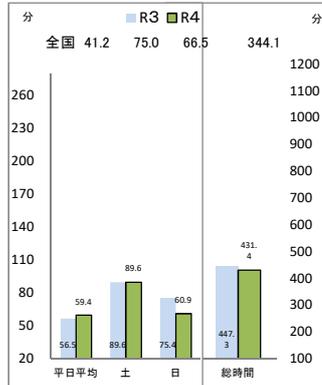
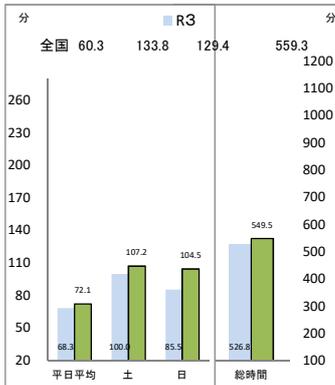
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



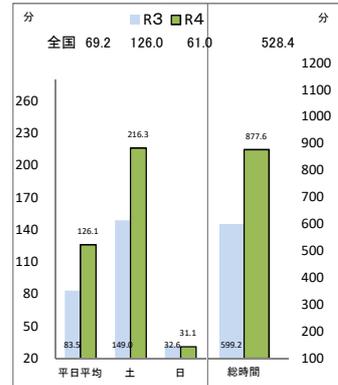
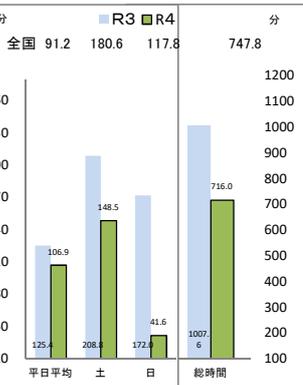
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・ 総運動時間は、男子は全国と同等・女子は上回っている状況にある。
- ・ 男女ともに「運動が好き」、「運動は大切」と回答した児童の割合は約9割を占めている。運動への興味関心の高さが、運動時間の確保につながっている。

〈現状及び課題〉

- ・ 1週間の総運動時間は、男女共に、全国平均を上回っている状況にある。
- ・ 男女ともに「運動が好き」、「運動は大切」、「体育の授業が楽しい」と回答した生徒の割合は約9割を占めている。運動への興味関心の高さが、運動時間の確保につながっている。

【改善策】

【小学校】

- ・ 「体力アップ！チャレンジかごしま」への積極的な取組など運動時間を確保することで、楽しみながら運動に取り組む子供を育成する。

【中学校】

- ・ 一校一運動や体力づくりタイム等の推進(運動実施時間の拡充、「体力アップ！チャレンジかごしま」への積極的な参加)

【共通、その他】

- ・ PTAや家庭教育学級における運動習慣(運動経験)形成の重要性に対する啓発
- ・ 社会教育課との連携による幼少時における体力づくり教室「プレ・ゴールデンエイジ事業」の推進及び充実

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

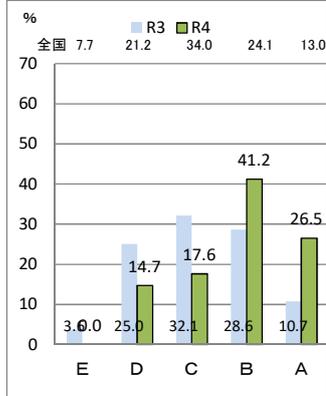
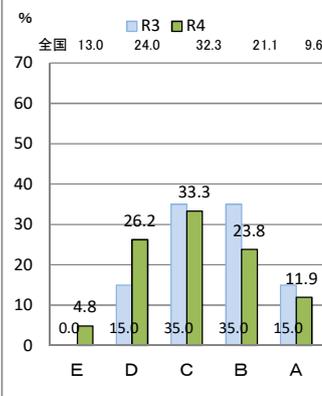
龍郷町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

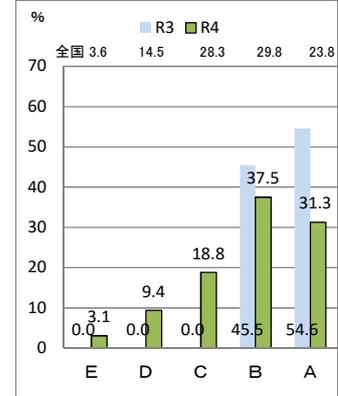
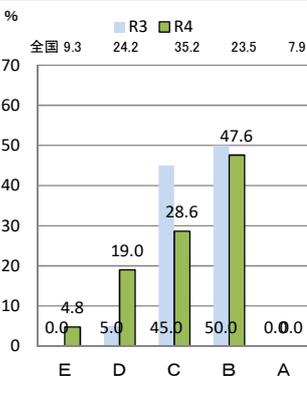
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男女ともにすべての総合評価の割合は全国の割合を上回っており、体力・運動能力の向上が図られている。
- ・課題であった柔軟性(長座体前屈)については、男女ともに改善であり、家庭と連携した取組を工夫していく必要がある。
- ・男女ともに、「D、E」の割合は低いものの、今後も引き続き体力及び運動への興味・関心を高めるための取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・A+Bの割合について、男子は引き続き全国平均を上回ったもののAが0%となっているが、女子が全国を大きく上回ったことから、運動能力や体力の底上げ・改善がなされている。
- ・持久力については、男子では全国・県を下回り、継続した課題となっていることから、今後更なる取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

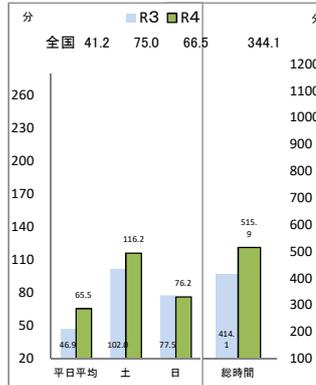
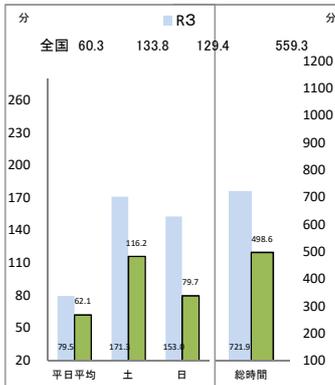
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



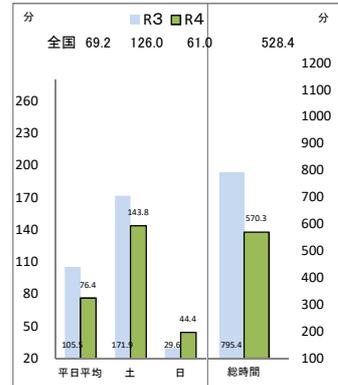
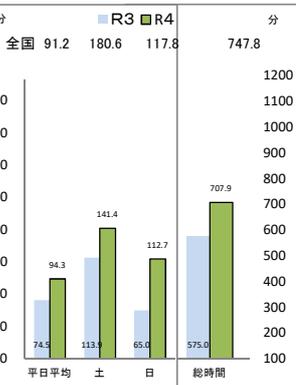
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・総運動時間は男女ともに全国より「長い」が、土日の運動時間はR3年度と比べると減少傾向にある。
- ・1週間ほとんど運動をしない女子が5.9%いることから、女子において運動習慣の二極化傾向が見られる。そのため、運動への関心・意欲を高めながら手軽かつ日常的にできる運動機会を確保する。

〈現状及び課題〉

- ・平日の運動実施時間、総運動時間ともに、女子がR3年度よりもかなり減少した。一方で、男子は全国より大きく上回る結果であった。
- ・総運動時間について、1週間ほとんど運動をしない男子が8.7%、女子は8.8%いることから、運動習慣の二極化傾向が見られる。そのため、運動への関心・意欲を高めながら手軽かつ日常的な運動機会を確保する。

【改善策】

【小学校】

・体育科学学習指導の充実(運動の特性に触れる、主運動の基礎となる感覚や柔軟性を取り入れた感覚づくりの設定)及び運動実施時間の確保

【中学校】

・運動の特性に触れ、十分な運動量を確保しながら、課題解決に取り組むことができる授業、持久力の向上につながる授業の充実

【共通、その他】

- ・「主運動の基礎となる感覚や類似した動きを経験させるための時間」の意図的設定
- ・学校訪問、町主催PTA行事、研修会等での現状説明・改善策等を含めた広報の充実

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

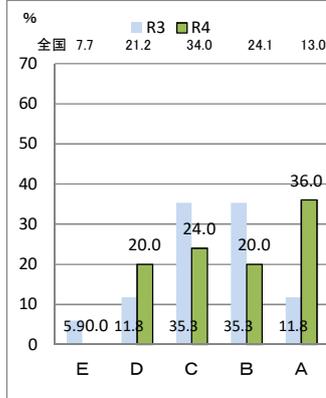
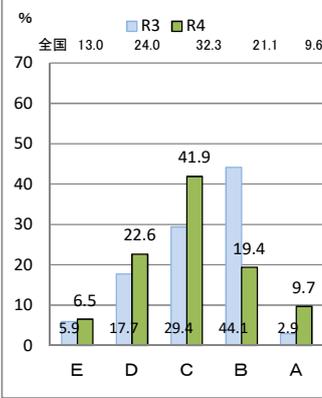
喜界町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

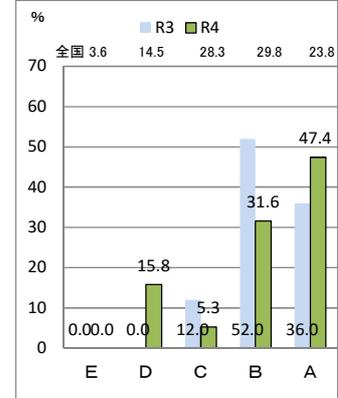
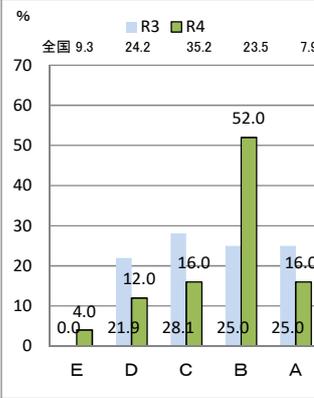
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子はCの割合が12.5ポイント増加し、Bの割合が24.7ポイント減少している。
- ・女子はAの割合が24.2ポイント増加し、Bの割合が15.3ポイント減少している。
- ・男女とも、E、D、Cの児童の体力及び運動への興味・関心を高め、Cの児童をB、Aへ引き上げる取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子はC、Dの割合がそれぞれ12.1ポイント、9.9ポイント減少しているが、Bの割合が27.0ポイント増加している。
- ・女子はBの割合が20.4ポイント減少し、A、Dの割合がそれぞれ11.4ポイント、15.8ポイント増加している。
- ・男子はBの生徒をAへ引き上げるための支援が必要である。
- ・男女とも、E、D、Cの運動への興味・関心を高める必要がある。

【小学校 運動実施時間】

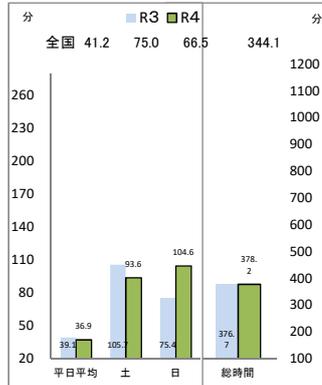
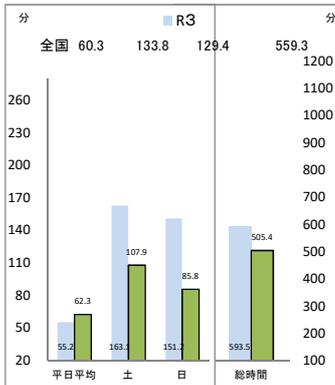
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



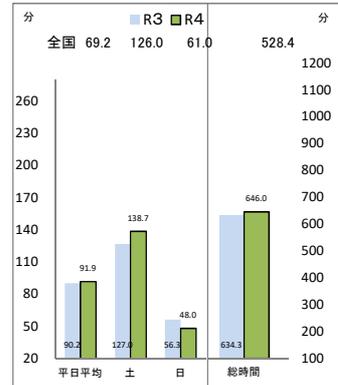
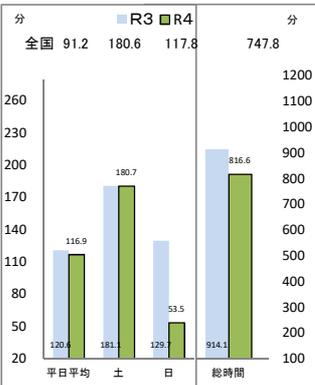
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男子が短く、女子がわずかに長い。
- ・平日は、全国平均と比較して男女とも運動時間に大きな差はみられない。
- ・土・日曜日は、全国平均より男子が短く、女子は長い。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較して、男女ともに長い。
- ・平日の運動時間は、全国平均と比較して、男女ともにわずかに長い。
- ・土曜日の運動時間は、全国平均と比較して、わずかに長く、日曜日は短い。

【改善策】

- 【小学校】
 - ・一校一運動の取組による児童の運動実施時間の確保
- 【中学校】
 - ・課題意識を高め、生徒の主体的な活動を促す教科体育の充実
- 【共通、その他】
 - ・各学校の実態に応じて設定する授業導入時の補強運動
 - ・体育指導部による児童生徒の体力向上策の検討

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

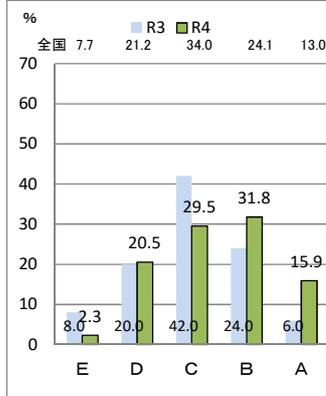
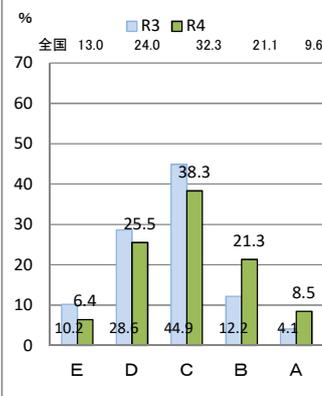
徳之島町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

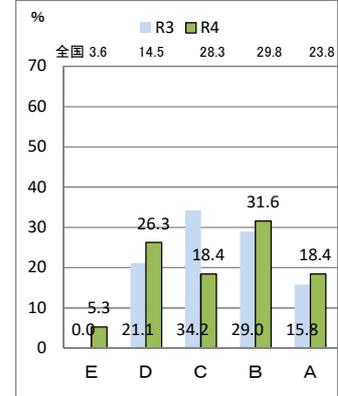
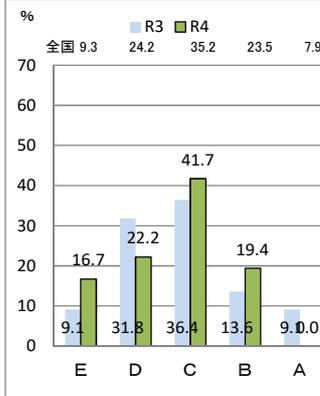
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男女ともに、A、Bの割合が増加しており、特にAについては、2倍以上の増加が見られる。
- ・男女ともに、Eの割合が減少しており、特に女子は、前年度の半分以下の割合になっている。
- ・男女ともに、前年度よりも体力・運動能力が向上している。今後は、AやBの児童の割合を更に高めていくとともに、D、Eの児童の運動への興味・関心を高める取組も計画的に実施していく必要がある。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、Aの生徒がいない一方で、Eの生徒の割合が大きく増加している。BやCの生徒をAに引き上げるとともに、Eの割合を減少させるための取組を計画的に実施していく必要がある。
- ・女子は、AとBの割合が増加しているが、DとEの割合も増加していることから、体力・運動能力の二極化が見られる。生徒一人一人が自らの体力・運動能力に応じた取組ができるよう計画していく必要がある。

【小学校 運動実施時間】

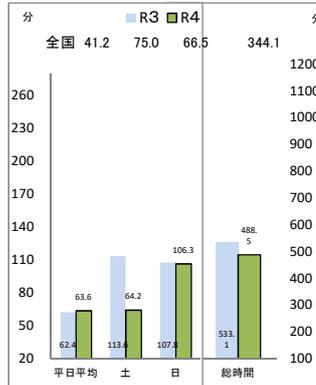
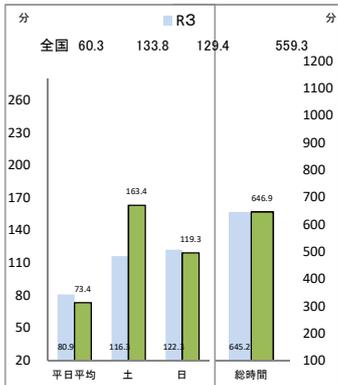
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



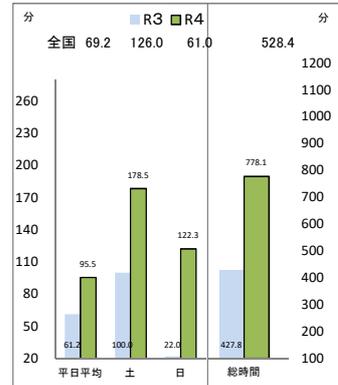
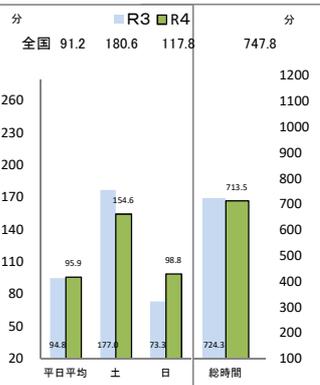
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男女ともに全国平均よりも運動を実施している時間が長い。特に、女子においては、総時間が全国よりも大きく上回っている。
- ・女子においては、土曜日の運動時間に課題が見られるが、土日合計の運動時間では、概ね良好である。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、総運動時間が全国より下回っている。土日の運動時間の減少が課題である。
- ・女子は、総運動時間が全国より大きく上回っている。特に、前年度の課題であった土日の運動時間が改善されている。

【改善策】

【小学校】

- ・調査結果の分析を踏まえ、自校の課題を解決するための「体力アップ！チャレンジかごしま」の積極的な推進を図る。
- ・全体的に体力・運動能力が向上しているため、更に児童一人一人が自らの課題解決に意欲的に取り組む教科体育の充実を図る。

【中学校】

- ・調査結果の分析を踏まえ、自校の課題を解決するための「体力アップ！チャレンジかごしま」の積極的な推進を図る。
- ・体力・運動能力の二極化が見られるため、他者との協働を通して運動の楽しさや喜びを味わうことができる教科体育の充実を図る。

【共通、その他】

- ・学校だけではなく、生涯スポーツの観点から運動にも取り組めるように、地域や行政と連携した取組の推進を図る。

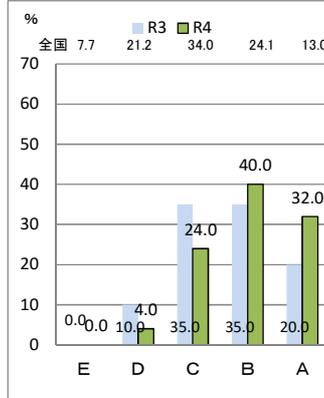
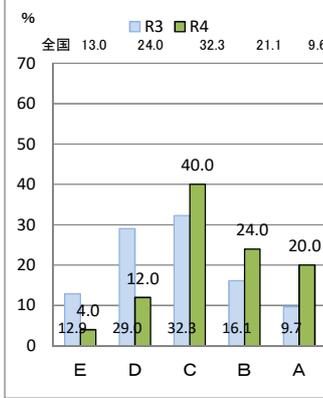
令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

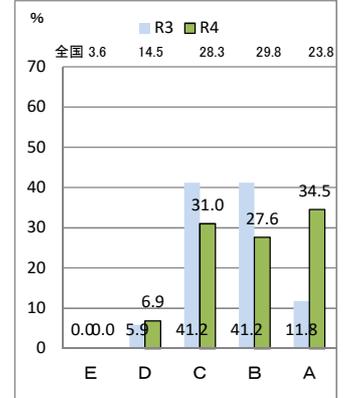
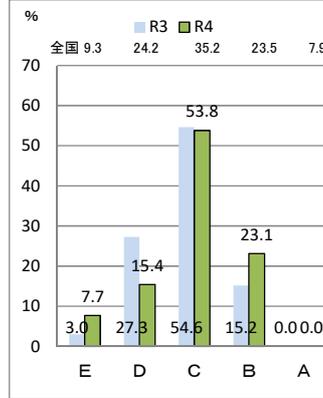
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子はDの割合が17.0ポイント減少し、Aの割合が10.3ポイント増加している。
- ・女子はCの割合が11.0ポイント減少し、Aの割合が12.0ポイント増加している。
- ・男子、女子ともに体力・運動能力の割合が増加している。継続的に運動量の確保等をして更に体力・運動能力を高めていきたい。

〈現状及び課題〉

- ・男子はA+Bの割合が増加したが、Eの割合も4.7ポイント増加している。C、D、Eの生徒の体力及び運動への興味・関心を高めるとともに、Cの生徒をB、Aへ引き上げるための取組が必要である。
- ・女子は、A+Bの割合が62.1ポイントと昨年度より9.1ポイント増加し6割を超えている。引き続き運動量の確保等をして更に体力・運動能力を高めていきたい。

【小学校 運動実施時間】

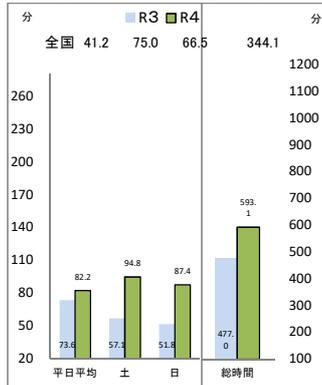
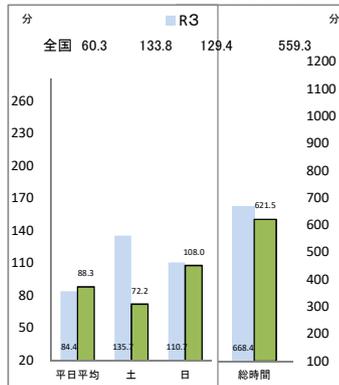
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



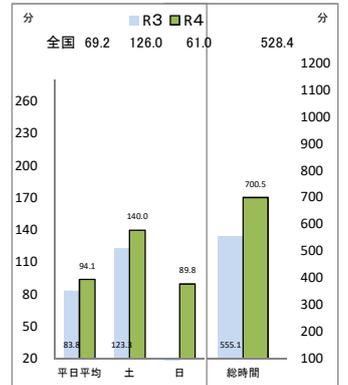
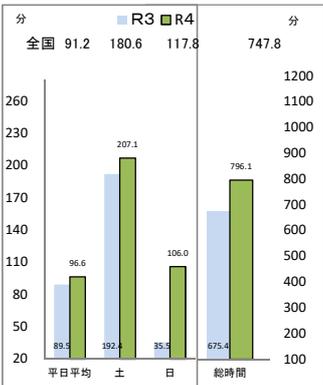
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、男子は46.9分減少している。女子は、昨年度より116.1分の大幅な増加がみられる。
- ・運動時間の確保は、運動習慣の定着にもつながる。各学校において、家庭や地域と連携を図りながら取り組ませることで、運動の習慣化を図るとともに、運動時間の確保に努めたい。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、男子は120.7分増加している。女子も、145.4分と大幅な増加がみられる。
- ・総運動時間の増加は見られるが、一方で運動時間の二極化も考えられる。各学校において、生徒の個別の運動時間を確認しながら、個に応じた指導の充実を図る必要がある。

【改善策】

【小学校】

- ・体育主任を中心とした校内の体育指導の取組を強化し、体力アップ！チャレンジかごしま等への積極的な取組を推奨したい。

【中学校】

- ・運動習慣の二極化が懸念されるため、家庭でも取り組める運動等を紹介したり、保護者に意識を高めるような研修等を実施したい。

【共通・その他】

- ・運動時間の確保や運動の習慣化を図るために、学校・家庭・地域が一体となった取組が必要である。各学校の調査結果を保護者や地域住民へ周知するとともに、その改善策について協力を求め、連携した取組を行っていきたい。

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

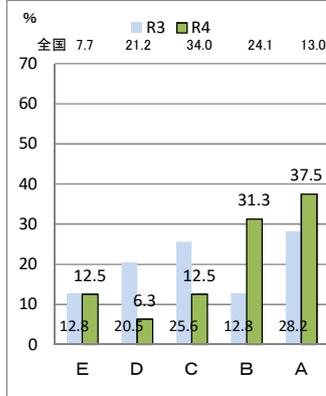
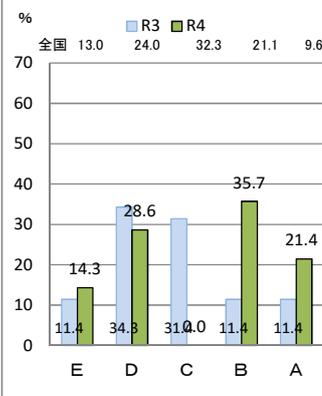
伊仙町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

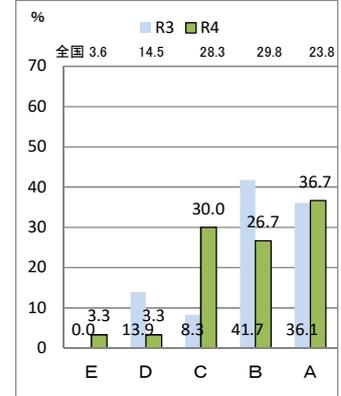
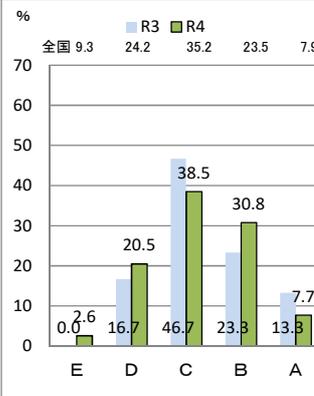
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価標準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価標準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉
 ・男子はAの割合が10ポイント増加し、Bの割合も24.3ポイント増加している。
 ・女子はAの割合が9.3ポイント増加し、Bの割合も18.5ポイント増加している。
 ・男女ともに、E、D、Cの児童の体力向上を目指し、運動への興味関心を更に高めるような取組を充実させる必要がある。

〈現状及び課題〉
 ・男子はAの割合が5.6ポイント減少し、Bの割合が7.5ポイント増加している。
 ・女子はAの割合が0.6ポイント増加し、Bの割合が15ポイント減少している。
 ・男女ともにD、Eの生徒の体力向上を目指し、運動への興味関心を更に高めるような取組を充実させる必要がある。

【小学校 運動実施時間】

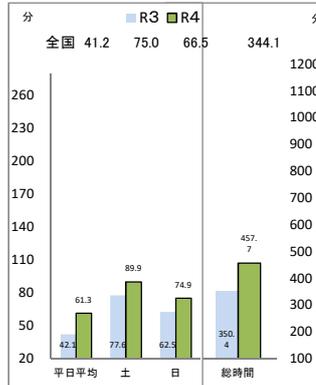
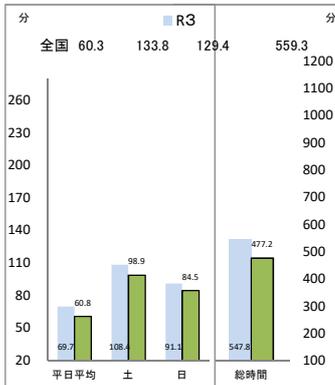
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



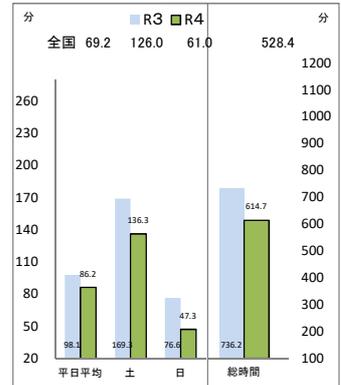
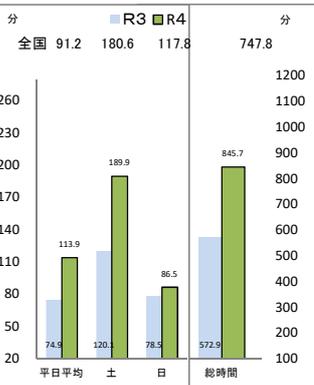
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉
 ・男子の総運動時間は全国平均と比較すると短く、R3と比較すると、全体的に減少している。
 ・女子は平日が多く総運動時間もR3より伸びており、全国平均と比較すると全てにおいて上回っている。
 ・男子は、週休日における運動時間の確保が必要である。

〈現状及び課題〉
 ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男女ともに長い。
 ・男子は、R3と比較すると平日、土・日ともに増加し、女子は全体的に減少している。
 ・女子の周期日における運動時間の確保のための手立が必要である。

【改善策】

【小学校】

・これまでの各学校の実態に沿って取り組んできた朝の体力づくりの時間などで、柔軟性を高める指導の重点化と継続的な指導

【中学校】

・朝の体力づくりの時間などに積極的に参加する呼びかけや、生徒会を中心とした主体的な活動の推進

【その他】

・PTAや家庭教育学級で、各学校の「一校一運動」の紹介と啓発の充実

・部活動がない休日に、家庭で取り組める運動の紹介と継続的な記録による評価

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

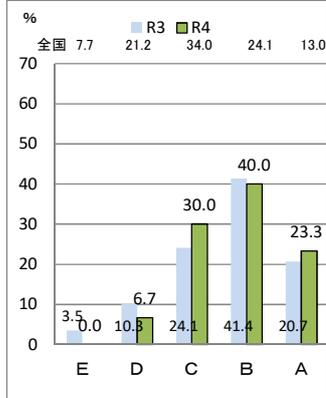
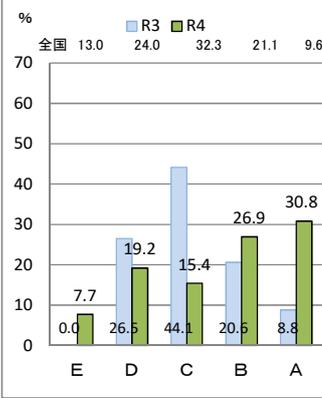
和泊町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

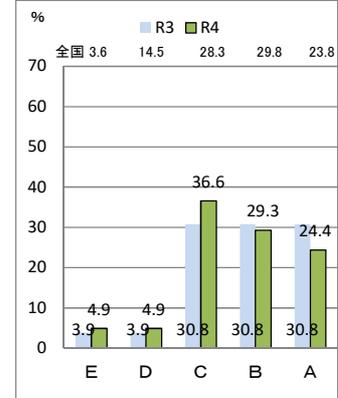
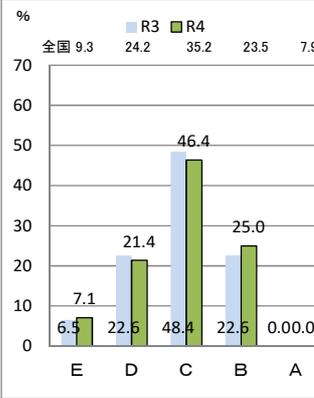
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉
 ・男子はCの割合が28.7ポイント減少するとともに、Aの割合が22.0ポイント、Bの割合が6.3ポイント増加している。
 ・女子はE、Dの割合が7.1ポイント減少するとともに、Cの割合が5.9ポイント、Aの割合が2.6ポイント増加している。
 ・男女ともに向上している。特に男子は、昨年度に比べて大きく向上しているが、E、Dの児童が一定数見られることから、C以上へ引き上げる取組が必要である。

〈現状及び課題〉
 ・男子はBの割合が2.4ポイント、Eの割合が0.6ポイント増加するとともに、Cの割合が2.0ポイント、Dの割合が1.2ポイント減少している。
 ・女子はAの割合が6.4ポイント、Bの割合が1.5ポイント減少するとともに、C、D、Eの割合が7.8ポイント増加している。
 ・男女ともに、C以上の割合は全国平均を超えている。特に女子は、上位層が減り下位層の割合が増えていることから、D、Eの生徒をC、B、Aへ引き上げる取組が必要である。

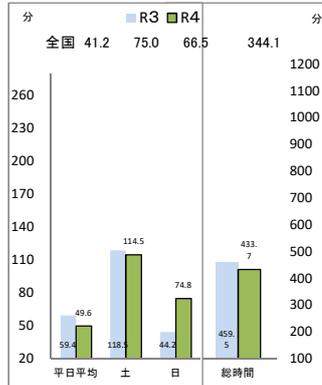
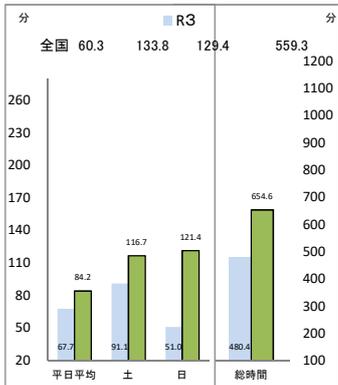
【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。

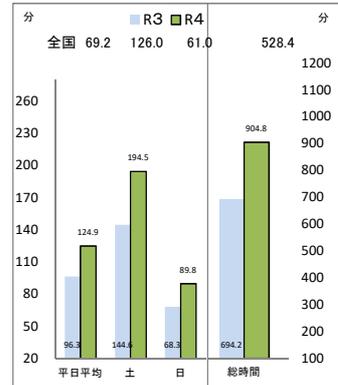
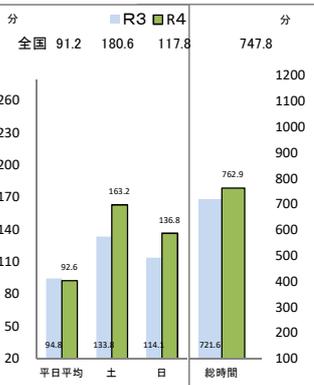


【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉
 ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較して男女ともに長い。女子においては、R3よりわずかに短くなっている。
 ・平日は、全国平均と比較して男女とも長くなっているが、女子においては、R3より短くなっている。
 ・男子の土・日の運動時間は、全国平均より短くなっており課題である。

〈現状及び課題〉
 ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較して、男女ともに長い。
 ・平日は、全国平均と比較して、男女とも長くなっている。特に女子は全国を大きく上回っている。一方で、男子においては、R3よりわずかに短い。
 ・男女ともほぼ全項目で全国平均を上回っていることから、概ね満足できる状況である。量と質の向上に取り組む必要がある。

【改善策】

【小学校】

・各学校の一校一運動や「体力アップ！チャレンジかごしま」、地域スポーツクラブ「元気！わどまりクラブ」での運動など更に連携していく。体育科授業では、資質・能力育成の3つの柱に基づいた計画的な授業改善に努める。また、運動に親しみ、楽しむ機会として、親子・地域でのスポーツ・レクリエーション・ニュースポーツの活動の充実とともに、幼保小の連携による就学前から運動好きな子供の育成にも取り組んでいく。

【中学校】

・中学校は女子の運動時間及び体力の実態が高い傾向にある。運動の日常化が図られていると考える。男子については限られた時間の中で内容・運動方法の工夫改善を図り、意欲を高め、具体的な目標をもって取り組めるよう指導していく必要がある。学校によって、一校一運動や「体力アップ！チャレンジかごしま」への取組に温度差があったことから、次年度は年間計画へ位置付けるなど積極的に取り組んでいく。

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

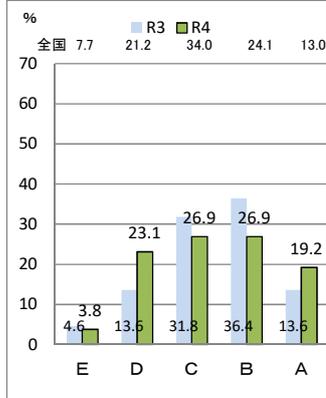
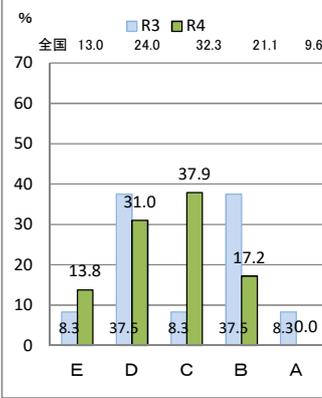
知名町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

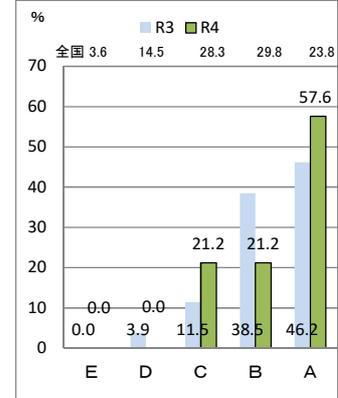
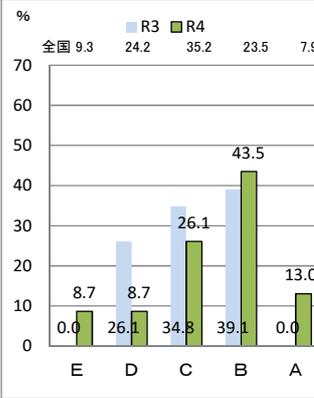
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子はEの割合が5.5ポイント増加し、Bの割合が20.3ポイント減少している。Aの児童はいなかった。
- ・女子は、Dの割合が9.5ポイント増加したものの、Aの割合が5.6ポイント増加した。
- ・男女ともにDの児童の体力向上に向け、運動への興味・関心を高める手立てが必要である。また、特にCの男子をBへ引き上げるための取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子はDの生徒が17.4ポイント減少し、Aの生徒が13.0ポイント増加し、体力の向上が伺えるが、前回いなかったEの生徒が8.7ポイント増加している。
- ・女子は、E・Dの生徒がおらず、Aの生徒が11.4ポイント増加するなど、R3に続いて、比較的高い体力・運動能力を身に付けている。しかし、R3に比べてBの割合の生徒が17.3ポイント減少していることから、Cの割合の生徒をBに引き上げるための取組・支援が必要である。

【小学校 運動実施時間】

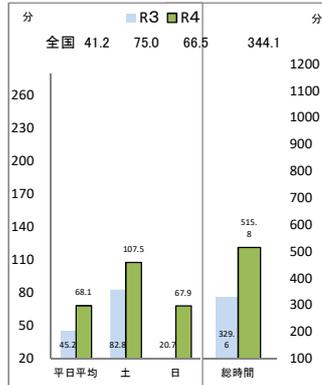
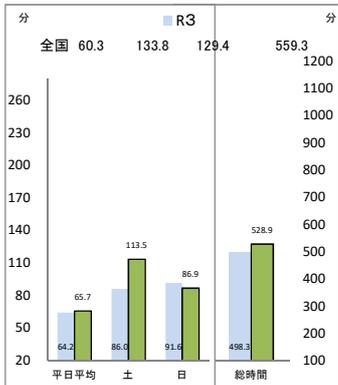
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



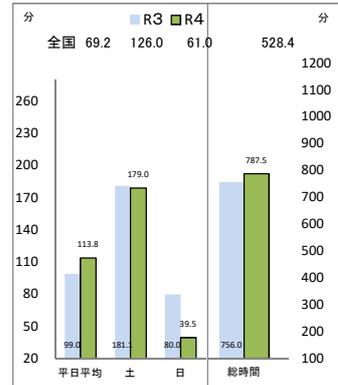
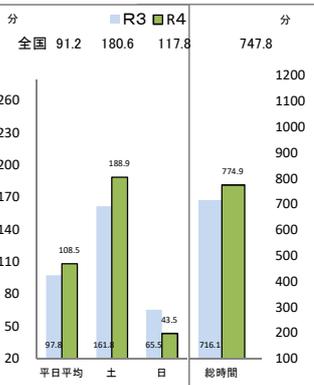
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較して、男子が「わずかに短い」、女子が「長い」結果であった。
- ・平日は、男女ともに全国平均を上回っており、特に女子は長い。
- ・土・日曜日は、女子は全国平均を上回っているが、男子はやや低い傾向にあるため、男子が土日に一層運動に親しむための手立てが必要である。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男子が「わずかに長い」、女子が「長い」という結果であった。
- ・男女ともに、平日・土曜は全国平均を上回っているが、日曜日の運動時間が下回った。
- ・男女ともにR3に比べて運動時間の増加が見られるが、今後は日曜日の運動時間の増加に向けた取組が必要である。

【改善策】

【小学校】

- ・生涯学習課、知名町体育協会、沖永良部スポーツクラブELOVEと連携し、社会体育等の取組を充実させ、生涯スポーツにつながる体験活動の推進

【中学校】

- ・休日の運動部活動の地域移行に向けた取組や沖永良部スポーツクラブELOVEと連携・協力した外部指導員の人材確保

【共通・その他】

- ・小中連絡会における体力・運動能力調査の結果分析と中学校区単位で取り組む小・中共通の補強運動の設定
- ・PTA、家庭教育学級等で運動に関する研修会の開催や親子体力づくり等の推進
- ・体育主任等研修会等における、適切な運動時間を確保するための取組や目的に応じた運動についての研修の実施

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

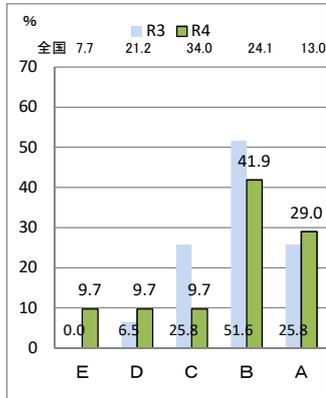
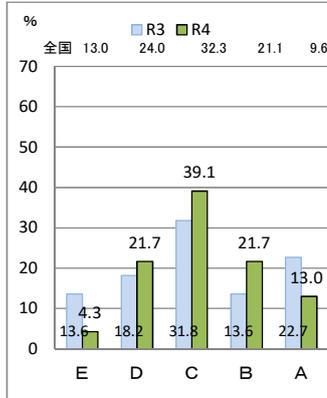
与論町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

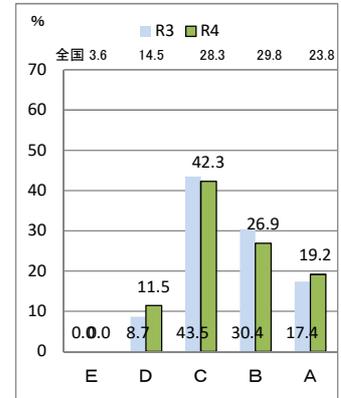
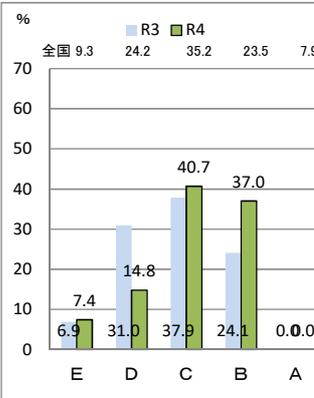
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子は令和3年度と比べてAとEの割合がそれぞれ減少することにより結果の中央化が進んだ。全国と比べると、AとBの割合が高いとともにDとEの割合が低く、体力・運動能力の維持向上が図られている。
- ・女子は全ての実技調査で全国及び県の平均を上回る結果を出すことができた。しかし、令和3年度と比べてDとEの割合が増えており、結果の2極化が進んでいる。
- ・男子は、握力と長座体前屈の結果が全国及び県の平均よりも低い。

〈現状及び課題〉

- ・男子は昨年度に続きAの生徒はいなかったが、令和3年度と比べて、Bの割合が10ポイント以上増加しているとともにDとEの合計が15ポイント以上減少しており、体力・運動能力の向上が見られる。
- ・女子は今年度もEの生徒はいなかったが、AとBの割合はそれぞれ全国及び県より低かった。女子の総運動時間は令和3年度よりも増えているが、体力・運動能力の向上のためには、継続した取組が必要である。
- ・男女共に長座体前屈の結果が全国及び県の平均よりも低い。

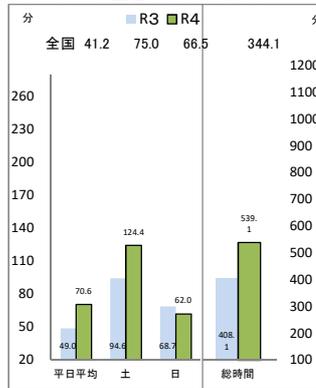
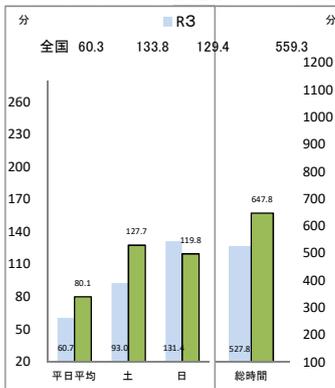
【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。

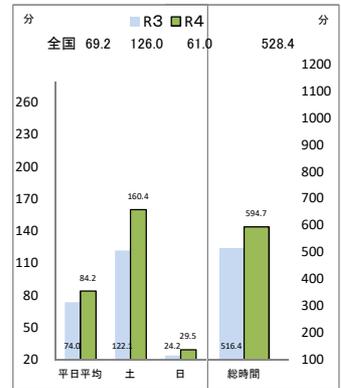
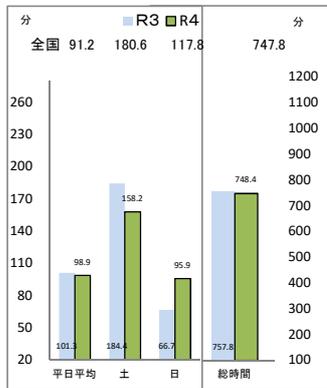


【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男女共に、令和3年度よりも平日の総運動時間が増えている。
- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比べて男子が約100時間多いとともに、女子は約200時間多かった。男女共に、運動する習慣が十分に身に付いている児童が多い。
- ・女子の肥満度がやや高かった。また、男子は全ての児童が、運動やスポーツをすることが「好き」又は「やや好き」と答えているのに対し、女子は、「嫌い」と答えた児童の割合が全国及び県よりも高かった。

〈現状及び課題〉

- ・男子の1週間の総運動時間は、県の平均よりも低かった。また、運動やスポーツをすることが「やや嫌い」又は「嫌い」と答えた男子生徒の割合は全国及び県の平均よりも高かった。
- ・女子の総運動時間は全国及び県と比べて高かった。
- ・女子は軽度肥満の割合が全国及び県と比べて15ポイント以上高かった。また、運動やスポーツをすることが「好き」と答えた生徒は全国及び県より約16ポイント少なく、「嫌い」と答えた生徒は約6ポイント多かった。

【改善策】

【小学校】

- ・教科体育の時間を中心に、運動嫌いの児童に体を動かすことの楽しさを味わわせたり、DやEの児童の運動能力向上を図ったりする取組を行う。

【中学校】

- ・自校の「運動大好き「かごしまっ子」育成推進プラン」を見直し、生徒の運動習慣・運動能力の向上を目指した取組を具体的に計画し、実行する。

【共通・その他】

- ・令和5年度は町内全ての学校で「体力アップ！チャレンジかごしま」に参加するとともに、それぞれの学校が、「柔軟性向上のために『のびしてコロナ』に挑戦する。」のように、自校の課題に関連した種目を選択するようにする。